

R363.03-Ka95ウ



1200701438744



始



事務用

一考^社

2832

27.3.18

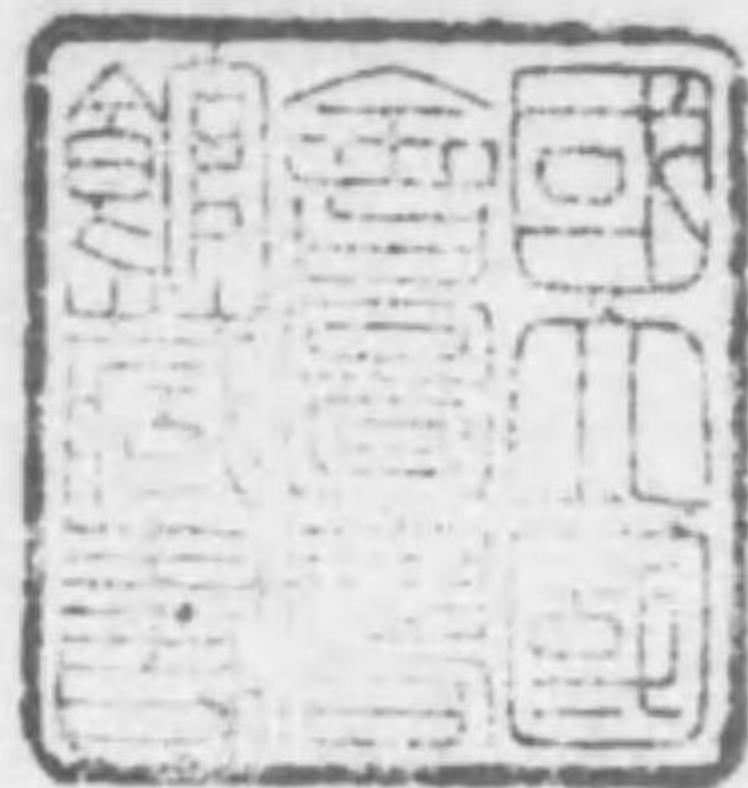
424

R
363.03
Ka957

河村只雄編

思想問題年表

東京 青年教育普及會發行



2832

はしがき

我が國現下の社會狀勢は、一般にマルクス主義の著しき退潮と所謂ファッションイズムの急速なる進展とに直面して居り、一種の反動期にあると謂はれて居る。果して然るか。

素より全面的に之を認見なりとする事は出来ない。少くとも外面的にはかく觀ぜらるゝかも知れない。而して所謂思想問題なるものも左翼思想事件の激減といふ事實よりすれば、往年に比して其の社會性を縮小しつつあるものゝ如くである。

併し乍ら、所謂マルクス主義の退潮とは抑々何であるか。それはマルクス主義乃至マルクス主義的左翼思想、それ自體の本質的な衰退、消滅を意味するといふよりもむしろ、往年吾人の見た如き一種の流行病的風潮の衰退せるを意味せるに過ぎないのであり、又一面ジャーナリズムがこれ等の主義・思想に對して曾つての如くには躍らなくなつたといふに止まる。

最近左翼思想の表面的な問題は確かに減少したが、マルクス主義並にその運動は益々陰性的となり、浸潤的となり、捲土重來が策せられて居るかに察せられる。今年七月檢舉されたコム・アカデミー事件、或は「人民戦線」の問題、更に又最近コミンテルンの新方針の下に右翼團體に潜入、巧妙なる國家主義のカムフラージュによる左翼分子の行動等々、彼等の策動の觸手は、嚴重なる取締の凡ゆる間隙から巧みに、且、

執拗に延ばされて居る。吾人は決して左翼事件の一时的減少といふ如き些末的現象に捉はれて大局を見過つてはならない。

社会は今や確かに一の轉換期に立ち、思想問題も左翼より、より多く右翼への移動を表はして居る。併しながら、前記の如く所謂右翼の中にも亦左翼の策動が介在し、兩翼陣營は頗るその複雑性を増し加へて居る。過般の二・二六事件に於ても我々はこのことを痛切に感ぜさせられた。

斯かる時、將來の問題に對して豫め備へる所あらんとする吾人にとつて、緊急缺く可からざる方途の一は過去に於ける社会の動きの跡を克明に辿ることではあるまいか。

然るに從來我が國に於て社会問題、思想問題等に關する著作刊行物の實に夥しき中に、問題乃至事件の動き・流れに沿ふて、其の足跡を記録明示せる年表書あるを聞かない。

本年表書は實に斯かる要求に應ずる意圖の下に我が國に於ける左右兩翼の思想問題、社会問題に關聯せる國內の社会的動きを、世界の動きと對比し、大正元年(西曆一九一二年)一月より昭和十一年二月、かの空前の大事事件まで四半世紀を一區劃となし其の間の年表式記録を試みたものである。それが大正元年より始められて居る所以のものはその當時から世界は特に動きはじめ、それが遂に世界大戰といふ大きな波紋となつて現はれ、亞細亞の東端にまでも大動搖を與へたといふ意味に於て大戰直前の國內並に世界の動きから取扱ふこととしたものである。

而して、まさに一個の獨立した問題を提起し來たつた學生思想問題は特に一欄を設けて之を取扱ひ、又同じく重要な社会的關心事であり、且、ありし所の小學校教員關係並に青・少年團關係の思想問題年表は別に附録として之を卷末に添へた。

編者は三・一五事件以來思想問題に直接間接關係して居り、その間得た材料を纏めてこゝに本年表となしたものであるが、何しろ、身邊匆忙裡に取纏めた關係上種々不備の點無しとせず、希くは讀者諸賢の叱正を俟つや大である。

(備考) 日附不明の事項は其月末に一括して記載することとした。

昭和十一年盛夏

編者

月日	5	8	9	10	10	11	12	12
月日	5	1					21	14
學生の動き								
國內の動き		鈴木文治我が國最初の労働組合友愛會を創設す	大杉榮、荒畑寒村兩名等中心となり無政府主義雜誌「近代思想」を創刊す、但大正三年九月廢刊、大正四年十月再刊す				朝鮮二個師團増設問題の爲め西園寺内閣總辭職す	内大臣・侍從長・桂公出でて内閣を組織す、超然内閣の出現なりとなし反對の聲強く護憲運動起る
世界の動き		ペテロスブルグに於て「ブラウダ」第一號創刊さる、この日、ソヴィエト聯邦の出版デーとなる	第二バルカン戦争始まる	伊土兩國ローザンヌの和議成る	アルバニヤ獨立を宣言す	第二インターナショナル（國際労働者社會主義者同盟）バーゼルに臨時大會を開き戰爭反對の宣言をなす		

大正元年（皇紀二五七二年・西曆一九一二年）

大正二年 (皇紀二五七三年・西曆一九一三年)

月	日	學 生 の 動 き	國 内 の 動 き	世 界 の 動 き
1	21			
2	18			
3	20			
4	3			
5	3			
6	6			
8	8			
11	8			
12	11			

桂内閣不信任の聲強く第三十議會は開會劈頭二月四日迄十五日間停會、更に二月十日に至り十二日迄三日間再び停會す

桂内閣不信任の聲益々高く第三十議會は又々停會を命ぜられ國論沸騰、騒擾を極め、新聞社、警察署、交番等四十餘箇所焼打事件勃發す

輿論の反對に遭ひ桂内閣總辭職し、山本伯政友會の後援を得て組閣す

頭山滿翁門下の柴田徳次郎「國を興し世を救ふ」ため大民俱樂部を結成す

米國加州議會、日本人土地所有禁止法案を可決の爲め我が國論沸騰し、政府攻撃さる

日本宗教大會開催さる

臺灣獨立運動事件判決下る

モロッコ佛國の保護國となる

ドイツ軍備擴張案通過す

列國相次いで軍備擴張案を通過せしめその充實を圖る

スペイン、バルセロナに總同盟罷業起る

イタリー、ミランに總同盟罷業起る

大正三年 (皇紀二五七四年・西曆一九一四年)

月	日	學 生 の 動 き	國 内 の 動 き	世 界 の 動 き
1	10			
2	16			
4	17			
7	23			
7	29			
8	7			
8	21			
8	3			
8	4			
8	6			

海軍收賄問題、シーメンス事件起り國論沸騰す

山本内閣彈劾國民大會各都市に開かる

山本内閣倒れ大隈内閣成る

ベテロスブルグのブチロフ工場労働者の集合に對する發砲事件に關して罷業勃發す

オーストリア、セルビヤに宣戰を布告す

ブラッセルの國際事務局社會主義並に反戰會議開催さる

世界戦争の脅威深刻に感ぜらるる折柄獨逸社會民主黨及び佛國社會黨は共に強き戦争反對の宣言をなす

歐洲全土に亘り社會主義者の反戰運動熾烈を極む

ドイツ、ロシアに宣戰を布告す

世界大戦に直面しドイツ社會民主黨はこれまで度々發したる戦争反對の宣言を無視し戰事公債に賛意を表す

ドイツ、フランスに宣戰を布告す

ドイツ國會議場一致戰時公債を承認す

イギリス、ベルギー兩國ドイツに宣戰す

聯合國側ロンドン會議開催英・佛・露單獨講和の反對決議をなす

大正三年（皇紀二五七四年・西曆一九一四年）

月日	8 8 8	9 9 9	10 10	11 11	12 12
月日	23 23 23	27 14	31	1 14	25 17 2
學生の動き					
国内の動き	日獨宣戰大綱編設せらる	大正元年九月創刊のアナ系雑誌「近代思想」 廢刊、但大正四年十月再刊さる 青島總攻撃開始さる 大杉榮、荒畑寒村等「平民新聞」を發刊、但 第六號にて中止す 我が軍青島占領を完了す			朝鮮増師案否決のため大隈内閣帝國議會を 解散す
世界の動き	日本參戰、愈々世界戦争となる パナマ運河開通す 第二インターナショナル、ウヰーンに大會を 開く、ロシヤ、セルビヤ、ポーランド、イタ リヤを除く凡ての黨は祖國防衛を聲明し、 事實上第二インターナショナルは解體す ボルシェヴィキの各在外支部に對し、レ ーニン、戦争に關するテーゼを發送す イタリー及びスキスの社會主義者會合、レ ーニン、戦争に對するテーゼを提案す				ロシヤ社會民主労働黨執行委員會、戦争に 關する宣言書を發表、第二インターナシ ョナルの破綻を指摘し、第三インターナシ ョナル結成の急務を表明す カール・リープクネヒト第二回ドイツ戰時 公債に反對の投票をなし問題となる イギリス、エヂプトを保護國となす

大正四年（皇紀二五七五年・西曆一九一五年）

月日	1 1	2 1	2 2	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3
月日	17	25	20	15	15	17-18	24	26
學生の動き								
国内の動き	米穀法公布さる							大隈内閣のもとに第十二回衆議院議員の總 選挙行はれ政府黨大勝す
世界の動き	大戦中、中立國の社會主義者等コペンハー ゲンに會合す 聯合國の社會主義者ロンドンに會合したる も最後の戦捷まで戦争繼續の決議をなした ると、獨・英の非難を爲せしに止る 米國ノン・パティザン・リーグ創立さる シガボールの印度人入〇〇、反英獨立運 動を起す ドイツ最初の戦争反對示威運動議會前にて 行はる 「インターナショナル」創刊さる ベルンにロシヤ社會民主労働黨大會開催さ る 國際婦人會議ベルンに於て開催せられ、 永遠恒久平和のための決議をなす ベルンに國際婦人社會主義者大會開催さる ベルンに於ける反軍國主義青年大會にて爾 後九月第一日曜を國際無産青年デーとなす							

大正四年 (皇紀二五七五年・西曆一九一五年)

月日	12	10	10	9	9	6	5	5	4
月日	10	3	5-9	25	25	17			
學生の動き									
國內の動き				所謂二十一ヶ條として知らる日支條約調印 さる	友愛會長鈴木文治米國労働者大會に出席、 東洋人排斥緩和に努力す	堺枯川、高島素之等「新社會」誌を發刊す	大正元年九月創刊、大正三年九月廢刊の アナ系雜誌「近代思想」大杉榮、荒畑寒村等に より再刊さる	文部大臣高田早苗召されて教育振興に關す る御沙汰書を賜はる	
世界の動き				ベルンに國際青年社會主義會議開催、レ ニン「第一インターナショナルの危機」を發 表す	イタリー、オーストリアに宣戰を布告し、 社會主義者ヘンダーソン、ブライス、ロバ ーツ組閣に參與す	スキス、ツインメルワルトに於て社會主義 者等の國際會議開かれ「國際社會主義委員 會」設置、新しきインターナショナル創設 運動の中心となる	第一回「國際青年デー」指令さる		

大正五年 (皇紀二五七六年・西曆一九一六年)

月日	10	10	9	9	8	6	6	6	5	5	4	3	3	1	1	1
月日	9	4			31	28	1	1	1	24-30	31	27	1			
學生の動き																
國內の動き										工場法施行さる	河上肇博士「貧乏物語」を朝日新聞に連載す 日米間に移民問題再燃、鈴木文治再渡米し て諒解に努む	大隈内閣總辭職に決す 寺内内閣成立す	頭山滿翁等對支問題につき同志を糾合し動 き始む			
世界の動き																

月日	1	2	3	3	3	3	3	3	3	4	4	4	4	4	4	5	5
月日	7	27	8	7	8	12-15	21	3	3	3	5	6	15	16	17	24-29	3
學 生 の 動 き																	
國 内 の 動 き																	
世 界 の 動 き																	

スバルタカス團参加の下に、反社會民主主義全ドイツ大會開催さる
 ロシヤの社會的不安益々加はり國內動搖し始む、労働者及び兵卒委員會創設さる
 ペトログラードに労働者の大示威運動起る
 ペトログラードに第一回警官示威運動起り暴動化し遂にロシヤ革命の發端となる
 ツァーリの政權轉覆、ミルヂェコフの臨時政府ペトログラードに設置され三月革命成る
 ロシヤ皇室ツァーリ一族革命軍のため拘禁さる
 イズヴェスチヤ創刊さる
 米國、ドイツに宣戰を布告す
 「インターナショナル」團聯邦會議開催さる
 ドイツ社會民主黨結成さる
 ベルリンに於て大ストライキ勃發す
 レーニン、スキスよりペテログラードに入る
 レーニン「革命に於けるプロレタリアの任務」なる煽動的演説をなす
 ペテログラードのロシヤ社會民主労働黨(ボルシェヴィキ)全露大會開催さる
 ミルヂェコフ政府倒る

月日	5	5	6	7	7	7	7	7	7	7	8	8	8	8	8	9	11
月日	17	19	7	16	16	18	22	3	5	23	2	7	9	9	9	9	11
學 生 の 動 き																	
國 内 の 動 き																	
世 界 の 動 き																	

米價愈々暴騰國內に社會的不安加はる
 全露農民代表者會議成立す
 セバストポール、ソヴイエット政權を獲得す
 支那、共和國となる
 ペテログラードの労働者の兵士代表ソヴイエット(勞兵會)第一回大會開催
 ペテログラードに於けるボルシェヴィキの七月暴動、ケレンスキーによつて壓倒さる
 プロシヤ普通選挙法公布さる
 ケレンスキー聯立政府なる
 スターリン大會を司會す
 ボルシェヴィキ第六回大會開催さる
 トリノの總罷業、イタリーの労働者、軍隊と衝突し、流血の慘を起す
 レーニン「國家と革命」を執筆九月脱稿す
 第三インターナショナル結成の豫備會合たるストックホルム會議開かる
 ストックホルムの第三回ツインメルワルト派大會開催さる

早稲田大學に於て學長問題に關聯して約三週間に亘る大ストライキ勃發せるも思想的背景なかりし點注目に價す、恐らく思想的に見て我が國學校ストライキ史の分水嶺を

大正六年 (皇紀二五七七年・西曆一九一七年)

月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日
12	12	12	12	11	11	11	10	10-11	9	
31	14	10	5		23	7		25-7	16	
なせるものと言ふべし										
奸商撲滅令發布さる										
<p>頭山翁門下の一人柴田徳次郎「根本的に世の建て直しを行ふべき國土養成」を目的に世田ヶ谷松蔭神社の傍に國士館を創立す</p>										
<p>ソヴィエツト政府「最高國民經濟評議會」(最高國民經濟院とも稱す)を設立す</p> <p>ロシア土地私有制廢止令發布さる</p> <p>ソヴィエツト・ロシア、銀行の國有化を布告す</p> <p>ソヴィエツト・ロシア、新結婚法の布告をなす</p> <p>ゴータ大會に於てドイツ社會民主黨成立す</p> <p>ロシア十月革命起る</p> <p>ケレンスキー政府倒れボルシェヴィキ政権を獲得十一月革命成る</p> <p>勞農政府大土地所有を即時無賠償をもつて沒收する旨布告す</p>										

大正七年 (皇紀二五七八年・西曆一九一八年)

月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日
4	4	4	3		3	3	2	2	2	1
22	10	3	10		7	5	19	5	1	28
友愛會六週年大會を開催す、この頃同會は支部百二十、會員三萬を算す										
愛國團體「大正赤心團」組成さる										
<p>フィンランド勞働革命勃發す</p> <p>米國ウィルソン大統領講和條約に對する十四ヶ條の意見を發表す</p> <p>スバルタカス團暴動のため、ドイツ人心不安を極め戒嚴令下る</p> <p>ソヴィエツト・ロシア政府、國家及び學校を教會より分離する旨の公布をなす</p> <p>ソヴィエツト・ロシア土地社會化の布告をなす</p> <p>ロシア社會民主黨第七回大會開かる此の大會に於て同黨は「ロシア共産黨」と改稱せらる</p> <p>ドイツ勞働黨の母體「平和克復の爲の勞働委員會」ミュンヘン市に於て同市の錠前職アントン・ドレクスラーによりて組織さる</p> <p>これ後にヒットラーのナチス運動に發展せるものなり</p> <p>ソヴィエツト政府モスコに遷る</p> <p>ソヴィエツト・ロシア通商貿易國營の布告をなす</p>										

大正七年 (皇紀二五七八年・西曆一九一八年)

月日	學 生 の 動 き	國 内 の 動 き	世 界 の 動 き
5			
5 5 5 5			
5 31 10 10 28 21 14 30 18 9 1		東京に於ける舊來の社會主義者によりメーデーの小集會東京に開催され、席上ロシヤ革命に對する決議行はる(メーデー記念の小集會は明治三十八年既に行はれしことあり)	ソヴィエット・ロシヤ政府は給養人民委員部に貯蔵穀物の權限を附與す パリーの軍事工場労働者大罷業をなす ロシヤ社會民主黨創始者、ゲオルギー・プレハノフ死す ソヴィエット・ロシヤ國民經濟會議第一回大會開催す メンシエヴィキ及び社會革命黨極右全く執行委員より除名さる オーストリア・ハンガリーに於て總罷業勃發す ソヴィエット・ロシヤの最初の包括的なる工業國有化令公布さる 勞農ロシヤ社會主義聯邦共和國憲法制定さる 第五回ソヴィエット大會開催さる 北部アフリカのイタリヤ植民地に暴動勃發す
8 7 7 7 6 6 6 5		米騒動の口火、富山縣の一漁村の女房連によつて起さる、一月以來米價暴騰甚しく一	

月日	學 生 の 動 き	國 内 の 動 き	世 界 の 動 き
8 9 9 9 9 8			
10 10 10 10 9 9 9 9 8			
29 7 6 6 28 25-30 1	友愛會の會員と進歩的學生との團體として「勞學會」京都に生る、河上博士を顧問格、水谷長三郎、古市春彦、福田千里、小林輝次、藤井崇治等を幹部となす	石二十四圓内外のもの遂に四十五圓までになる 寺内閣倒れ原内閣成立す、最初の政黨内閣として歡迎さる 大川周明、權藤成徳、中野正剛、高島素之、滿川龜太郎等を中心に「老壯會」結成、これ即ち急進的國家主義團體の源泉とも見るべきものなるべし	フィンランド共産黨結成さる 戰爭計畫に反對し、コンスタンチノーブルに於て兵士の暴動勃發す ブルガリヤのヴラダイスに兵士の暴動勃發す ブルガリヤに革命起る、フェルデナンド二世亡命す ウィーン及びブダペストに革命起り共和政體の宣言出づ ドイツ、スバルタカス國(カール・リープクネヒト及びローザ・ルクセンブルク等の組織したるドイツの過激社會黨)第一回全國大會を開き勞働者、兵卒ソヴィエットの創立を宣言す ロシヤ共産青年同盟結成され第一回大會開かる

大正七年 (皇紀二五七八年・西曆一九一八年)

月日	10	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	12
月日	30	2	4	5	11	23	24	30	6	12	12	23
學生の動き												
国内の動き												
世界の動き												

吉野博士と「浪人會」との神田南明俱樂部に於ける立會演説會に於て「勞學會」の學生等吉野博士擁護のため活動す
東京に於て前月京都に於て結成されし「勞學會」と同種の「勞學會」主る

デモクラシー思想の問題に關し吉野博士と「浪人會」との立會演説を神田南明俱樂部に開く

新大學令、高等學校令公布さる

吉野作造・福田徳三兩博士を中心とするデモクラシー學徒の團体・黎明會生る

ハンガリー民主政體崩壊し、カロリー政府成立す
ドイツに反亂起り、ウイヘルム二世退位
ドイツ共和國となる、これ所謂ドイツの十一月革命なり
ポーランド共和國となる
ギリシャ共產黨創立大會開催さる
ドイツ休戦條約に調印、オーストリア共和國を宣言す
レーニン「プロレタリア革命と宵教者カウツキー」を發表す
ハンガリー共產黨成立す

ソグイェット・ロシヤに労働國防會議(の・L・O)新設さる

チエコ・スロヴァキヤ共和國となる
ランカシアに總罷業勃發す

ポーランド共產黨成立す

月日	27	29	30	12	12	12	12	12
月日	27	29	30	12	12	12	12	12
學生の動き								
国内の動き								
世界の動き								

東京帝大に「新人會」生る、綱領左の如し
一、吾徒は世界の文化的大勢なる人類解放の新氣運に協調しこれが促進に努む
二、吾徒は現代日本の合理的改造運動に従ふ

この在實文社の高島素之國家社會主義に轉向す

ブラレストに總罷業勃發す
スバルタカス國の全國大會開催、ドイツ共產黨創設する
ブレメンに暴動勃發す
オーストリアに共產黨成立す

大正八年 (皇紀二五七九年・西曆一九一九年)

月日	3	3	3	3	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1
月日	11	10	2-7	1			25	21	26	17	15	15	10	8	
學 生 の 動 き	早稻田大學に思想團體「民人同盟會」組織さる 東京各大學學生普通選舉實現のため大會を開く														
國 内 の 動 き	河上肇博士個人雜誌「社會問題研究」を創刊す 社會科學雜誌「我等」創刊さる 普通選舉問題擧げし始む 「大原社會問題研究所」設立さる 朝鮮に於て所謂萬歲事件勃發す														
世 界 の 動 き	ラトヴィア國にソヴィエツト政府出現す ブレメンにソヴィエツト共和國宣言さる カール・リープクネヒト、ローザ・ルクセンブルク殺さる ドイツ國粹社會黨の母體をなすドイツ勞働黨結成、黨首はドレスキラー オランダ社會主義勞働黨創立さる バーミンガムに總罷業勃發す スバルタカス國の暴動ドイツ各地に續發す 第二インターナショナル、ベルンに於て復活す 第三インターナショナル、モスコに於て創立大會を開く ベルリンで革命的勞働者多數射殺、トウイシュ死す ハンガリーにプロレタリアの革命政府成立但四ヶ月にて倒壞す														

月日	8	7	7	7	7	7	6	5	5	4	4	4	3
月日			31	22	8	5		2	26	7	8		
學 生 の 動 き	新入會、機關紙「デモクラシー」を創刊す 「興國同志會」發會式を擧ぐ、紀平正美、鹿子木貞信兩博士講演をなす 新入會機關雜誌「デモクラシー」誌を「先驅」と改題することを發表す												
國 内 の 動 き	「改造」誌創刊さる 長崎縣松島炭坑に騒擾勃發す 黎明會同人により「解放」誌創刊、震災の際廢刊その後大正十四年十月暫時復活す 「國体の原理を闡明し、皇道を世界に布かんとすを期し」縦横俱樂部創立さる 東京十六大新聞社の勞働爭議勃發す 小學校教員優遇令公布さる 高島素之「マルクス資本論」譯譯に着手す 北一輝上海に於て「日本改造法案大綱」を脱稿す												
世 界 の 動 き	イタリー國のファシスト團成立ムッソリニ團長となる バヴァリアにソヴィエツト共和國の成立宣言さる、但その後四月三十日崩壞す 國際社會主義者會議アムステルダムに於て開催さる ドイツ勞働組合總同盟生る イタリーの四大都市にソヴィエツト組織さる 第二インターナショナル、復活後の第一回大會をアムステルダムに開催す 國際社會主義者大會ジェネフに開催さる ドイツ、ワイマール憲法發布さる												

大正八年 (皇紀二五七九年・西曆一九一九年)

月日	10 10 10	10 10	10 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	8
月日	29 23	18 10	6 27	18 16	16 6	3 1			
學生の動き	<p>民人同盟幹部の中、和田殿、淺沼稻次郎、稻村隆一、平野力三、三宅正一等新に「建設者同盟」を結成、機關紙「建設者」創刊、綱領に左の如く聲明す 本同盟ハ最も合理的ナル新社會ノ建設ヲ期ス</p>								
國內の動き	<p>友愛會は「大日本労働總同盟友愛會」と改 「大日本國粹會」創立さる 川崎造船所職工大ストライキ勃發す 足尾銅山に坑夫の大ストライキ勃發す</p>								
世界の動き	<p>米國社會黨分裂、共產黨並に共產主義的労働黨シカゴに於て結成さる エジプトに反英運動起る ヒットラー、ドイツ労働黨に入黨す ベルリンの金屬労働者並に米國の鋼鐵労働者大ストライキを起す 英國に於て鐵道従業員大ストライキを起す ドイツ共產黨大會ハイデルベルヒに於て開催さる 英國社會黨コミンテルンに加入す 北米合衆國に於て禁酒令施行さる イタリヤ社會黨ボロニヤに大會を開催、コ</p>								

月日	12 12 12	11 11	11	11 11	11 11 11
月日	22 8 5	29	20-30	16	10 8 1
學生の動き	<p>「一高社會思想研究會」結成さる 「青年文化同盟」結成、この團體は新人會の主唱のもとに早大の民人同盟、一新會、慶大の反逆社、明大のオーロラ協會、一高社會思想研究會等の糾合されたるものなり 東大の所謂進歩的學生等吉野作造博士を中心に購買組合を設立す</p>				
國內の動き	<p>稱、會長獨裁より理事合議制に、協調主義より闘争主義に轉向す 約一ヶ月に亘る東京市電ストライキ勃發す 岩手縣釜石鑛山に約六千名の大罷業勃發、我が國罷業史に初めて軍隊出動を見る</p>				
世界の動き	<p>ミンテルンに加入す 米國炭坑労働者大ストライキ勃發す イタリー社會黨總選舉に大勝す 共産青年インターナショナル(略稱キム)創立大會ベルリンに於て開催、一九二一年七月の第二回大會以後本部をモスコイに移す ソヴィエット・ロシア政府十人以上の労働者を使用するか或は五人以上の労働者を雇傭し且、機械を使用する一切の私企業を國有となす旨を布告す ワシントンに國際労働會議第一回總會開かる</p>				
労働問題やかまじき折柄勞資協調を目標に					

大正八年 (皇紀二五七九年・西曆一九一九年)

月日	學生の動き	国内の動き	世界の動き
12 12 12 7-12	<p>新人會會員數名支那滿洲シベリヤに旅行、思想的に策動す</p>	<p>財團法人協調會設置さる</p> <p>山川均、荒畑寒村等労働組合研究會を結成す</p> <p>「労働新聞」を荒畑寒村等發刊、次でL・L會を結成す</p> <p>東京市内の乗合自動車に婦人車掌を初めて採用さる</p>	

月日	學生の動き	国内の動き	世界の動き
2 2 2 2 2 2 1 1 1 1 1 1	<p>早稻田大學の學生間に下宿料値下待遇改善の「賄征伐」運動起り間もなく都下全學生間に波及し、學生動搖す</p>	<p>堺利彦、荒畑寒村等新年餘興として労働劇「停電」を平民俱樂部にて上演す、之プロ演劇の嚆矢なるべし</p> <p>世界大戦好景氣中に醸成されたる華奢の風を戒められたる詔書下る</p> <p>普選案上程、大示威行進舉行さる</p> <p>東大經濟學部助教森戸辰男「經濟學研究」創刊號に「クロボトキンの社會思想の研究」を發表、問題となり、休職を命ぜらる</p> <p>八幡製鐵所に職工の大ストライキ勃發す</p> <p>平塚雷島、市川房枝、山田わか等により新婦人協會創立、婦選獲得、女權獲得の運動に乗り出す</p> <p>普選案を民意に問ふ爲、原内閣第四十二議會を解散す</p>	<p>「國際聯盟」成立す</p> <p>勞農政府は工場プロレタリア動員令布告、事實上労働者の自由奪はる</p> <p>バルカン聯盟第一回大會開催さる</p> <p>フランス鐵道従業員の大ストライキ勃發す</p> <p>ドイツ労働黨、國粹社會黨と改名、第二回大會を開く、ヒフトラーこのとき黨首にあげられ二十五ヶ條の政綱を發表す</p>

大正九年 (皇紀二五八〇年・西曆一九二〇年)

新人會の機關誌「デモクラシー」は今月號(第九號)より「先驅」と改題す

月日	學 生 の 動 き	國 内 の 動 き	世 界 の 動 き
5 5 5 5 4 4 3 3 3 3 3 3			
2 10 4 29 13 13 1	<p>「普通選挙促進學生聯盟會」血判狀を添へて請願書を捧呈す</p> <p>東大に日本精神開明を目的とする「日の會」大川周明、鹿子木貞信兩博士を中心に生る</p>	<p>米國共産黨日本人部に在りて活動中の近藤榮藏歸國、我が國の社會主義者等を遊説しイルタック國際共産黨極東宣傳部との連絡に成功す、これ恐らく我が國に於ける共産黨運動の起原的のものなるべし</p> <p>戦後景氣の反動として大經濟恐慌襲來す</p> <p>北一輝と行動を共に爲し居たる岩田富美夫獨立して大化會を牛込區加賀町に創立す</p> <p>三月の大經濟恐慌により銀行破綻續出株式暴落、流言飛び世相騒がしくなる</p> <p>我が國最初のメーデー上野公園にて催さる十五團體一萬人参加す</p> <p>加藤一夫、宮崎龍介、島中雄三等「自由人聯盟」を作る</p>	<p>ドイツ全土にストライキ並に暴動起る</p> <p>ドイツ國粹主義者の反革命的暴動として知られて居る「カッパ」の亂起る</p> <p>尼港事件勃發、我が居留民七百餘名バルチザンのため虐殺さる</p> <p>ロシア共産黨第九回大會開かる</p> <p>ベルリンに於てドイツ共産黨成立す</p> <p>ケマルパシヤのアンゴラ政府成立す</p>

月日	學 生 の 動 き	國 内 の 動 き	世 界 の 動 き
10 10 9 9 8 8 7 7 7-8 6 6 6			
12-27 1 1-3 31 29 31 29 19-6 21	<p>歩的學生の聯絡をなす</p>	<p>高島素之の「資本論」翻譯完成し祝賀會開催さる</p> <p>權藤成郷を中心に右翼團體「自治學會」結成さる</p> <p>衆議院正門に何者か爆彈を投げ世間を騒がす</p> <p>大杉榮、上海に潜行、コミンテルン極東宣傳部員と連絡をとり我が國赤化の資金を受け歸國せりと傳へらる</p> <p>暴風雨の拂曉に第一回國勢調査行はる</p>	<p>第二回國際労働會議開かる</p> <p>第二回コミンテルン大會モスコにて開催二十一ヶ條の加盟規約決定さる</p> <p>第一回國際主義婦人大會開催さる</p> <p>大ブリテン共産黨創立さる</p> <p>イタリー労働者ミラノ、トリノの工場を占領す</p> <p>ポーランドの臨時革命委員會成立す</p> <p>ベルシヤのギリアンに革命暴動勃發、邊にギリシヤ・ソヴイェット政府成立す</p> <p>バクー東方民族大會開催さる</p> <p>ドイツ獨立社會民主黨ハルレ大會に於て分裂す</p>

大正九年（皇紀二五八〇年・西曆一九二〇年）

月日	10	11	12	12	12	12
月日	10	11	12	12	12	12
学 生 の 動 き	18		8	10	25	
国 内 の 動 き						
世 界 の 動 き						

学 生 の 動 き
 新人會機關誌「先驅」は今月號（第八號）より「同胞」と改題さる
 東大に「帝國大學新聞」創刊さる

国 内 の 動 き
 大杉榮、近藤榮藏、高津正道等労働運動社を開設、機關紙「労働運動」を創刊し共產主義の宣傳を始む
 堺利彦、大杉榮、山川均等を中心とする日本社会主義同盟創立大會、神田に舉行さる、但、直に解散を命ぜらる

世 界 の 動 き
 英國炭坑夫賃銀大ストライキ勃發す
 第一回國際聯盟會議開催さる
 マルクス・エンゲルス研究所モスコに創立さる
 全露ソヴィエット大會モスコに於て開催さる

大正十年（皇紀二五八一年・西曆一九二一年）

月日	1	1	1	2	2	2	2	3	3	3	3
月日	1	1	1	2	2	2	2	3	3	3	3
学 生 の 動 き	17	29		2	8	8	13	3	16	23	27-28
国 内 の 動 き											
世 界 の 動 き											

学 生 の 動 き
 特殊部落解放問題を中心に「黎民創生會」なる學生團體早稻田大學の學生間に生る

国 内 の 動 き
 週刊「労働運動」を大杉榮、近藤榮藏、高津正道等復活再刊す
 國粹會關東の親分として知られたる河合經三郎獨立して新に「大和民労働會」を起す
 皇太子殿下（今上陛下）歐洲諸國御巡啓の爲軍艦香取に御便乗演習御出帆遊はさる
 足尾銅山に大ストライキ勃發す

世 界 の 動 き
 イタリア共産黨創立さる
 勞農政府ゴスプラン（國家計畫委員會）を設置す
 第二回インターナショナルウィーンに於て創立す一名ウィーン聯合と稱す
 ロシヤの貴族にして急進社会思想家ピーター・クロボトキン公没す
 勞農政府は従來の穀物徵發制度を廢し、見積取獲の一割を現物税として課税することとなる、又工業についても之に似たる私有財産を或程度是認せる政策を實施せり、これ新經濟政策（ネップ）として知られ居る政策の一表現なり、ロシヤの經濟狀態はこれより著しく好轉す
 ソ聯邦クロンシュタットにソヴィエット政府

大正十年 (皇紀二五八一年・西曆一九二一年)

月日	7	6	—7	6	5	5	5	5	5	4	4
2-21	23	-12	9-15	28	21	9	1	1		24	
學 生 の 動 き	早稻田大學に於て講師佐野學指導のもとに學内に「文化會」なる思想團體生る										
國 内 の 動 き	<p>山川菊榮、堺眞柄、伊藤野枝等「赤潮會」を設立し左傾思想の宣傳をなす</p> <p>第二回メーデー行進、東京、大阪、足尾、神戸等の各地に於て舉行さる</p> <p>政界・學界等の名士により「新日本協會」設立さる</p> <p>社會主義同盟第二回大會開催さる</p> <p>國家社會主義の高調を目的に高島素之一派、大衆社を創立し週刊紙「大衆運動」を發行、同年八月三日まで續刊、これ悉らく「大衆」なる言葉を社會運動上に使用し出したる最初のものなるべし</p> <p>「社會主義同盟」解散を命ぜらる</p>										
世 界 の 動 き	<p>中國共產黨並にチエッコ共產黨成立す</p> <p>モスコに第二回國際婦人共產黨員大會開催さる</p> <p>第三回コミンテルン大會モスコに於て開催さる</p> <p>第一回赤色労働組合インターナショナル世界大會開催さる</p> <p>スペイン共產黨成立す</p> <p>の食糧政策に對する不平農民の叛亂勃發、タンボフ、シベリヤ各地、コーカサス、ウクライナ等にも亦一揆叛亂起る</p>										

月日	10	10	9	9	9	9	8	8	8	8	8	7	7	7	7
8	8	28	16	12	3	23	23	21	13	1			20	14	
學 生 の 動 き	<p>新入會機關紙「同胞」を第八號にて廢し「ナロード」と改題・發刊す</p>														
國 内 の 動 き	<p>大原労働科學研究所大阪より移轉し倉敷に開所さる</p> <p>「國民共產黨」結成、別名東京共產黨とも稱し、我が國に於ける最初の共產黨なり</p> <p>暴利取締勸行さる</p> <p>皇太子殿下(今上陛下)歐洲より御歸朝遊ばさる(御渡歐御出發は三月三日)</p> <p>鈴木文治により「日本労働學校」開校さる</p> <p>安田善次郎翁大磯別邸に於て朝日平吾の爲に刺殺さる</p>														
世 界 の 動 き	<p>第二回共產青年インターナショナル大會モスコにて開催され、工場細胞の問題起る</p> <p>ロシア飢饉救済運動始まる</p> <p>赤色スポーツ、インターナショナル創立、本部をモスコに設置す</p> <p>蒙古に革命勃發、人民中央政府成立す</p> <p>米國西ヴァージニア炭坑夫の大ストライキ勃發す</p> <p>タンナ・ツワの人民革命政府組織さる</p> <p>ドイツ共產黨大會イェナに於て開催さる</p> <p>海軍軍縮會議ワシントンに於て開催さる</p> <p>「國際労働者救援會」の母體組織さる</p> <p>アイルランド共產黨創立さる</p> <p>米國の鐵道従業員大ストライキ勃發す</p>														

大正十年 (皇紀二五八一年・西曆一九二一年)

月日	10	11	11	11	12	12	12	12	12
月	10	11	11	11	12	12	12	12	12
日	25	4			10				
學生の動き	<p>女子大學生の内には「赤想言」なる思想團體組織され居たりしが餘り活動し居らざりしも、山川菊榮等の「赤潮會」生るゝに及び女子大學生等之に加はり著しく思想的進出をなすに至る</p>								
國內の動き	<p>プロレタリア文藝運動の誕生と見るべき小牧近江、金子洋文、柳瀬正夢、村松正俊、佐々木孝丸、山川亮等を中心同人となす「種を蒔く人」發刊さる、但本誌は十二年の春に廢刊となる</p> <p>支那人張太羅コミンテルンの密使として來朝、近藤榮藏と會見、樺東民族大會につき協議す</p> <p>原敬東京驛頭に於て中岡良一に刺殺さる</p> <p>ロシヤ人ビードレ積濱に來り共產黨運動資金數萬圓提供せりといふ、十二月二日退去を命ぜらる</p> <p>近藤榮藏は重田某を上海に送り日本共產黨の樹立をコミンテルン樺東事務局に報告せしむ</p> <p>荒畑寒村等「日本労働新聞」を發刊す</p> <p>山川均の「社會主義研究」創刊さる</p> <p>日本共產主義運動の先驅として雜誌「前衛」を擧、山川等により創刊さる、十二年三月終刊、「無産階級」と合同す</p> <p>「曉民共產黨」檢舉さる</p>								
世界の動き	<p>ドイツ労働黨に突撃隊組織さる</p> <p>勞農政府の新經濟政策採用の結果二十人以下の労働者を使用する小企業の國有化を廢し且、從來事實上國有化せられざりし如何に大なるものもそのまゝ私有を許すことゝなる</p>								

月日	1	1	1	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	4
月	1	1	1	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	4
日	9	1	27	1	4	20	25	26	3	27	27	27	27	27	30
學生の動き															
國內の動き	<p>「大日本正義團關西本部」創立さる</p> <p>日本労働總同盟「政治主義排撃、普選運動放棄、直接行動主義」の急進政策を採用す</p> <p>全農國民組合機關紙「土地と自由」創刊さる</p> <p>「労働運動」誌を大杉、和田等再び復活「前衛」に對抗しアナ、ポルの抗争激化す</p> <p>國務院の調査にて日本の總財産八百六十億圓と査定さる</p> <p>在野黨聯合提出の所謂普選案衆議院に上程せられ河野廣中提出理由説明、院内外騒擾を極め傍聴席より議場に投蛇者出づ、案は同日否決となる</p> <p>「水平社」京都に生る</p> <p>未成年者禁酒法公布さる</p> <p>日本労働組合全國協議會「レフト」プロファイナルの指導の下に組織さる</p>														
世界の動き	<p>モスコイに於て樺東民族大會開催さる</p> <p>ドイツに於て鐵道ストライキ勃發す</p> <p>パリに國際社會主義者會議開催さる</p> <p>プロフィンテルン第二回大會開催さる</p> <p>フューメ問題に關聯しイタリー・ファッシスト、官憲と衝突す</p> <p>米國罷業取締令出づ</p> <p>ロシヤ共產黨第十一回大會開催さる</p> <p>第二、第二半、第三インターナショナルの各</p>														

月日	4	4	4	4	5	5	5	5	5	6
月	4	4	4	4	5	5	5	5	5	6
日	9	10	25	29	1	16	25	25	25	7
學 生 の 動 き	<p>七高鶴鳴會(後の七高文化科學研究會)生る</p> <p>新高社會思想研究會創立さる</p>									
國 内 の 動 き	<p>杉山元次郎、賀川豊彦等により日本農民組合組織さる</p> <p>曉民共産黨事件の判決下る</p> <p>サンヂカリズム的労働組合同盟會、反總同盟米の京阪諸團體により組織さる</p> <p>共産黨の準備機關誌「無産階級」創刊さる</p> <p>堺利彦、近藤榮蔵等を中心に實文社を創立ひそかに共産黨再建運動を開始す</p> <p>東京、大阪、神戸、足尾、岡山等に於て第三回メーデー行進舉行さる</p> <p>關東消費組合聯盟の前身「消費組合聯盟組織」生る</p> <p>山川均等の社會主義評論雜誌「前衛」國際労働者救済委員會の世界的運動に應じ「飢えたるロシアを救へ」なる號外を出しロシア飢饉救済運動の火蓋を切る</p>									
世 界 の 動 き	<p>執行委員會ベルリンに於て開催さる</p> <p>勞農政府は新經濟政策を國家企業にも適用し國家の企業も亦出来るだけ利潤追求を目的になさるべき法令を出す</p> <p>支那第一次奉直戰爭勃發す</p> <p>國際海員俱樂部設置プロフィンテルンの指導を受く</p> <p>東洋民族會議モスコに於て開催さる</p> <p>イタリー・ファシスト等ローマの労働者と衝突し流血の慘を見</p> <p>プハーリン日本共産黨結黨の訓令を發す</p>									

月日	6	6	7	7	8	8	8	9	9	10
月	6 <td>6 <td>7 <td>7 <td>8 <td>8 <td>8 <td>9 <td>9 <td>10</td> </td></td></td></td></td></td></td></td>	6 <td>7 <td>7 <td>8 <td>8 <td>8 <td>9 <td>9 <td>10</td> </td></td></td></td></td></td></td>	7 <td>7 <td>8 <td>8 <td>8 <td>9 <td>9 <td>10</td> </td></td></td></td></td></td>	7 <td>8 <td>8 <td>8 <td>9 <td>9 <td>10</td> </td></td></td></td></td>	8 <td>8 <td>8 <td>9 <td>9 <td>10</td> </td></td></td></td>	8 <td>8 <td>9 <td>9 <td>10</td> </td></td></td>	8 <td>9 <td>9 <td>10</td> </td></td>	9 <td>9 <td>10</td> </td>	9 <td>10</td>	10
日	7-11	18	15	1	30	30	30	30	30	26
學 生 の 動 き	<p>大正八年十一月創立され一時衰退し居たりし「高社會思想研究會」再興す</p> <p>「雄辯聯盟」ロシア飢饉救済會なる團體、早大雄辯會、建設者同盟、新人會等の所屬の學生により組織されロシア救済運動に参加す</p> <p>新人會員地方に講演旅行をなす</p>									
國 内 の 動 き	<p>對露非干渉同盟組織さる</p> <p>コミンテルンの指導の下に第一次日本共産黨組織さる</p> <p>山川均「無産階級」の方向轉換論を「前衛」誌に發表、無産階級運動の大衆化を強調す</p> <p>「日本經濟聯盟」成る</p> <p>大阪天王寺公會堂に於て「全國労働組合總聯合」創立さる</p> <p>曉民社「農民運動」を發行す</p>									
世 界 の 動 き	<p>コミンテルン執行委員會第二回擴大總會開催さる</p> <p>第二インターナショナル大會ロンドンに開催ソヴィエト・ロシアとの闘争を決議す</p> <p>國際労働者救済會創立、ベルリンに本部を設置す</p> <p>イタリー・ファシストと左翼労働者との衝突起る</p> <p>アメリカの鐵道炭坑ストライキ勃發す</p> <p>西部ウクライナ地方に大衆反亂運動勃發す</p> <p>ムツリニの率ゆるファシストのローマ進軍の爲イタリー内閣倒る</p>									

大正十一年 (皇紀二五八二年・西曆一九二二年)

月日	10	10	11	11-12	11	11-12	11	11	11	11	12
月日	30	31	3	5-12	7	12-7	15	19	20	11	11
學生の動き	浦和高等學校に「思潮研究會」創立さる										
國內の動き	皇室中心主義の「大日本赤化防止團」結成さる、團長米村嘉一郎										
世界の動き	フアッシスト、ローマを占領す ムソソリニのフアッシスト内閣成る										
學生の動き											
國內の動き											
世界の動き											

大正十一年 (皇紀二五八二年・西曆一九二二年)

月日	12	12
月日	30	25
學生の動き		
國內の動き		
世界の動き		

月日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
月日	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
月日	6-7	13	15	23	28	4	4	1	2	2	2	4
學生の動き	<p>高等學校に於ける左傾思想團體を糾合せ、高等學校聯盟結成さる。 早稻田大學に左傾思想團體文化同盟結成さる。</p>											
國內の動き	<p>長野共産黨支部 (長野自由青年聯盟、略稱 J.Y.L.) 結成、但大正十二年二月檢舉さる。日蓮主義の國家主義團體「天葉青年團」創立さる。 「日本労働同盟會」京都に組織さる、機關紙「同志」。 労働政府代表ヨッフエ入京す。 大日本赤化防止團員労働政府代表ヨッフエの來朝を斡旋したる東京市長後藤新平邸を襲ふ。 日本共産黨第一回大會開催さる。</p>											
世界の動き	<p>中欧の共産黨及び革命的労働組合ドイツのエンセンに於て國際會議を開催す。 孫逸仙軍廣東を占領す。 ライプチヒに於てドイツ共産黨大會開催さる。 佛軍ルール地方を占領、ドイツ政府は「消極的抵抗」を開始し、同國のプロレタリアは革命的闘争に向つて動く。 イタリー政府共産主義者狩りを決行す。</p>											

月日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
月日	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
月日	7	20	6	15	3	3	3	3	4	4	4	17-25
學生の動き	<p>日本精神の闡明發揚を目的とする「瑞穂會」第一高等學校に創立さる。 立教大學に於て「經濟研究會」なる思想團體創立さる。</p>											
國內の動き	<p>京漢鐵道従業員の總罷業勃發す。 日本農民組合大會開催、組合員六萬、支部二百餘、岡山、香川、兵庫地方特に優勢。 東京府下石神井の料理店豊島館に於て第一次共産黨員秘密裡に日本共産黨第二回大會を開催す、その主なる決議事項左の如し。 一、惡法撤廢 一、對露通商促進 一、ロシヤ飢饉救済 一、對露非干涉 一、労働ロシヤの承認 大正十一年五月組織されたる消費組合聯盟を消費組合關東聯盟と改稱し更に大正十五年十一月七日關東消費組合聯盟と改稱す。 大正十一年十一月十二日—十二月七日開催の共産青年インターナショナル第三回大會の決議に基き日本共産青年同盟組織準備委員會結成す。 「前衛」(無産階級)及び「社會主義研究」(台流)として新に「赤旗」を發刊す。</p>											
世界の動き	<p>共産青年インターナショナル國際反戰週間を指令す。 共産黨員等、反ファッシン戰線統一のためフランスフルト國際會議を開催す。 ロシヤ共産黨第十二回大會開催、スターリン「黨及び國家建設に於ける民族的契機」に</p>											

大正十二年 (皇紀二五八三年・西曆一九二三年)

月	日	學 生 の 動 き	國 内 の 動 き	世 界 の 動 き
6	5			
6	5			
5	5			
5	5			
5	5			
5	5			
5	5			
4	4			
4	4			
4	4			
	23			
	10			
	14			
	21-25			

早稲田大學に「軍事研究團」發會式舉行さる。左傾學生等之を妨害し混亂を極む。

日本文化青年同盟(總同盟会)京都に創立、既成青年團に對抗す。

日本共産主義青年同盟、河合義虎等を中心にして結成され革命的青年運動の母胎となる。

全國勞働組合自由聯合會(無政府主義者)の機關紙「自由研究新聞」創刊さる。

岡山縣藤田開墾地の小作争議に、日本最初の耕地立入禁止行はる。

名古屋共産黨(名古屋レフト・プロレタリア略稱LP)結成、大正十二年七月檢舉さる。

階級戦の犠牲者救援のため「防援會」組織さる。

後藤新平、ヨッフエト會見す。

午前五時半第一次日本共産黨檢舉さる、その直前佐野學、荒畑、山本、近藤、高津、辻井等の中心人物は逃じす。

正午早稲田大學恩賜館内の佐野學、猪俣津南雄兩教授の研究室臨檢され各種の左翼文獻押收さる。

つき報告す
アムステルダム勞働組合インターナショナル第三回大會開催さる

第二及び第二半インターナショナルの合同會議及び國際社會主義青年大會ハンブルグに開催さる。

月	日	學 生 の 動 き	國 内 の 動 き	世 界 の 動 き
9	16			
9	6			
9	4			
9	2			
9	1			
8				
7				
7				
7				
7	6			
6	26			
6	23			
6	12-23			

慰押收さる。

「勞資協調會館」開設さる。

高尾平兵衛「戦線同盟」を組織し「赤化防止團」によつて射殺され最初に試みられたる勞働團體による社會葬行はる。

「赤旗」を「階級戦」と改題す、大正十三年五月更に「マルクス主義」となる。

名古屋共産黨檢舉さる。

群馬青年共産黨結成、九月に至り檢舉さる。

プロレタリア文學運動の機關紙なりし「種を蒔く人」事實上廢刊となる。

關東地方大震災起る。

山本内閣成立す。

我が國に於ける第一回國際無産青年デー舉行さる。

流言浮説取締令、暴利取締令公布さる。

大杉榮、甘粕憲兵大尉に殺さる。

大震災當時勞農ロシヤより救援船レーニン

コミンテルン執行委員會第三回擴大總會開催さる。

ソヴェエト聯邦は「萬國の勞働者上團結せよ」の文句を七ヶ國語にて記入したる國家紋章を制定す。

ドイツ、マルク紙幣慘落し、全ドイツ飢饉と動搖に襲はれストライキ頻發す。

大正十二年 (皇紀二五八三年・西曆一九二三年)

月日	學 生 の 動 き	國 内 の 動 き	世 界 の 動 き
11 11 11 11 11 11 10 10 10 10 9	<p>東京帝大社會科學研究會發起人會開催さる</p> <p>新人會は非法主義の幹部派と合法主義の非幹部派と對立し十一月の總會に於て非幹部學生の思想問題研究團體「信民會」生る</p>	<p>號來るも入港不許可となる</p> <p>群馬共産黨檢舉さる</p> <p>立憲修正會生る</p> <p>國民精神作興に關する詔書發表さる</p> <p>水平社内の左翼分子により「水平社青年同盟」結成さる</p>	<p>サクソニア及びチューリンゲンに共産黨内閣成立す</p> <p>ハンブルグに於て共産黨員テールマン指導の下に労働者、國防軍と大衝突、二十八日鎮壓さる</p> <p>モスコにて赤色農民インターナショナル結成さる(略稱クレスチンテルン)</p> <p>ポーランド鐵道従業員、總罷業、クラカウの労働者暴動勃發す</p> <p>南獨逸ミュンヘン市の市會議事室に於てヒャトラー、ペルリンの共和國中央政府に反對する革命の宣言をなせし爲五ヶ年の刑に處せらる</p> <p>ドイツ國ゼークト將軍ドイツ共産黨を嚴重に取締る</p>
12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12	<p>部派勝ちそれより大衆主義により積極的に活動するに至る、これ所謂新人會の十一月黨命として知られ居るものなり</p> <p>第五高校の社會思想研究會解散を命ぜらる</p> <p>東京帝大社會科學研究會發會講演會開催さる、新進の二教授痛烈なる社會批判を爲せりといふ</p> <p>新人會五周年記念講演會盛大に舉行さる</p>	<p>大杉榮、伊藤野枝に對する「社會黨」労働運動社主催の下に谷中葬場に於て舉行の際大化會員數名祭壇上の遺骨を奪つて逃走す</p>	<p>佛國エリオ首相は共産黨員の嚴重取締を議會に明言し、その實行に努む</p> <p>英國總選舉に労働黨百九十一の議席を獲得す</p> <p>全ドイツ共産黨大示威運動起る</p> <p>佛國警察は全國に亘り共産黨員の大檢舉を行ひしため共産黨員等はベルギーに逃亡するもの多く爲にベルギー政府は恐慌を來し共産黨員入國防止取締令を出す</p> <p>ムッソリニ、伊太利に於ける社會黨及び共産黨新聞全部を禁止す</p> <p>モスコにて國際革命運動犠牲者救援會(略稱モツブル)結成さる</p> <p>ポーランド、ソヴィエト、ロシアを承認す</p> <p>ファシスト労働組合及産業家の會議に於</p>

月日	學 生 の 動 き	國 内 の 動 き	世 界 の 動 き
11 11 11 11 11 11 10 10 10 10 9	<p>東京帝大社會科學研究會發起人會開催さる</p> <p>新人會は非法主義の幹部派と合法主義の非幹部派と對立し十一月の總會に於て非幹部學生の思想問題研究團體「信民會」生る</p>	<p>號來るも入港不許可となる</p> <p>群馬共産黨檢舉さる</p> <p>立憲修正會生る</p> <p>國民精神作興に關する詔書發表さる</p> <p>水平社内の左翼分子により「水平社青年同盟」結成さる</p>	<p>サクソニア及びチューリンゲンに共産黨内閣成立す</p> <p>ハンブルグに於て共産黨員テールマン指導の下に労働者、國防軍と大衝突、二十八日鎮壓さる</p> <p>モスコにて赤色農民インターナショナル結成さる(略稱クレスチンテルン)</p> <p>ポーランド鐵道従業員、總罷業、クラカウの労働者暴動勃發す</p> <p>南獨逸ミュンヘン市の市會議事室に於てヒャトラー、ペルリンの共和國中央政府に反對する革命の宣言をなせし爲五ヶ年の刑に處せらる</p> <p>ドイツ國ゼークト將軍ドイツ共産黨を嚴重に取締る</p>
12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12	<p>部派勝ちそれより大衆主義により積極的に活動するに至る、これ所謂新人會の十一月黨命として知られ居るものなり</p> <p>第五高校の社會思想研究會解散を命ぜらる</p> <p>東京帝大社會科學研究會發會講演會開催さる、新進の二教授痛烈なる社會批判を爲せりといふ</p> <p>新人會五周年記念講演會盛大に舉行さる</p>	<p>大杉榮、伊藤野枝に對する「社會黨」労働運動社主催の下に谷中葬場に於て舉行の際大化會員數名祭壇上の遺骨を奪つて逃走す</p>	<p>佛國エリオ首相は共産黨員の嚴重取締を議會に明言し、その實行に努む</p> <p>英國總選舉に労働黨百九十一の議席を獲得す</p> <p>全ドイツ共産黨大示威運動起る</p> <p>佛國警察は全國に亘り共産黨員の大檢舉を行ひしため共産黨員等はベルギーに逃亡するもの多く爲にベルギー政府は恐慌を來し共産黨員入國防止取締令を出す</p> <p>ムッソリニ、伊太利に於ける社會黨及び共産黨新聞全部を禁止す</p> <p>モスコにて國際革命運動犠牲者救援會(略稱モツブル)結成さる</p> <p>ポーランド、ソヴィエト、ロシアを承認す</p> <p>ファシスト労働組合及産業家の會議に於</p>

大正十二年 (皇紀二五八三年・西曆一九二三年)

月日	學生の動き	国内の動き	世界の動き
12月27日	大正十一年組織されたる第三高校の社会科学研究会解散を命ぜらる 新人會五周年記念講演會以來一時衰へたる會は再び活動し始む	難波大助の虎の門に於ける大逆事件勃發す 政治研究会の前身政治問題研究会生る	てムッソリニ議長となり「共同主義」綱領を制定す

月日	學生の動き	国内の動き	世界の動き
12月15-17日	東京帝大に普通研究会生る 大阪外語社会科学研究会創立さる 第四高校社会思想研究会創立さる 全国學生普通同盟組織さる	清浦内閣は議場混乱、國務阻害の理由により帝國議會解散す 國民の思想善導を目的に思想善導會生る、大正十五年七月に至り勤王聯盟と改稱す	ハンブルグ其の他のドイツ都市に於て労働者暴動を起し警官との間に流血衝突起る レーニン、モスコイ郊外ゴルキ村に逝く 英國労働党内閣成立す、首相マクドナルド英國労働黨ソヴィエット・ロシヤ承認を決議す ベテログラードをレーニングラードと改稱 第二回聯邦ソヴィエット大會開催憲法を協賛しソヴィエット聯邦の基礎を完成す 中國共産黨、民族革命プロック(國民黨)に加入す スカンデナヴィヤ聯盟(構成分子ノルウェー・スエーデン・デンマーク、フィンランド共産黨) 第一回大會開催さる スエーデン全土にストライキ續發す 英國労働党内閣ソヴィエット・ロシヤを承認す 米國前大統領ウィルソン逝く
12月11日	東大に「政治問題を研究し、併せて純正なる政治思想を普及する」政治研究会生る	吉野作造博士東京帝國大學を退く、その後朝日新聞に入社す 「官業労働同盟」結成さる	ノールウェー、ソヴィエット・ロシヤを承認す 英國船渠労働者の大罷業勃發す
12月9日			
12月8日			
12月7日			
12月6日			
12月5日			
12月4日			
12月3日			
12月2日			
12月1日			

大正十三年 (皇紀二五八四年・西曆一九二四年)

月日	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31				
學 生 の 動 き																																		
國 内 の 動 き																																		
世 界 の 動 き																																		

清浦首相佛教各宗派代表者を午前、神職代表者を午後、に招き國民精神作興・思想善導につき懇談す

清浦首相キリスト教代表者を午前、に教化團體代表者を午後、に招き國民精神作興・思想善導につき懇談す

「日本フェビアン協會」創立さる
帝大出身インテリゲンチヤにより産業労働調査所創立さる

第一次日本共產黨解散、日本共產黨ビュロに再組織され活動を繼續す
日本共產黨解體に伴ひ労働組合全國協議會「レフト」亦自然消滅す

大化會より高島素之を中心とする「週刊日本」創刊さる、但六月に至り廢刊となる
「海軍労働組合聯盟」成る

鈴木文治労働代表となる
赤松克麿共産黨を脱退す
橋本徹馬の主宰する「紫雲莊」創立さる

約百名の豫・後備役の將官を中心に思想善導を目的に「恢弘會」生る

勞務政府新經濟政策實施の結果一時破壊されたる市場再建されルーブル紙幣は安定す

ドイツ、ルードウィスハイフェンに於て労働者の暴動勃發す

月日	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31												
學 生 の 動 き																																			
國 内 の 動 き																																			
世 界 の 動 き																																			

京師帝大學友會新聞部より「京師帝國大學新聞」創刊さる、新聞部長は佐々木博士

京師帝大に河上博士を中心に社會科學研究會生る、この團體は前年十月結成されし倍民會の擴大強化されしものなり

マルクス百年祭を記念し學生社會科學研究會動く

第一回農民デー催さる

京城に於て第一回労働者農業大會開催さる
日本フェビアン協會第一回協議會開催さる
日本フェビアン協會の「社會主義研究」創刊さる

大川周明、安岡正篤、藤川龜太郎を中心に行地會(行地社の前身)生る、機關紙「日本」を大正十四年六月二十日より刊行す
前年七・八月號を發刊せしのみにて休刊になりたる「階級戦」に代へる意味にて共產主義指導的理論雜誌「マルクス主義」發刊「ビューロー」の機關紙となる

獨逸各地の選挙に共産黨擡頭す

米國兩院協議會は日本人排斥の新移民法を

月日	7	6	6	5	6	6-7	6	6	5	5	5	5
月日	1	20	15-25	18-8	10	1	30	26	28-31			
學生の動き							大山郁夫指導の下に早稻田大學社會科學研究會生る					
國內の動き							「政治研究會」協同會館にて創立さる					
世界の動き							七月一日より實施する事を決定す					

月日	9	9	9	9	8	7	7	7	7	7	7
月日	31	29	14	29				30	22	13	2
學生の動き											
國內の動き											
世界の動き											

大阪市電争議に於ける「學生罷業破り批判演説會」本郷キリスト教青年會館にて開催さる。この時の會合が九月十四日の「學生社會科學聯合會」結成の動機となる

大阪市電争議に際し學生は公益の立場より市電側を應援す

學生聯合會主催の下に左傾學生の全國協議會開催、「學生社會科學聯合會」(略稱學聯)を結成す

「學生社會科學聯合會」(「國際反戰聯盟」)へ加盟、この日の「國際反戰デー」闘争に参加す

大阪市電争議開始、秘密移動本部始めて出現す

小作調定法公布、十二月一日より實施となる

メートル法實施さる

高島素之を中心にして國家社會主義雜誌「急進」創刊され、十四年二月まで続く

日本共産黨の殘黨分子はコミンテルン本部

上部シレヤの重工業労働者總罷業を執行す

國際赤色救援會創立、本部をモスコに設置す

ロシア共産青年同盟を「レーニン共産青年同盟」と改稱す

共産青年インターナショナル第四回大會開催さる

ドイツ議會「ドーズ案」を承認す

スターリン「國際情勢に就いて」なる論文を發表す

ブルガリヤのソフィヤに於て共産黨員及び

月日	11	11	11	11	11	10	10	10	10	10	10	
月日	16	15	13	12	7	1-3		29	25	9	8	6
學 生 の 動 き	<p>高等學校長會議に於て各高等學校の社會科學の研究團體に對し解散命令を下す事に決議せらる</p> <p>京都の佛教會館に於て京都社會科學研究會主催の下に「無産者大學」開催され、京都無産者教育協会の基礎作らる</p> <p>「學聯」創立二周年記念を兼ねロシヤ革命記念講演會芝公園協同會館に於て開催さる</p> <p>全國學生軍事教育反對同盟結成さる</p> <p>東京帝大の上杉博士を中心に國家主義を奉ずる學生等七生報國の盟をなし「七生社」を結成し左傾團體新人會と對立す</p>											
國 内 の 動 き	<p>より再建の指令を受く</p> <p>日本労働總同盟關東同盟は左翼四團體を除名す</p> <p>共産黨事件に關聯してロシヤに逃亡中の荒畑寒村密かに歸國途に自首す</p> <p>虎の門事件の難波大助に死刑の宣告下る</p>											
世 界 の 動 き	<p>マケドニア革命黨員多數處刑さる</p> <p>英國マクドナルドの労働黨内閣に對する不信任案下院を通過し下院解散を斷行す</p> <p>英國總選挙行はる</p> <p>英國労働黨、總選挙に於て保守黨のため破らる</p> <p>モロッコにて反スペイン暴動勃發す</p> <p>ロシヤ共産黨大會に於て「家族の概念並に家族關係の存続する限り革命は無力である」と聲明す</p> <p>蒙古人民共和國成立す</p> <p>エジプト、エスニヤ等に暴動勃發す</p>											

月日	12	12	12	12	12	12	11
月日		26	20	19	15	13	
學 生 の 動 き	<p>新人會第六周年記念講演會開催さる、森戸辰男激勵演説をなす</p> <p>「學聯」幹部は東大學生控所にて高等學校その他の社會科學研究會の解散命令に對し善後策を協議し、聲明書を出し、又演説會を開き解散反對の氣勢をあぐ</p> <p>協同會館に於て軍教批判演説會開かれ、軍教反對高調さる、この會合には學生の外、松下芳男、大山郁夫、尾崎行雄等も亦出演す</p> <p>早稻田大學社會科學研究會主催の社會科學講演會開催さる</p>						
國 内 の 動 き	<p>日本労働總同盟關東同盟より除名せられたる左翼團體は新に總同盟本部直屬として關東地方評議會を組織す、機關紙半月刊の「労働新聞」を創刊す</p>						
世 界 の 動 き	<p>蒙古人民共和國成立す</p> <p>エジプト、エスニヤ等に暴動勃發す</p>						

月日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
月日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
學生の動き	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
国内の動き	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
世界の動き	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12

東京帝大、早稲田大學、明治大學其の他都下の各大學の左傾學生九段牛ヶ淵公園に集合、芝公園に向ひ軍教反對示威行進を爲す

京都帝大社會科學研究會の會員石田英一郎、會の使命を帯び清國經由北京に入り北京大學胡適教授と會見日支學生運動の連絡をなす

佐野學、荒畑寒村等上海に於てコミンテルン極東部長等と協議の上日本共産黨再建を目的とする所謂「上海一月テーゼ」を決定すその主なるもの左の如し

- 一、労働者農民の日常闘争への積極的參加
- 一、專制主義に對する闘争
- 一、労働組合運動
- 一、労働政黨運動政策

田中松次郎、海員刷新會なる秘密結社を作り、本部を神戸に置き活動を開始、但三・一五事件以後は中心人物を失ひ勢力不振に陥る

イタリー首相ムッソリニ下院に臨み四十八時間以内に刻下の動搖せる政狀を安定すべしと斷言し高壓政策を取り美事に反對勢力沈壓に成功す

ロシア陸海軍委員長トロツキは「レーニン主義に反對する小ブルジョア階級の代辯者なり」との理由にて十九日中央委員會は不信任を決議し、遂に免職となる

イタリー・ファシストと、共産黨との衝突起る
ギリシャに共産黨の内亂起る

月日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
月日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
學生の動き	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
国内の動き	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
世界の動き	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12

行地會（大正十三年四月創立）を行地社と改稱社長大川周明、猶存社の正統と見らる片岡君恵を會長とする「大日本護國會」生る
大日本正義團關東本部酒井榮藏を中心に創立さる

福本和夫「マルクス主義」に「唯物史觀の構成過程」を發表、河上博士の唯物史觀を攻撃す、これより福本イズム次第に優勢となる
治安維持法反對示威運動東京及大阪に起る
東京放送局開設「ラヂオ」放送開始さる

治安維持法及普選法帝國議會を通過す
治安維持法公布、國體の變革、私有財産否認に關し嚴格なる刑を規定さる

アムステルダム労働組合インターナショナル大會開催さる

日本、ソヴィエット・ロシアを承認す

孫逸仙没す

ムッソリニ伊太利全土にわたり共産主義者を取締る

ギリシャ陸海軍首脳部は政府のユーゴスラビヤに對する軟弱外交を憤り突如革命を起す、但、革命は極めて秘密裡に計畫され流血の慘を見ることなくパンガロス將軍の

大正十四年 (皇紀二五八五年・西曆一九二五年)

月日	學 生 の 動 き	國 内 の 動 き	世 界 の 動 き
5 5 5 5 5 4 4			
30 24 24 15 6 23	<p>第六高校社會問題研究會解散のあとを受けて六高哲學會成立す</p> <p>「マルクス誕生記念大講演會」、「學聯」主催のもとに協同會館に於て開催さる</p>	<p>遠藤無水の個人雜誌「日本思想」創刊さる</p> <p>國本社機關紙「國本新聞」創刊さる</p> <p>秩父宮殿下軍艦出雲に御塔乘英國留學の途に上らせらる</p> <p>日本勞働總同盟の關東同盟より除名せられ總同盟本部直屬として大正十三年十二月二十日關東地方評議會を組織せる渡邊政之助等左傾派(全協)の前身「日本勞働組合評議會」を結成す</p> <p>無政府主義の水沼辰一派「全國勞働組合自由聯合會」を結成す</p> <p>佐野學等再び密かに上海に會し謀議の上日本共産黨再建促進のため所謂「上海五月テゼ」を決定す、その主なるものは左の如し</p> <ul style="list-style-type: none"> 一、革命的日常闘争による大衆獲得 一、失業反對の闘争 一、産業別體系の完成 一、無産階級政黨の組織 一、極東の勞働者の團結 一、勞働組合の自由 一、全國總聯合の建設 	<p>軍部政府組織さる</p> <p>ヒンデンブルグ元帥ドイツ大統領に當選す</p> <p>香港、廣東等に總罷業起る</p>

月日	學 生 の 動 き	國 内 の 動 き	世 界 の 動 き
7 7 7 7 6-12 6 6 5			
29 16 7 1 25-25 20 10	<p>東京帝大學生有志主催のもとに「支那罷業批判講演會」を開き上海に起れる罷業事件批判をなす</p> <p>「京大事件」關係者東京、京都、大阪、神戸の各地に於てしきりに秘密會合を開く</p> <p>學生社會科學聯合會第二回總會を開催し、會名を「全日本學生社會科學聯合會」と改稱、左傾的色彩濃厚となる</p>	<p>この頃左傾陣營に於て福本イズム風靡す、その主なる主張は</p> <ul style="list-style-type: none"> 一、組合主義的闘争より轉換しマルキシズムの精神昂揚 一、社會主義的政治闘争に進出し勞働者農民の政府樹立 一、マルクス主義的意識を有するものゝ結合體の完成 <p>日本共産主義青年同盟解體す</p> <p>行地社機關誌「日本」創刊さる</p> <p>日本共産黨ビュロー指導のもとに日本共産主義青年同盟再建準備會開催され再建ビュロー設置さる</p> <p>無産青年同盟東京準備會結成す</p> <p>上海に逃亡中なりし佐野學歸國自首す</p>	<p>廣東に南支那革命政府樹立さる</p>

大正十四年 (皇紀二五八五年・西曆一九二五年)

月日	7	8	8	8	8	8	9
旬上	20	23	旬下	1			
學生の動き	朝鮮水害救済金募集に藉口して左傾學生等共産主義の宣傳をなす						
國內の動き	北浦千太郎を中心に共産青年を糾合せ「ユース」結成さる 日本主義の月刊新聞「日本」創刊さる 全國青年運動準備會結成さる 第一次共産黨事件判決さる 第二次日本共産黨結成の爲めの過渡的階段として「共産主義グループ」創設、又日本共産主義青年同盟も再建さる 徳田、荒畑、渡邊、間庭、北浦等「一月テーズ」を基とし具體的方法決定 この頃左翼運動に於て山川イズムと福本イズムの對立状態著しくなる 無産者青年同盟は水平社青年同盟と提携し、後者の機關誌「青年」を「青年大衆」と改題無産の機關紙として發刊、後更に「青年新聞」と改題す						
世界の動き	第二インターナショナル大會マルセイユに於て開催さる シリアに於て暴動勃發す						

月日	9	9	9	9	9	9	9	10	10	10	10	
旬上	17	20	25	31	26-31	1	7	25	31	10	10	
學生の動き	第一高校社會思想研究會解散を命ぜらる 露國勞働組合代表レブセ一行京都通過の際京大社會科學研究會員、檢束の危険を犯して歡迎の意を表明す 是校恭二、清水平九郎等新人會本部に於て學聯の教育テーゼ及び全國的教程を作成す 第三高校進化會解散、この團體は前年解散を命ぜられたる社會科學研究會の後をうけ設立されたるものなり、これを最後として各高等學校の社會科學研究のための團體は一掃さる 小樽高商野外演習の際所謂「想定事件」起り、軍事教育反對運動盛んに行はる											
國內の動き	風間丈吉ロシヤに向つて出發、十一月クートベ(東洋動勞者共産主義大學)に入學す 無産者青年同盟東京準備會名稱を「全日本無産青年同盟東京準備會」と變更す 無産者新聞第一號出づ、主筆は佐野學 全露金屬勞働組合中央執行委員長レブセ露國勞働組合代表として來る 水平社青年同盟「水平社無産者同盟」と改稱さる 第二回國勢調査施行さる サラリーマン・ユニオン協議會創立さる 震災により廢刊となりし「解放」誌復活さる 日本海員刷新會「日本海員組合刷新會」と改											
世界の動き	シカゴに黒人勞働者の第一回會議開かる											

大正十四年 (皇紀二五八五年・西曆一九二五年)

月日	10	11	11	11	11	11	12	12	12	
月日	1	15	31	1	1	1	1	6	19	
學 生 の 動 き	京都帝大左傾學生中心となり「京都無産者教育協會」を設立す	京都同志社大學構内に「狼煙ハアガル兄弟ヨ此職ニ参加セヨ」の反戦ビラを貼付したるものあり、取調べの結果學聯の一會員なること判明し、京大事件發覺の端緒となる	學聯關西聯合會神戸關西學院に於て總會を開き段内運動の一般方針につき協議し「班生活テーゼ」を作成す	拂曉京都帝大・同志社大學生等三十七名家宅搜索を受く、これ京大事件として知られ居る事件の發端なり						
國 内 の 動 き	稱、全協に加盟す 下位春吉伊國より歸國「興國青年黨」を結成す 北浦千太郎、是枝恭二等中心の「ユース」の指導の下に「全日本無産青年同盟東京青年同盟」結成さる	日本精神を標榜して「原理日本」誌創刊さる	大阪無産青年同盟結成さる	農民労働黨の結黨大會開かれしも治安警察法により結社禁止を命ぜらる	「文藝戦線」同人を中心に「日本プロレタリア文藝聯盟」結成さる					
世 界 の 動 き		ベルシャ國シャール王革命軍のために逐はる		南滿洲動搖し郭松齡、張作霖に敵對行動を取り始む	ロシア共産黨第十四回大會をモスコにて開催、新經濟政策に對するスターリン派の積極政策大會を通過、この大會に於て黨名を「全ソヴィエト聯邦共産黨」と改稱す					

月日	12	12
月日	24	
學 生 の 動 き	京都帝大法學部は教授一同の名に於て同經濟學部は六教授(神戸、財部、河上、河田、本庄、小島)の名に於て京大事件に就き聲明書を發す	
國 内 の 動 き	佐野・渡邊、荒畑等極秘裡に日本共産黨の擴大ビュロー總會を開き謀議の結果日本共産黨の黨勢報告書を作成しコミンテルンの指令を仰ぐため徳田球一をモスコに派遣する事に決定す	
世 界 の 動 き	郭松齡生捕られて銃殺され張作霖戰終る	

大正十四年 (皇紀二五八五年・西曆一九二五年)

大正十五年 (皇紀二五八六年・西曆一九二六年)

月日	1	1-4	1	2	2	2	2	3	3	3
月日	17	15-22		11	11	12		1	5	10
學 生 の 動 き		京都帝大左傾學生を中心に三千八百名治安維持法、不敬罪、出版法違反にて檢舉さる、これ所謂京大事件なり 日本、東京南女子大學の有志會合し、ローザ記念研究會を初めて開く、その種の會合その後屢々行はれ女子學聯の基礎をなすに至る								
國 内 の 動 き		國家主義傾向を有する日本勞働組合總聯合結成さる 徳田球一コミンテルンの指令を仰ぐべく日本共産黨中央委員會の決議書を携へてモスコイに赴く 建國會創立、月刊誌「日本主義」を發刊す、第一回建國祭舉行、理事長赤尾敏 古齋商人愛國團體「大日本殉國會」生る 大阪にて勞働農民黨結黨す、中央執行委員長杉山元次郎								
世 界 の 動 き										ドイツ勞農ロシヤとの通商條約を批准す 第六回コミンテルン執行委員會會議、プロフィンテルン、ブレナム、國際共産青年同盟ブレナムに徳田球一出席、日本共産黨再建のための具體的方針所謂「モスコイテーゼ」を決議す ソヴィエツト政府は私有財産の無制限相續制度を公認する法律を公布す 今月六日一旦總辭職をしたる佛蘭西のブリアン九度目の總理大臣に就任右傾的新内閣を組織す

月日	1	4	4	4	4	4	4	4	4	5
月日	1	4	26	26	19	18	11	9	7	1-12
學 生 の 動 き					神田Y・M・C・Aに於て賀川豊彦を組合長に松浦武夫を専務理事として東京學生消費組合生る、この團體は初め早稲田大學社會問題研究室に於て學生有志間に試みられ居たる消費組合の發展したるものなり					日本楽器株式會社のストライキに際し、三田村四郎爭議團を指揮し、之に多數の學生應援せりと傳へらる
國 内 の 動 き					平野力三等の右翼團體「全日本農民組合同盟」創立さる 大學、高等・専門學校に軍事教育實施さる 兵庫縣無産青年同盟創立大會開催さる 濱松日本楽器株式會社勞働爭議勃發し八月八日の解決まで實に百十日を経過す、その間共産黨員策動す 福本和夫「コムニニスト・グループ」に加					
世 界 の 動 き					ギリシャ執政官バンガース將軍大統領に就任す ムッソリニ首相一婦人に狙撃さる、但幸に輕傷 イギリスの嶺山勞働者罷業を開始す 國際聯盟主催の國際經濟會議ジュネーヴにて開催さる イタリヤ、ファシスト黨幹部會ムッソリニの司會にて開會「四月二十一日現在の我黨員數は七十四萬二千人、一ヶ年前に比すれば三十二萬六千人の増加」と發表す 英國勞働組合會議總評議會による總罷業勃					

大正十五年 (皇紀二五八六年・西曆一九二六年)

月日	學 生 の 動 き	國 内 の 動 き	世 界 の 動 き
5 2	早稲田大學の學生を中心に「東京學生消費組合」組織さる	新潟縣木崎村に小作爭議勃發す	發、十二日に至り總評議會、總罷業打ち切りを聲明、鐵山従業員のみは十一月十九日まで罷業を繼續せり
5 5	早稲田大學に於て消費組合講演會開催さる	岡田文相、全國高等・専門學校長、並に澤科主任に對し生徒の左傾思想取締に關する件を通達す	ポーランドのビルズズスキー元帥革命反亂を起し首都ワルソーに殺到、バルテン下院議長を首相にビルズズスキー元帥を陸相となす革命内閣十七日に成立す
5 15	早稲田大學の學生を中心に「東京學生消費組合」組織さる	英國の炭坑ストライキに對する我が勞働組合の應接運動行はる	コミンテルン執行委員會ファッシュ、變革に關してポーランド共產黨へ公開狀を發表す
5 13	新潟縣木崎村の小作爭議に早稲田大學建設者同盟が指導的役割をなせりと傳へられる		
5 12-17	高等學校並に専門學校長會議に於ける文相の内訓によつて生徒の左傾思想の研究、禁止され左傾學生運動す		
5 8	京都帝大に國家的立場を標榜する團體「繪興會」創立さる		
5 5	「東京帝大學生自由擁護聯盟」及び「早稲田		

月日	學 生 の 動 き	國 内 の 動 き	世 界 の 動 き
6 6	大學學生自由擁護聯盟」生る、但間もなく自發的に解散す	左傾インテリの自由擁護聯盟組織さる	コミンテルン執行委員會イギリス總罷業の教訓に關するテーゼを發表す
6 6	都下二十四の學生團體よりなる「關東學生自由擁護聯盟」生る	東京青年同盟は七月一日より實施豫定の青少年訓練所に對する同盟者の活動を指令す	ブラジル、聯盟脱退を正式に通告す
6 6	關西學生講演聯盟和歌浦に會合して「學生の研究並に辯論に關する今回の文部當局の態度に對し本聯盟は斷乎として反對す」と聲明す	モスコに本年一月赴きたる徳田球一コミンテルンより日本共產黨の擴大強化の指令を受けて歸國す	ムソリニ九時間勞働制を施行す
6 6	皇室中心主義の「一心會」東京農業大學に創立さる	東京青年同盟は各地區に青年訓練所對策委員會設置を指令す	
6 6	全日本學生自由擁護聯盟(S・L)結成、左傾學生の運動頗る組織的に且巧妙になる	青年訓練所開所さる	
6 17			
6 25			
6 28			
7 1			
7 7			
7 8			
7 11			
7 14			
7 15			

大正十五年（皇紀二五八六年・西曆一九二六年）

月日	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
月日	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
学 生 の 動 き	26	21	18	10											
國 内 の 動 き															
世 界 の 動 き															

關西學生自由擁護同盟結成さる

工場法施行令公布さる
警察署廢止問題に關聯し長野縣歴代町民等數千名縣民大會を開き、一部の群集は知事官舎をおそひ知事を負傷せしむ

徳田球一は市川正一、佐野文夫等と群馬縣磯部温泉附近の碓氷河合に會合しコミンテルンの指令につき謀議す
無産青年同盟員四十三名世田ヶ谷王子ヶ原にて革命演習を行はんとして檢舉さる
佐野學、コミンテルンより日本共産黨中央常任委員に任命さる
日本共産黨は組織的學生赤化運動を指令す
大正十三年創立の「思想善導會」を「勤王聯盟」と改稱す
アジア民族大會長崎に於て「平等と正義とを基礎とし全アジア人類の自由と幸福との確保」を目的として開催さる
全日本無産青年同盟片山峰登を委員長に結成、綱領「勞農青年大衆の政治的經濟的社會的利益の獲得とその生活の向上、階級教育及び訓練の徹底」を決定す

第一回國際友誼デー舉行さる

フランスの通貨暴落して銀行取付けを喰ひ人心不安を極めエリオ内閣は爲に瓦解す

社會科學研究事件に關係せる京都帝大生十六名無期停學となる

「京大事件」記事解禁となる
北海道大學に日本主義を標榜する「北大興亞學會」生る

奈良縣無産青年聯盟國際青年デーを敢行す
共産黨の青年訓練所赤化指令暴露す

大日本生産黨系雜誌「回天時報」創刊さる
「レフト」再び組織され同時にプロフインター日本支部として承認さる

全日本農民組合支持の下に「日本農民黨」協同會館に於て結黨す
全日本無産青年同盟東京府支部教育出版部は教育集會に關する指令及び少年勞働者の

ドイツ、聯盟に加入し常任理事國となる
ムッソリニ首相に對し少年爆彈を投ぜしも幸に事なきを得たり
ロカルノ條約本日より效力を發生す
オイケン教授逝く（八十歳）

ロシア共産黨第十五回大會開催さる

コミンテルンは日本共産黨再建大會を十一月末迄に開催すべきことを指令す

英國炭坑夫の全國的大ストライキ勃發す

イタリー政府、ムッソリニ首相襲撃に關聯し、共産黨員に對する取締を強行す

大正十五年（皇紀二五八六年・西曆一九二六年）

月日	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
月日	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
学 生 の 動 き	27	17	2	28	23	15	旬上	26	20	15	14	11	8		
國 内 の 動 き															
世 界 の 動 き															

月	日	學 生 の 動 き	國 内 の 動 き	世 界 の 動 き
10		學生自治運動漸く擡頭し「學生運動」誌創刊さる、巻頭言に曰く「學生自治權獲得のために争へ」	運動に關する方針書を發表す	
11	1	維新日本の確立を主張する國家主義團體「魂の會」拓殖大學に創立さる	香具師の愛國團體「神農會」生る	
11	1	有限責任購買組合東京學生消費組合設立認可を受く	大正十二年三月結成の「消費組合關東聯盟」は「關東消費組合聯盟」（略稱「關消」）と改稱す	
11	3		早稻田大學教授大山郁夫労働農民黨第二回大會に於て中央執行委員長に推薦せられ之を受諾し問題となり教職を退く	
11	7			
11	9			イタリー、ムッソリニ首相提案の公治安維持法下院通過、政府首脳部に對する暗殺未遂も死刑の制裁を受くることとなる
11	11	學生自治運動の最初の現れとも見るべき松山高校のストライキ勃發す		
11	11	京都帝國大學友會改革運動行はる		ジャバ島に革命暴動勃發す
11	14-2			
11	26			

月	日	學 生 の 動 き	國 内 の 動 き	世 界 の 動 き
11-12	29-6			共產黨インターナショナル中央執行委員會第七回總會クレリムリン宮殿にて開催、ジノヴィエフ幹部を去る、スターリン「再び黨の社會民主主義的傾向に關して」を演説す
12	3			
12	4		日本共產黨再建大會特別委員會結成さる 穴原温泉に於て共產黨創立大會の準備會を開く	
12	5		日本左翼運動の翻期的出來事たる第二次日本共產黨創立大會五色温泉に開催、福本、渡邊、山本、佐野文夫、唐澤、難波、國領、市川、南、荒畑、北浦等十七名出席、敏速に無産者革命を實現すべしとなし福本和夫の起草せる宣言を採擇、大會決議を齎して渡邊、佐野、中尾、福本等入露す	
12	5		小野川温泉にて新中央委員會を開催す 協同會館に於て社會民衆黨結黨す、中央委員、安部、鈴木、島中、書記長片山	
12	9		協同會館に於て日本労働黨結黨す、中央委員藤生、三宅、須永、望月等、書記長三輪	
12	9		「日本労働總同盟」内の中間派總同盟より分裂して「日本労働組合同盟」結成す	
12	10	女子學生社會科學研究聯盟第一回大會を開催す		民族革命國民軍、漢口を占領す

昭和二年（皇紀二五八七年・西曆一九二七年）

月日	学 生 の 動 き	國 内 の 動 き	世 界 の 動 き
2 2 2) 16	東京帝大新人會の主催にて東京下谷區清水町の本部に於て「赤旗開きの會」を催し新學期と共に益々其の結束を固くす 拓殖大農學生消費組合内公認團體として生る 拓大の消費組合東京學生消費組合へ加盟す 立教大學に立大讀書會なる秘密團體組織さる 早大事件批判演説會（大山郁夫教授辭職問題に關する）を芝、協調會館に於て全日本S・I主催の下に開催す 十二月十五日より豫め問題となり居たる大山郁夫教授の送別會開かる、同日の送別會は學校の行政の改革を標榜する「早稻田大學學生自治同盟」の發會式に突如轉化す	安部、大山兩教授早稻田大學を去る 名古屋に於て「勞農民政黨」結黨す 五色溫泉の黨再建大會の報告並に日本共産黨の活動方針に就き、コミンテルンの指導を受けるため中尾勝男、河合悅三入露す 産業勞働調査所の國外情報の爲機關紙「インダーナショナル」創刊さる 日本農民組合第一回大會大阪に於て開催さる、青年部も同時に大會を開く	スマトラ島に武装暴動勃發す
2 2 2) 16		日本農民組合第一回大會大阪に於て開催さる、青年部も同時に大會を開く	ブラッセルに於て「反帝國主義民族獨立支持同盟」創立大會開かる、本部をベルリンに置く 米國ユタ州議會に排日法案提出さる

月日	学 生 の 動 き	國 内 の 動 き	世 界 の 動 き
4 4 4 4-12 3 2	全日本學生自由擁護同盟は勞働農民黨其の他の團體を動かして本郷佛教青年會館に勞働農民黨主催といふ形式の下に「陰謀暴壓教育政策批判演説會」を開催す 〔學聯〕内部に學生フラクション作らる、翌三年三月迄「學聯」の活動を指導す	〔政治批判〕誌創刊さる 杉山元次郎を中心とせる、全日本農民組合、大阪天王寺公會堂に於て創立さる 日本郵船司厨部にストライキ起る、支那にも手を延ばしてスキヤップ防止に努む、但不成功に終る 日本農民總同盟鈴木文治を會長に推す 無産青年同盟・奈良縣地方聯盟、創立大會開かる 赤化防止國の相談役鹽谷慶一郎により「ボルシェヴィズム及びファッシズムの排撃・王道政治の實現」を目標に「明德會」創立さる 無産青年同盟兵庫縣支部臨時大會、政治運動に邁進を決議す 無産青年同盟東京支部大會開催さる 京大事件公判、京都地方裁判所に於て開かる	上海勞働者の暴動勃發す 米國アイダホ州に排日土地法案現はる 國際反帝國主義民族獨立支持同盟組織さる 本部はベルリン、中心人物の一人として片山潛加はる
4 4 4 4-12 3 2		〔政治批判〕誌創刊さる 杉山元次郎を中心とせる、全日本農民組合、大阪天王寺公會堂に於て創立さる 日本郵船司厨部にストライキ起る、支那にも手を延ばしてスキヤップ防止に努む、但不成功に終る 日本農民總同盟鈴木文治を會長に推す 無産青年同盟・奈良縣地方聯盟、創立大會開かる 赤化防止國の相談役鹽谷慶一郎により「ボルシェヴィズム及びファッシズムの排撃・王道政治の實現」を目標に「明德會」創立さる 無産青年同盟兵庫縣支部臨時大會、政治運動に邁進を決議す 無産青年同盟東京支部大會開催さる 京大事件公判、京都地方裁判所に於て開かる	上海勞働者の暴動勃發す 米國アイダホ州に排日土地法案現はる 國際反帝國主義民族獨立支持同盟組織さる 本部はベルリン、中心人物の一人として片山潛加はる

昭和二年（皇紀二五八七年・西曆一九二七年）

月日	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
月日	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
學生の動き	旬下	30	29	28	22	22-23	21	18	14	6		
國內の動き												
世界の動き												

「學聯」は率先して京大事件批判演説會を開く

全日本學生自由擁護同盟は全國の各學校に京大事件に關する聲明書を發表す。
全日本學生自由擁護同盟は東京基督教青年會館に於て京大事件批判演説會を開く
京大事件の被告三十七名に對し判決あり、被告等即日控訴の手續を取る

慶應義塾大學精神科學研究會兼田胸喜教授を中心に結成さる

大日本聯合女子青年團創立さる

鈴木商店破綻、十五銀行休業、財界極度に混亂す
鈴木商店の破綻に關聯し、財界の混亂甚だし、遂に全國銀行臨時休業す
樺府にて二十二日より三週間に亘る支拂猶豫緊急勅令案可決公布さる

洋モス、富士紡、安川電機、芝浦製作所等の爭議に左翼分子頻りに策動す
プロレタリア藝術聯盟中の非マルクス主義的色彩のもの新に「日本無産派文藝聯盟」を結成す

北京ロシヤ大使館共產黨宣傳の嫌疑により支那官憲の搜索を受く
蔣介石の斷堅により、上海の労働者組織破壊さる
蔣介石を首腦とする反共產派南京政府樹立さる

コミンテルン本部に於て日本共產黨編纂即ち所謂「三スローガン」作成さる
蔣介石のクーデターにより中國共產黨潰滅す

月日	5	5	5	5	5	5	5	4-8	4	4
月日	5	5	5	5	5	5	5	4-8	4	4
學生の動き	21-23	18-30	12	11	5	4	2			
國內の動き										
世界の動き										

金融恐慌の際工場閉鎖賃金値下反對等のスローガンを掲げ左翼分子の策動頻發す
日本共產黨内に「福本イズム」をめぐるインテリと労働者の對立あり、福本、渡邊、徳田等コミンテルンの批判を求むるため大正十五年十二月の五色温泉會合席上決定せる宣言・綱領を掲げて密かにモスコイに向つて脱出、その外六月頃まで日本共產黨代表者として八名入露す

明徳會機關紙「明徳論理」創刊さる
無政府主義より轉向せし遠藤友四郎(無水)等中心となり「錦旗會」を創立し機關誌「錦旗」を發刊す

無産青年大衆の組織を目的とする無産青年同盟大阪中央公會堂に於て第一回擴大中央執行委員會を開く

社會主義者サッコ、ヴァンゼッチの兩名死刑につき世界的反對運動起る
ロンドンに於てコロコス商會(ソヴィエット・ロシヤ經營)搜索さる
國際經濟會議ジュネーヴにて開催さる

コミンテルン執行委員會第八回擴大總會開催、スターリン「支那革命とコミンテルンの使命」につき演説す

漢口に於て太平洋労働組合會議開催、太平洋沿岸諸國労働組合の常設中央機關として太平洋労働組合書記局を設置する事に決す

月日	學生の動き	国内の動き	世界の動き
5 5 5 5 5 31 25 24	東京帝大社會科學研究會を文化科學部として學友會中央部直屬より獨立せしむる件委員會にて激論の末可決さる	反帝同盟の先驅「對支非干涉同盟」創立さる	定、此の會合に於て日本代表として山本懸藏、西村菊喜、白土五郎等の六名出席す、機關紙英文パンパシフィック・モンスリー及びパンパシフィック・ワーカー、支那文、太平洋工人、邦文、太平洋勞働等を發刊す 英露間の國交遂に斷絶す
6 6 6 6 6 15 11 9 7 1	「京大事件」以來學聯に代り學生運動を指導し居たる全日本學生自由擁護同盟(S・I)解體「學聯」再び表面に現れ活動し始む 東京帝大辯論部は吉野作造博士を議長として對支問題討論會を行ふ、辯論部、新人會の左傾團體と右傾團體七生社との間に對立關係深刻化す 九州帝大の中華民國留學生等(山東出兵反對)の運動を始む 第二高校學生寄宿舎改善要求に端を發し學生大會を開き翌十六日より遂に盟休に入り	「立憲民政黨」結成さる 日本プロレタリア藝術聯盟の實際派分裂して「勞農藝術家聯盟」を結成す	ワルソー、ソヴィエット大使、十九歳のロシア王國黨員に暗殺さる

月日	學生の動き	国内の動き	世界の動き
7 7 7 7 7 16-18 16 15 12	二十七日漸く解決す 明治大學讀書會解散を命ぜらる 明治大學の社會科學研究會解散を命ぜらる	關東婦人聯盟左翼的指導精神により結成す 石川縣無産者協會金澤市に發會無産大衆の政治教育、社會科學研究、共濟事業を標榜す 勞働婦人聯盟、勞働總同盟内に設置さる 出版物の「檢閲制度改正期成同盟」成立す	ウキーンに勞働者暴動勃發す 上海、ダリ銀行(ソヴィエット・ロシア經營)中國官憲により搜索閉鎖さる オーストリアに革命的暴動勃發す モスコに於けるコミンテルンの會議に於て「日本に關する七月テーゼ」決定さる
7 7 7 7 7 11 8 3	國家主義の學生團體「勸教會」法政大學内に生る		
6 6 17			コミンテルンの諸種の會合モスコに於て開催、各國の代表者召集さる

月日	8	8	8	8	8	7	7
月日	22	9	7	1			
學生の動き							
国内の動き	<p>無産青年同盟山形縣支部山形市に於て發會 日本共産青年同盟結成さる</p> <p>黒色聯盟主となりサツコ、ヴァンゼッチ死刑 反對演説會開催さる</p>						
世界の動き	<p>南昌に於て賀龍、葉挺軍の革命暴動勃發す 中國共産黨臨時會議開かれ左翼日和見主義 者として陳獨秀排撃さる</p> <p>ロシア共産黨中央委員會國防の充實を決議す ボストンに於てサツコ、ヴァンゼッチの兩名 死刑となる</p>						

月日	10	10	10	10	10	9	9	9	9	9	8
月日			25-30	8	2		6	4	1	1	
學生の動き	<p>關西學院に盟休事件起る</p> <p>京親帝大社會科學研究會、學友會の一部と なるべく活動す、尚總會に於て一、河上肇 博士主宰の經濟批判會の積極的支持、二、 無産者新聞の積極的支持、三、社會科學研 究の普及等を決議す</p> <p>學生フлакシオン中の有能メンバーを抜擢 して學生半合法委員會を構成しその補助</p>										
国内の動き	<p>田口康信を中心に愛國團體大邦社創立さる 「無産者新聞」月六回發行となる</p> <p>東京社會科學研究所、大塚金之助、岩崎卯 一等によりて東京駿河臺に開催、純學理的 研究を標榜す</p> <p>日支豪鮮無産青年同盟主催懇親會を東京神 田錦町にて開催、解散を命ぜられ多數檢束 者を出す</p> <p>「大杉榮道悼會」黒色聯盟系の人々により京 都、廣島に於て開催さる</p> <p>府縣會議員選舉戦各地に行はる、無産政黨 の當選者數は労働黨十三名、日労働三名、 社會黨三名、農民黨四名、地方政黨五名、 中間派と目さる、全國婦人同盟協同會館 にて創立大會を開く</p> <p>モスコイに於けるコミンテルンの諸種の會 合に出席したる日本共産黨の代表者七月テ ーゼを携へ相前後して歸朝す</p>										
世界の動き	<p>英國共産黨第九回大會開催、黨員一ヶ年間 に三千五百名(約三分の一)減少せりと報告 さる</p>										

昭和二年 (皇紀二五八七年・西曆一九二七年)

月日	學 生 の 動 き	國 内 の 動 き	世 界 の 動 き
11 10-11 7 1	組織として翌三年三月頃まで活動す 關西大學に於ける専務理事教授等排斥のた め盟休事件勃發す 東大社會科學研究會を文化科學部の名のも とに獨立せる學友會の一部となす件理事會 に於て正式に承認、年來の懸案漸く解決す	ロシア革命十周年記念演說會全國重要都市 に於て一齊に舉行、尙當日右翼團體は共產 黨抹殺デ－を行ひ各所にて衝突す 無産青年同盟、黨の大衆化の方針のもとに 全國大會を開催す 思想問題に關し九州帝大に紛擾勃發、六 教授休職となる 「労働藝術家同盟」より「前衛藝術家同盟」分 裂、前衛誌を發刊す	露都モスコ－に於て革命記念十周年祭盛大 に舉行さる、記念祭を期として共產黨入黨 條件を緩和して黨勢擴張を計ることゝなれ りといふ トロツキー、ジノヴィエフ兩名中央監察委 員會の名に於て執行委員より除名さる 「ロシアの友」大會モスコ－にて開催、四十 三ヶ國の代表者出席す 支那に於ける最初のソヴィエツト組織たる 海豊ソヴィエツト成立す モスコ－に於て「國際革命作家同盟」(モル ブ)結成さる
11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 23 21 17 16 12 旬上 10 7 1	第六高校に於て學生ノート制教授方法改善 運動勃發し左傾學生頻りに動く	日本共產黨の再組織、日光山中に於てコミ ンテルンの會合に出席決定せる事項につき 秘密報告會を開きて承認を得、且十三のス ローガンよりなる日本共產黨綱領に従つて 「政治テーゼ」「組織テーゼ」を作成して黨の 立直しをなし労働大衆に基礎をおき工場細 胞を以て黨の基礎組織となす方針の下に黨 の組織を改むる事となる 無産青年同盟全國に兵役短縮デ－を敢行す	ロシア共產黨第十五回大會開催反幹部派彈 壓さる 支那廣州にソヴィエツト政權樹立さる 廣東共產軍敗北し、ロシア總領事捕へられ、 國民政府は對露斷交を通牒す ロシア共產黨大會トロツキーを首班となす カーメネフ、ラデック等の反幹部派全部除 名す 後藤新平モスコ－に到着、カラハン、チチ エリン等と日露親善のため會商す

月日	學 生 の 動 き	國 内 の 動 き	世 界 の 動 き
12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 23 22 18 13 11 2 1 1		「青年衛兵」紙日本共產青年同盟關西地方委 員會機關紙として創刊さる 山川均主幹の「勞農」創刊さる 日本主義労働運動の團體として知らるゝ東 京石川島の自警労働組合に自警購買組合設 置さる	

昭和二年 (皇紀二五八七年・西曆一九二七年)

月日	1	1	1	1	1	1	1	1
月日	27	23	24	21	19	18	10	5
學生の動き	<p>東京帝大辯論部は高等學校長會議の申合せを言論壓迫となし、言論の自由要求の演説會を開催、この會場に於て辯論部の左傾的行動を難する七生社員と辯論部を擁護する新人會員との混闘事件勃發、負傷數名を出す</p> <p>東京帝大共濟部提唱の下に都下各大學の共濟部を一九とす共濟部聯盟發會、不正下宿征伐のために活動する事を申合す</p>							
國內の動き	<p>日本農民黨は無産政黨合同問題につき積極的行動をとることを決議す</p> <p>「無産青年」の兵役短縮運動と建國會の國民皆兵運動との衝突事件勃發す</p> <p>全日本農民組合、全日本農民組合同盟、中部日本農民組合の合同實行委員會岐阜市に於て開催、全日農同盟を除く外合同成立す</p> <p>第五十四回帝國議會解散せられ我が國最初の普通選舉田中内閣によりて行はる事になり無産黨は種々の意圖をもつて最初の議會進出を企つ</p> <p>築地の左翼劇場は劇公演に労働者券を發行、プロレタリアに廣く働き掛く</p>							
世界の動き	<p>ロシア對外文化協會は訪露中の後藤子一行を招き盛大なる日露親善の集りを催す</p> <p>ロシア共産黨は反幹部派トロッキー等の流刑處分願末を發表す</p>							

月日	1	1	2	2	2	2	2	2
月日	1	1	1	15	3	3	1	20
學生の動き	<p>九州帝大社會科科學研究會は學聯事件後解散されしも再び同名にて復活す、但四月十九日再び解散となる</p> <p>全日本學生自由擁護同盟再組織強化さる</p> <p>全日本學生自由擁護同盟の演説會に於て左右兩派の學生衝突す</p> <p>東京帝大學友會内の運動各部は結束して左右兩翼の思想的闘争を煩はしとして學友會脱退を決議す、爲めに學友會改革の輿論沸騰するに至る</p> <p>全日本學生自由擁護同盟主催の下に「都下學生懇談會」を開催、選舉闘争運動に付協賛(本部帝大前一白舎に於て)決議文を作成して文部・内務兩大臣に送る</p> <p>全日本無産青年同盟の後援の下にて東京基督教青年會館に於て學生參政權獲得演説會を開催す</p>							
國內の動き	<p>「七月テーゼ」に基き日本共産黨組織變更さる</p> <p>共産黨の軍隊赤化運動表面化し軍隊内にグループ組織計畫發覺す</p> <p>共産黨の機關誌「赤旗」新しく刊行さる</p> <p>香川縣に於て無産派候補大山郁夫の運動員檢舉され労働黨は田中、三土、小川の三大臣を選舉違反にて告訴す</p> <p>第一回普通選舉行はれ、無産政黨に於ては労働黨二名、日労働黨一名、社民黨四名、九州民憲黨一名、當選、労働黨より立候補せる日本共産黨の候補者八名は全部落選す</p>							
世界の動き								

昭和三年 (皇紀二五八八年・西曆一九二八年)

月日	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2
月日	15	13	13	13	10	9	6						
學生の動き	<p>東京帝大内の學生團體協議會は辯論部、文藝部、新人會、帝大キリスト教青年會等十七團體の名に於て七生社糾弾、暴力反對の聲明書を發表、新人會の主唱により、暴力に對し、各團體協議會學生自衛の爲結成す</p>												
國內の動き	<p>「ユース」を日本共産主義青年同盟と改稱す 左翼藝術同盟並に闘争藝術聯盟結成、但いづれも四月二十九日にナッブに解消す 「青年戦士」紙、日本共産主義青年同盟關東地方委員會機關紙として創刊さる 無産者解放運動犠牲者救済機關として解放運動犠牲者救済會組織のため準備集會催さる 無産黨議會對策共同委員會成る 労働黨無産黨の合同を提議す プロレタリア藝術家諸團體、共同戦線を要望し「日本左翼文藝家總聯合」を結成す 佐野學黨大會開催準備のため上海に出發す 拂脱全體的に第二次共産黨の大檢舉行はる これ三・一五事件として知られ居るものにして捕殺檢舉者千餘名に上る、内學生關係者百二十九名</p>												
世界の動き	<p>張學良北滿獨立を企て楊宇霆を殺害す ソヴェエト聯邦ドンバス炭坑に於て反ソヴィエット陰謀發覺す</p>												

月日	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
月日	30	23	25	16-30	16								
學生の動き	<p>東京帝大學生會は二月三日以來甚だしく紛糾をつよげ居たりしがその根本的改革案遂に成らず當局より解散を命ぜらる、學友會は大正十二年五月「一切の權力を學生大衆の手へ」を標語として生れたるものなり</p>												
國內の動き	<p>三・一五事件に關聯し左翼諸團體合同聲明書を發表す 「プロ藝」と「前衛藝術同盟」合同して新黨準備會を支持し「全日本無産者藝術聯盟」(ナッブ)を結成し、同時に「前衛」及び「プロレタリア藝術」の兩誌は廢刊新に機關紙として「戦旗」誌(五月に至り創刊)を刊行することを協議す 中部農民組合創立大會岐阜市に於て開催さる 日本労働運動の先驅たりし足尾銅山労働組合勢力を失ひ解散す 日本労働組合評議會はプロフィンテルン第四回大會に代表者を送り日本支部として承認さる、但三・一五事件直後結社禁止を命ぜらる</p>												
世界の動き	<p>パナマ國民議會、移民法修正案を可決し、日本人の入國禁止を解く 赤色労働組合インターナショナル(プロフィンテルン)第十四回大會モスコイに於て開催三十七ヶ國の代表者參集す コミンテルンは日本の三・一五事件を重大なりとし當時モスコイの東洋労働者共産主義大學に在學中の南嶽外三名に日本共産黨</p>												

昭和三年 (皇紀二五八八年・西曆一九二八年)

月日	4	4	4	4	4	4	4	3
月日	12	11	10	8	7	6	5	
學生の動き								
国内の動き	<p>「マルクス主義」誌上に「七月テーゼ」論議發表さる</p> <p>「京大事件」控訴公判、大阪控訴院に於て開延されたるが被告の大部分は日本共産黨事件のため拘束されて出延不能となりその内十一名のみ出延す</p> <p>「京大事件」公訴公判第二日目に於て被告村上正夫より拘束中の被告を除外する分限裁判の不公平を理由として裁判長忌避の申立をなしたるため公判中止となる</p> <p>野田醬油争議及び選挙戦の犠牲者救援を目的に解放運動犠牲者救援會、協同會館にて發會これ「モップル運動」の具體的活動の初めとす</p> <p>黨中央事務局員中尾勝尾、淺野光、門屋博檢擧さる</p> <p>労働農民黨、日本労働組合評議會、全日本無産青年同盟の三團體結社禁止處分を受く一名四・一〇事件と稱す</p> <p>三・一五檢擧事件記事差止め解禁となる</p> <p>舊労働黨員の新黨組織準備會解散を命ぜらる</p>							
世界の動き	<p>再建の旨を含めて歸朝せしめ更に七月までに相馬一郎、額口重郎等十六名のをひそかに日本に歸還せしむ</p> <p>ロシア共産黨中央委員會は作付反別の減退回復に努め新農業政策を立案す</p>							

月日	4	4	4	4	4	4	4	
月日	19	19	18	17	17	16	15-1)	
學生の動き	<p>全国各大学の社会科学研究会及び之と同種の學生團體多くは學校當局によりて解散を命ぜらる</p> <p>全日本學生自由擁護同盟は共産黨檢擧社會科學研究会解散に對して暴徒反對の檄文を全國各學校左傾學生團體に發し、「學聯」解散によりて歸趨に迷ふ會員に中心勢力の所在を示し之に参加する事を訴ふ</p> <p>東京帝大臨時評議會開催されこの結果新入會に解散命令下る、新入會は直ちに谷中の本部に於て臨時總會を開催、以後學外團體として合法的及び非合法的活動をなす事に決定す</p> <p>京都帝大社會科學研究会に解散命令下る</p> <p>九州帝大、東北帝大の社會科學研究会に解散命令下る</p> <p>東京帝大舊新入會、舊文化科學研究部等所屬の學生等「帝大暴徒反對同盟」結成當局の取締に反抗新運動方法にクラス・アジ戰術を採用す</p>							
国内の動き	<p>全日本無産青年同盟の殘存分子、同盟の結社禁止に反抗し、東京支部臨時對策委員會の名を以て聲明書を發し、且再組織を全國各支部に指令す</p> <p>京都帝大教授河上肇及び東京帝大助教授大森義太郎辭職す</p> <p>水野文部大臣學生思想問題に關する訓令を發す</p> <p>野田醬油争議解決、抗爭七ヶ月罷業のレコードを作る</p>							
世界の動き								

昭和三年（皇紀二五八八年・西曆一九二八年）

月日	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
月日	20	21	26	27	28	29	30	30	30	30
學生の動き	京都帝大に於て「暴壓反對運動」の名の下に學生大會を開催す									
國內の動き	四月十日「無産青年同盟」結社禁止せられたるためその再建を目標に「新青年同盟準備會」結成さる	普選後第一回議會召集、停會二度、内相辭職問題等にて議場混雜す	九州帝大の左傾教授として問題となりし佐々弘雄、石濱知行、向坂逸郎の三教授依頼免官となる	普選第一回議會に於て尾崎行雄提案の思想國難決議案可決さる						
世界の動き										

月日	4	5	5	5	5	5	5	5	5	
月日	1	4	初	18	21	26	27	29	29	
學生の動き	農業大學に於て専門部學生、主體となり「暴壓反對の運動」の名の下に學生大會を開き六箇の條項を決議して學校當局へ提出す	全日本學生自由擁護同盟(S・L)主催の下に「暴壓反對自由擁護學生協議會」を神田に開催し學校當局への抗議文並に其の理由書を作製し更に十箇條の決議をなす	全日本學生自由擁護同盟(S・L)學生運動の目標として綱領を記したる印刷ビラを各學校に配付して暴壓反對運動を指導す							
國內の動き	コミンテルン當局は日本共産黨再建の計畫の下に共産黨大學(クートベ)在學中の南嶽、吉村英、酒井定吉、船具幸作の四名を先發隊として歸國せしむ、七月までに相馬一郎、山本正美等十五名も引きつゞき歸國頻りに策動す									
世界の動き										

昭和三年（皇紀二五八八年・西曆一九二八年）

治安維持法改正の勅令案閣議にて承認さる

舊日本農民組合系及び舊全日本農民組合系の分子合同して全國農民組合を組織、本部を大阪に置く

ドイツ總選挙の結果社会民主党大勝し國權黨は勢力を減ず

ベルリンに於て赤色職工同盟全獨逸大會開催さる

フランス總選挙の結果は右翼稍々優勢首相ポアンカレ氏側勝利を獲得す

昭和三年（皇紀二五八八年・西曆一九二八年）

月	日	學 生 の 動 き	國 内 の 動 き	世 界 の 動 き
5	5	京都帝大事件關係者の第一審判決下る	全日本無産者藝術聯盟の機關誌として「戦旗」創刊、その最も盛なる時に於て二萬二千部發行され居たりといふ、昭和六年十二月廢刊となる	張作霖奉天にて爆死し、日・支國交緊張す
5	30	全日本學生自由擁護同盟(S・L)の行動綱領草案作成さる	四月十日結社禁止命令を受けたる「評議會」は再建の爲め「全國的單一勞働組合聯合促進關東地方協議會準備會」を結成す	ロシヤ共産黨中央執行委員會、地方機關に對し民主化宣言をなし注目さる
6	6	第五高校にて社會科學研究の秘密團體の組織發覺す	東京神奈川の府縣會議員選舉戰に「新勞農政黨組織準備會」參加す	ロシヤ共産黨の反幹部派として昨冬除名されたるジノヴィエフ、カメネフ、ラデック等トロツキー一派と分離を聲明し黨復歸を許可さる
6	6	全日本學生自由擁護同盟(S・L)は暴徒反對運動の爲關東の各學校に檄文を發す	治安維持法改正法の緊急勅令案、樞府委員會を警告的決議付にて通過す	
6	6	全日本學生自由擁護同盟(S・L)は都下學生自治協議會を開催す、出席約六〇〇名	「福本イズム」の主唱者、共産黨員福本和夫檢察さる	
6	6-7	校長排斥問題起り山形高校盟休事件勃發、七月一日漸く解決す	緊急勅令により治安維持法改正さる、國體を變革せんとする罪に對しては死刑又は五年以上の刑に處せらるゝ事になる	
6	6-7	水戸高校盟休事件勃發す	四月十日解散を命ぜられし獨勞農黨の解散取消の行政訴訟開廷さる	

月	日	學 生 の 動 き	國 内 の 動 き	世 界 の 動 き
6	6	「女子學聯」關係學生檢察さる	帝國政府は第五十五特別議會に於て追加豫算を要求し之によつて全國に特高課を設け、内務省には勅任事務官を課長とする保安課並に警務官制度を新設す	九月一日まで第三インターナショナル第六回大會モスコに於て開催さる
6	30		全國協議會準備會開かる	中國共産黨第六回大會開催、黨内の一掃暴
7	7		治安維持法反對の所謂國講堂事件勃發す	
7	7		特高警察充實のため新官制公布さる	
7	7		全日本農民組合創立大會名古屋市に於て開催さる	
7	7		「無産青年」新無産青年同盟準備會の機關誌として創刊さる	
7	7		全國農民團體協議會岐阜に於て開催成立す	
7	7		國際消費組合デー記念講演會開催さる	
7	7		無産大衆黨東京本郷キリスト教青年會に於て結黨す	
7	7		富山電燈爭議惡化す	

昭和三年（皇紀二五八八年・西曆一九二八年）

昭和三年（皇紀二五八八年・西曆一九二八年）

月日	学 生 の 動 き	國 内 の 動 き	世 界 の 動 き
8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 7 7 7 27 25 20 15 11 11 4 3 1 1 1		<p>對支非干涉同盟、戰爭反對同盟と改稱す 「立憲」反對全國農民團體協議會開催さる 三・一五事件以後コミンテルンより日本共産黨再建の命を受け相馬一郎、瀨口重郎等十六名許りの黨員本月までに密かに歸國頗りに潛行的策動をなす 岩田愛之助を中心に愛國社創立さる 第一回文部省思想問題講習會開催、五日終了、以後毎年開催さるゝこととなる 床次竹次郎突如新黨樹立を聲明す 田中首相瀨口民政黨總裁を訪ひ外交及び思想問題を朝野一致協力して研究することを提議す 三・一五事件後黨活動の中心人物の一人河合悦三檢舉さる 東京市河舟板橋問題の醜事件暴露す 「全國非戦同盟」結成さる 「無産者新聞」新聞紙法違反として起訴さる 七生義團創立、機關紙「人民新聞」を發刊す</p>	<p>勤主義と右翼日和見主義への闘争、中心議題となる</p>
		<p>労働組合關東協議會大會中止解散となる 文部省に思想善導の機關として學生課新設の件閣議にて正式決定す 無産大衆黨と同黨系の地方無産黨との合同結成なる 共産黨「中央特別會議」鍋山貞親中心となり、黨大會に代るべき全國會議準備の爲め開催さる 文部省に思想善導のため學生課の設置其他施設に關する十四萬六千圓の責任支出の件決定さる 全國借家人組合總聯合會創立大會解散を命ぜらる 共産黨事件は全國十二地方裁判所の内東京を除く十一裁判所の豫審決定す 東京以外の各地共産黨事件豫審終了す</p>	<p>國際共產青年同盟第五回大會開かる パリに於て十五ヶ國代表により不戰條約調印さる</p>

月日	学 生 の 動 き	國 内 の 動 き	世 界 の 動 き
9 9 9 6 9 9 9 9 9 8 8 21 19 18 15 11 旬上 10 8 2 29	<p>東京帝大其の他の左傾學生中心となり「戰爭反對同盟」なる秘密團體を組織し「反戦ニュース」リーフレット等を配布す 第二高校に社會科學研究會の組織發覺す</p>		
	<p>全日本學生自由擁護同盟(S・L)は新學期に入るや逸早く運動を開始し「暴壓の嵐を</p>		
			<p>イタリア首相ムッソリニを議長となすファシスト黨大會議は同會議を法制化する法案並にムッソリニをイタリアの事實上の統治者とする新法案を可決す</p>
			<p>トルストイ百年祭モスコイに於て盛大に舉行さる</p>

昭和三年（皇紀二五八八年・西曆一九二八年）

昭和三年 (皇紀二五八八年・西曆一九二八年)

月日	9	9	9	9	9	9	9	9-10	月日
10	10	10	10	10	9	9	9	9	9
6	3	1	1					25	21 21-20
學生の動き	<p>前にして全男女學生に訴ふ」と題する長文の檄文を發す、各校の支部又之に策應し、その組織擴大強化に努む</p>								
國內の動き	<p>四月十日解散命令を受けたる全日本無産青年同盟「無青」第五號に於て再建を指令す 日勞黨、無産黨合同を決議し合同問題各方面に波及す 日本勞農組合全國協議會準備會結成さる 西田税を中心にして右翼團體士林莊創立さる コミンテルン第六回大會に日本共産黨の代表として入露したる市川正一、高橋貞樹、間庭末吉等露國より密かに歸る 渡邊政之輔、鍋山貞親神戸より脱出大連を経て上海に逃亡す 陪審官實施さる 日本共産黨幹部國領伍一郎、丹野せつと共に檢察さる 日本共産黨幹部渡邊政之輔基隆に於て自殺す、左翼は之を彈壓による死亡なりとし渡邊政之輔「テ」として闘争記念日の一となす</p>								
世界の動き	<p>ロイズ(ポーランド)に於て紡績工の總罷業勃發す ドイツ造船工五萬人賃銀問題に端を發しストライキを執行す ソウイェット・ロシア第一次五年計畫を實施、一九三二年十二月三十一日完了せしむ</p>								

月日	11	11	11	11	11	10	10	10	10	10	10	月日
10	8	7	5	2		30	29	29	15	12	11	月日
學生の動き	<p>東京帝大學生消費組合學内團體としての公認申請問題遂に當局より不許可となる</p> <p>東大學生消費組合學内公認團體としての許可絶望となりため正門前に東京學生消費組合本郷支部を設立し申込受付を開始す ロシヤ革命記念日をトシ赤門學生消費組合は東京學生消費組合の支部として設立開業す</p> <p>立命館禁衛隊創立さる</p>											
國內の動き	<p>「無産青年」第六號を發行、其の後同盟の組織破壊のため一時中絶す 賀川豊彦を中心にして社會民主主義者により「全國非戦同盟」結成さる 内閣統計局我が國民所得を發表、一世帯千二百二十圓一人當二百圓餘 長野縣共産黨事件第一回公判開廷さる 文部省専門學務局學生課を新設し、同時に大學・高等學校・専門學校に専任學生・生徒主事設置の勅令發布さる 三田村四郎等共産黨の黨勢擴張のため臨時指導部を設置す 日本プロレタリア美術展東京にて開催さる</p>											
世界の動き	<p>全日本無産青年同盟解散命令の後をうけて勞農黨の傘下より「全國勞農青年同盟結成」のためその第一回創立準備會開催さる 教育振興に關する御沙汰書御下賜遊ばしの</p> <p>米國共和黨候補者フーヴァー壓倒的多数をもつて同國大統領に當選す</p>											

昭和三年 (皇紀二五八八年・西曆一九二八年)

昭和三年（皇紀二五八八年・西曆一九二八年）

月日	學生の動き	國內の動き	世界の動き
11 11	精華會日本大學専門部に生る	右翼聯盟結成運動起る	ファシスト黨最高評議會を憲法上の最高機關となす案上院に於て一八一對一九にて可決さる
11 11	戊申會東京高等師範學校内に生る	大山郁夫、細迫兼光等の新労働黨立憲準備會解散を命ぜらる	トルコ國會は滿場一致本日より全國の新聞を一齊にアビシニヤ文字よりローマ字に改正、諸官廳は來月一日よりローマ字に改正を斷行する案を可決す
11 11	水戸高校に社會科學研究の秘密團體組織、發覺す	三田村四郎等前月結成せる臨時指導部を中央ビニローに解消せしめ策動を繼續す	國際労働事務局長トーマ日本を訪問す
秋 1	關東學生雄辯聯盟は本郷佛教青年會館に於て暴壓反對演說會を開催して學生大衆の團結、言論、研究、集合の自由、不當解散絕對反對、不當處罰絕對反對、警察權の學内干渉絕對反對等を高調して學生の團結闘争を振動す	國際文化研究所、秋田雨雀を中心にして生る	
12 12	東大駒場社會科學研究會解散を命ぜらる	農民黨、大衆黨等日労働黨に合同を申込む	
12 12	校友會の自治問題に關聯し北海道帝大盟休事件勃發、十二日夜解決す	社會主義黨系の無産青年新に社民青年同盟を結成す	
12 5		三・一五事件以降休刊の「全協」系機關紙「労働新聞」復活第一號より再刊す	
12 5		「労働立法促進委員會」は「日本労働總同盟」	

月日	學生の動き	國內の動き	世界の動き
12 12	關東學生雄辯聯盟は上野自治會館に於て二回目の社會思想暴壓反對の演說會を開催す	「日本海員組合」「官業労働總同盟」「海軍労働組合聯盟」及び「海員協會」の五團體により結成さる	ファシスト獨裁案イタリヤ下院を通過す
12 12		國際労働事務局長トーマ入京、極左系はトーマ排撃の運動を起す	タールハイマー、ドイツ共産黨より除名さる
12 12		原法相閣議に十一月三十日現在大學、高等學校、専門學校學生關係の共産黨被告人三十二校百四十七名（内卒業四十八在學三十一、中退六十九）と報告す	
12 12		文部省に第一回學生・生徒主要會議開かる	
12 12		協同會館に於て日本労働黨、日本農民無産大衆黨、民衆黨、中部民衆黨、信州大衆黨、鳥取自由民衆黨の七黨合同による「日本大衆黨」創立さる	
12 12		新労働黨創立大會三日間に亘り本所公會堂に於て開催さる	
12 12		新黨準備會解散を命ぜられ、非合法大デモンストレーションを決行、數百の檢束者續出す	
12 12		全日本無産者藝術聯盟（本年四月二十九日	

昭和三年（皇紀二五八八年・西曆一九二八年）

昭和三年 (皇紀二五八八年・西曆一九二八年)

月日	學 生 の 動 き	國 内 の 動 き	世 界 の 動 き
12 25		結成)は全日本無産者藝術團體協議會(略稱同じくナツプ)に擴大強化さる	
12 28		「日本労働組合全國協議會」全國代表會議によつて結成さる	
12 末	高知高校に社會科學研究の秘密團體組織發覺す	大山郁夫を中心とし政治的自由獲得労働同盟全國準備會(略稱政獲労働同盟)なる非合法團體創立さる	
		共産青年インターナショナル東洋部員佐野博日本共産黨青年同盟再建の命を受けてモスコより歸國す	
		市川正一、三田村四郎、間庭末吉の三名筑波山にて謀議をこらし共産黨再建をはかる	
			全露農村に反共産運動播頭し始め政府苦慮す

月日	學 生 の 動 き	國 内 の 動 き	世 界 の 動 き
1 5		日本共産黨青年同盟佐野博、高橋貞樹、市川正一等によりて再建さる	ユーゴスラヴィヤ國會解散され國王獨裁の新法律出づ
1 8		水谷長三郎聲明書發表労働同盟と分離す	國王の歐化主義禍ひシアフガニスタンに革命起りアマムラカン王退位す
1 15		京都市水谷代議士の法律事務所に於て労働大衆黨創立さる	
1 17		社會民主主義系「全國青年同盟」結成さる	
1 20		日本プロレタリア美術家同盟(P.P.P.後にT.A.P.)結成、機關紙「美術新聞」機關誌「プロレタリア美術」昭和四年十一月創刊さる	
1 20		堺眞柄、岩内トシエ等を中心とする「無産婦人同盟」結成さる	
1 29		「全國労働青年同盟」結成さる	
1 1	東北帝大社會科學研究會再組織されしも間もなく發覺す	日本共産黨所謂當面の十三スローガンを赤旗二十五號に發表す	コミンテルン執行委員會議長ブハーリン、書記長スターリンと衝突失脚す
1 1	第六高校在學中の支那留學生等左傾學生と呼應して、對支非干涉運動を起す	日本プロレタリア映画同盟(プロキノ)成る	
1 1	弘前高校頭休事件勃發す	機關紙「映畫グラフ」(昭和六年十一月十五	
2 1		日本共産黨所謂當面の十三スローガンを赤旗二十五號に發表す	
2 2	山形高校社會科學研究會の組織發覺す	機關紙「映畫グラフ」(昭和六年十一月十五	

昭和四年 (皇紀二五八九年・西曆一九二九年)

昭和四年 (皇紀二五八九年・西曆一九二九年)

月日	学 生 の 動 き	國 内 の 動 き	世 界 の 動 き
23 18 15 13 11 10 9 6 6 4	<p>昭信會第一高校内に生る 六年の歴史を有せし早稲田大學新聞會第百六十一號を最後に解散す</p> <p>同志社大學新聞會解散昨年發刊以來三十六號にて終刊す 本月六日解散せし早稲田大學新聞「早稲田學生新聞」として再興第一號を發刊す</p>	<p>日創刊「機關紙」プロキノ(昭和七年五月十日創刊)</p> <p>日本プロレタリア演劇同盟(プロット)成る 機關紙「演劇新聞」プロレタリア演劇「機關誌」(プロット)(昭和六年九月創刊)本同盟には東京左翼劇場、大阪戰旗座その他地方劇團之に加盟し策動す</p> <p>日本プロレタリア作家同盟(略稱ナルプ)國際革命的作家同盟(モルブ)の日本支部となすべく創立さる、昭和六年十月より機關紙「文學新聞」機關誌「プロレタリア文學」を刊行す</p> <p>日本プロレタリア作家同盟の創立大會開催さる</p> <p>日本大衆黨分裂し舊日勞黨系のみ殘留す</p> <p>不戰條約第一條中の「人民の名に於て」なる字句議會に於て問題となる</p>	<p>イタリイ國とローマ法王廳との間の過去六十年間の不和一掃和解調印成る</p>
2 2 2 2 2 2 2 2 2 2			

月日	学 生 の 動 き	國 内 の 動 き	世 界 の 動 き
28 25 15 15 15 9 5 2 2 2	<p>第三高校に社會科學研究會再組織され約二十名の會員を獲得外部と連絡を保ち活動せしこと發覺す</p> <p>第四高校に於て極めて左傾的色彩強き學生同人雜誌「廣場」發刊、當局より配布禁止回收を命ぜらる</p>	<p>鍋山貞親上海より歸國し、工場労働者獲得運動俄かに活發となる</p> <p>佐野博の筆になる「日本共産青年同盟の任務に關するテーゼ」をパンフレットの形にて發表す</p> <p>山本宣治代議士七生義團員黒田保久二の爲刺殺さる、十五日勞農葬を以て葬らる</p> <p>山本宣治代議士の勞働農民葬京都キリスト教青年會、東京青山齋場其の他各地に執行され多數の檢束者を出す</p> <p>「無産青年」復活、日本共産青年同盟は再び公然其の姿を大衆の前に現はす</p> <p>東京市議選舉に於て無産派議員六名當選す</p> <p>「無青」特別號を以て「我が革命的プロレタリア青年運動當面の任務」を發表す</p> <p>此の月より六月にかけ市町村會議員選舉を機會に日本共産黨は唐澤清八等獄中の共産黨報告を立候補せしめ、盛んに選舉闘争を</p>	<p>ベルリンにて國際反ファシズム會議開催さる</p> <p>ロンドン失業者飢饉行進行はる</p> <p>ファシスト專制の下に伊國の總選舉終る</p> <p>露國聯邦ソヴェエト大會に於て五箇年計畫案可決確定さる</p>
3 3 3 3 3 3 3 3 2 2 2			

昭和四年 (皇紀二五八九年・西曆一九二九年)

月日	3	3	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4			
月日	3	3	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4			
學生の動き	前年一月再組織されたる全日本學生自由擁護同盟(S・I)解體、學生運動に於けるS・Iの歴史に終結す	「學生非合法グループ」結成、單に學生グループ或はグループと略稱す	關東學聯の幹部會を開き、學聯の新方針を慎重討議しその結果採用せる方針は「學生テーゼ」として發表さる	「無産青年」第二號に「革命的學生青年の任務に就いて」なる所謂「學生テーゼ」を發表「學聯」の解體方針につき指令す	同志社大學新聞の不穩記事に關聯して同志	國內の動き	祖國同志會は從來右翼雜誌「祖國」の讀者の集合に過ぎざりしも愈々思想團體として活動を開始す	左翼分子香川縣に地盤奪還運動を起す	全國農民組合第二回大會開催さる	三・一五事件後の共產黨の中心人物間庭末吉檢辱され、私宅にて全國黨員名簿、暗號類其の他の重要書類沒收され、四・一六事件の端緒をなす	三・一五事件記事解禁となる	朝鮮元山に勞働者の大罷業勃發す	國粹學者として奮闘せし東大教授法學博士上杉愷吉逝く(五十二歳)	世界の動き	ソ聯邦は反宗教的色彩を尖鋭化する新取締法を制定す

月日	15	16	25	28	29	30	4	4	4	4	4	5									
月日	15	16	25	28	29	30	4	4	4	4	4	5									
學生の動き	社大學に大紛擾事件勃發す	第二次共產黨殘黨の全國的檢舉(四・一六事件)に關聯し四十六校に亘り百七十餘名の學生關係起訴者を出す	後任總長問題に關聯し五月八日まで同志社大學紛擾を續く	龍谷大學學生學長問題に關聯して紛糾す	第五高校生の五高社會科學研究會(五高S・S)再組織計畫發覺す	九州學聯の組織計畫四・一六事件檢舉に關聯して發覺す	國內の動き	「共產青年同盟」最初の正式機關紙「共產青年」創刊さる	第二次共產黨の殘黨全國的に一齊檢舉さる	これ四・一六事件として知らるゝものにして二百九十五名の被起訴者を出す	共青同盟最初の正式中央機關紙として騰寫刷の「共產青年」創刊、十月二十五日附第五號迄續刊さる	第二次共產黨の巨頭市川正一檢舉さる	第二次共產黨首腦者三田村四郎、鍋山貞親等赤坂某待合にて檢舉さる	日本プロレタリア音楽家同盟(P・M)成る	機關紙「音楽新聞」(昭和六年創刊)	無産者病院設立實行委員會、解放運動犧牲者救済會關係者により組織さる	三・一五事件の被告中、河合悦三、水野成夫、門屋博等黨の理論戰術に重大なる誤謬を發見兼中にて反幹部的運動を殆む、以後之等の一派を解黨派と稱す	本間憲一郎の右翼的私塾「崇山塾」成立す	世界の動き	中華民國政府、首都を北京より南京に遷すことに決定す	獨逸社會民主黨員ツェルギーベル(伯林警察總監)指導の下に警察官、勞働者に發砲、これを血の五月といふ

昭和四年 (皇紀二五八九年・西曆一九一九年)

月日	學 生 の 動 き	國 内 の 動 き	世 界 の 動 き
5 5	姫路高校に於て野球應援團組織の小問題に端を發したる紛糾次第に甚だしくなる、後十月に入りて遂に校長、主事排斥問題と化する		全獨逸の赤色職線戰士同盟解散す
5 5	東京帝大及び早稲田大學に於て授業料値上反對社會科學研究會公認等のスローガンを掲げたる學生大會開かれ左右兩派の學生衝突し混亂を極む	信州國民黨創立、同年十一月二十六日結成されし日本國民黨の基礎をなすものなり	第五回全露ソヴィエット大會開催政府の政策承認さる
5 5	龍谷大學社會科學研究會の秘密組織發覺す新學長排斥運動に端を發し龍谷大學盟休事件勃發す	産業労働調査所機關誌「産業労働時報」創刊さる	メキシコ國立大學生同盟休校のため警官隊と衝突し多數の學生死傷者を出せり
5 5		全國教育大會開かる	ハルビン、ソヴィエット領事館、支那官憲により搜索され領事館員三十九名逮捕さる
5 5			英國總選舉施行労働黨第一黨となる
5 5			第二次英國労働黨内閣成立す
5 5			支那軍東支鐵道を占領す

月日	學 生 の 動 き	國 内 の 動 き	世 界 の 動 き
6 6	龍谷大學の盟休事件無條件にて圓滿解決す	共青同盟第一回東京地方委員會開催さる	
6 6	東京學生消費組合支部として立教大學學生消費組合學内公認團體として生る	村山藤四郎(三・一五事件)大阪控訴院に於て共產黨の自己批判をなす	
6 6	新潟高校に紛擾事件勃發す	佐野學上海にて檢舉さる	
6 6		樞府精査委員會不職條約を承認す	
6 6		「東京交通労働組合」結成さる	
6 6		不職條約留保宣言付可決、その直接關係者たる内田顧問官辭表を捧呈す	
6 6		滿洲某重大事件のため田中首相遂に辭意を決す	
6 6		國際反帝同盟第二回世界大會への招待狀來る	
6 6		田中清玄共產黨の再建運動に着手す	
6 6		専門學務局學生護獨立して學生部となる、初代部長木村正義	
6 6		滿洲問題不職條約案等にて田中内閣倒れ瀆口民政党内閣成る	
6 6		田中清玄一派の殘留分子中央委員會を組織その第一回會合を千葉の海岸にて開催す	
6 6		政友會と新黨クラブとの合同決定す	
6 6		井上蔵相の金解禁の聲明に株式墜落す	
6 6		佐野博共產同盟委員長を辭し、黨中央委員	
7 7			コミンテルン執行委員會第十回擴大總會開催さる
7 7			張學良東支鐵道を占領し露支國交紛糾す

昭和四年 (皇紀二五八九年・西曆一九一九年)

月日	學 生 の 動 き	國 内 の 動 き	世 界 の 動 き
7 旬上		及び青年係となる 四・一六事件の殘存分子田中清玄を中心に「中央ビューロー」再建、従来の「エーヂェント」を全部黨員に編入の方針を確立す	
7 17		日本大衆黨より分裂せる左翼分子は全國産業労働組合會議を創設す	東支鐵道問題に關聯し勞農政府、支那政府に國交斷絶を宣言す
7 21		「共產青年」第二號發行、同盟の大衆的活動を指令す 思想問題に關し公立大學長會議開催さる 職友同盟解散す	勞資の交渉決裂してランカシヤに紡績罷業勃發す
7 29		長澤九一郎、津久井龍雄等中心となり急進愛國労働者聯盟を創立す 共產黨は中央部組織を確立し「赤旗」を再刊す 「無産青年」再刊さる	
7 30			
7 31			
8 1	左傾學生を中心に反帝同盟日本支部準備會結成さる	大山、上村、細迫等、合法的左翼無産政黨として新勞農黨樹立を提唱す 無産者新聞發行禁止により二百三十八號を以て終る 賣動事件、鐵道疑獄、山梨事件等傳へられ政黨政治に對する世の疑惑高まる 河合悦三、水野成夫等解黨派の主張の概要を起草す 反帝同盟員等銀座街頭にて戦争反對のデモンストレーションを執行せんとして多數檢束さる 第二無産者新聞合法的に創刊さる 日本労働總同盟の左翼分子大矢省三、山内鐵吉、山口常次郎等によりて「労働組合全國同盟」新に創立さる 文部大臣教化總動員に關する訓令を公布す、之により教化總動員九月より十一月に亘つて全國的に執行さる、事となる 賣動事件の中心人物岡直嘉起訴さる 大山郁夫を委員長とする新勞農黨合法政黨として第一回準備會を開催す	反帝同盟第二回世界大會パリに於て開催す 十五年前即ち大正十三年ドイツ帝國がロシヤに宣戰を布告したる此の日を國際赤色デーと決定その第一回デモンストレーション各國にて舉行さる

月日	學 生 の 動 き	國 内 の 動 き	世 界 の 動 き
8 8			
8 22			
8 23			
8 25			
8 27			
9 4			
9 5			
9 9			
9 10			
9 11			
9 15			

月日	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
學生の動き																					
國內の動き																					
世界の動き																					

京都帝大新聞部改革反對運動起る
法政大學豫科現休事件勃發す

大阪に借家問題懇談會開かる、その後借家問題次第に全國的となる

新勞農黨第二回準備委員會にて綱領政策を決定聲明す

プロレタリア映畫同盟中の寫眞部獨立して「日本プロレタリア寫眞家同盟」を組織「ナツプ」に加入す

鐵道大疑獄の中心人物小川平吉收容さる

京都に地方無産黨會合し無産政黨全國統一協議會を結成す

解黨派、黨より除名處分を受く

五國海軍軍縮會議、一月中旬ロンドンに於て開催さるる事に決定す

ロンドンの失業者會議開催さる

ロシア勞農政府一週五日制を來月一日より實施の旨布告す

英首相マクドナルド五國海軍軍縮會議を前に重大使命を帯び米國訪問に立出す

勞農政府一週五日制を實施す

英勞働黨大會、失業問題にて紛糾し、トーマス非難の聲高まる

昭和二年五月二十四日斷絶せる英露國交復

月日	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
學生の動き																					
國內の動き																					
世界の動き																					

東京高科大學豫科社會科學研究會 (S・P・S) 解散す

一君萬民主義の「大日本國權會」結成さる

文部省木村正義學生部長、實業學務局長に轉じ、伊東延吉秘書課長第二代學生部長に就任す

舊國際文化研究所の同人、新にプロレタリア科學研究所を設立、八年一月に至り「日本プロレタリア科學同盟」と改稱す

關議に於て濱口首相減俸案を發表す
司法官減俸反對の決議をなす

全農青年代表者全國會議開催さる

「共産青年」第五號發行、その後中絶す

十五日關議にて減俸案を發表せしむ反對多く遂にその撤回を正式發表す

舊す

英首相マクドナルド、アメリカを訪問ワシントンに入る、翌五日フーヴァー大統領及びスチムソン國務卿と會商す

英國より軍縮會議の招請狀發せらる

勞農政府最高經濟委員會長は委員會に於て「生産部門の全體に亘つて工業生産物が不眞面目にも著しくその品質を低下せる事實を承認せざるを得ない」と述べ

第十三回國際勞働會議壽府に開催さる

漢洲スカリン勞働黨内閣成立す

昭和四年 (皇紀二五八九年・西曆一九二九年)

月	日	学 生 の 動 き	国 内 の 動 き	世 界 の 動 き
10	10	<p>「學聯」解體の具體的方針書發表さる</p> <p>立教大學内に「立大讀書會」なる名稱のもとに昭和二年一月頃より極秘裡に組織され四年五月頃より機關紙「立大ニュース」(後に立大讀書會ニュースと改稱)を發刊の事實發覺す</p>	<p>太平洋問題調査會京都にて開催さる</p> <p>少年職權創刊、昭和六年十二月廢刊となる</p> <p>關東消費組合聯盟の階級闘争派と闘争反對派との間に内紛起り反對派は遂に脱走し昭和五年七月六日別に消費組合聯合會を作る</p> <p>プロレタリア科學同盟の機關紙「プロレタリア科學」創刊さる</p> <p>朝鮮共產黨事件記事解禁となる</p> <p>更生の勞働黨協同會館にて結黨す</p> <p>第八回水平社全國大會名古屋市にて開催、政治行動を肯定す</p> <p>四・一六共產黨事件記事解禁となる</p>	
10	24			
11	1	<p>浦和高校生の寮自治要求の盟休勃發す</p> <p>松江高校に於て校長不信任問題起り十日まで盟休す</p> <p>松山高校生徒校長不信任を決議し盟休に入る、但十日生徒側悔悟し解決す</p> <p>ロシヤ革命記念日に當り「學聯」は所謂戰闘的解體をなし以後學生の左傾運動は直接共產黨並に共産青年同盟の指導の下に立つこととなる</p>	<p>小橋文相四・一六事件關係大學責任者の協議會を文相官邸に開催、左傾思想對策を協議す</p> <p>日本勞働總同盟第十八回大會東京にて開催さる</p> <p>五年一月十一日に金解禁實施の旨の大藏省令公布さる</p>	<p>ブハリオン露國共產黨中央委員會政治部より除名さる</p>
11	1			
11	1	<p>立教大學内に「立大讀書會」なる名稱のもとに昭和二年一月頃より極秘裡に組織され四年五月頃より機關紙「立大ニュース」(後に立大讀書會ニュースと改稱)を發刊の事實發覺す</p>	<p>十二月二十日より一週間に亘る「キム」創立十周年記念闘争指令さる</p> <p>橋本三郎の愛郷會水戸市外の所謂兄弟村に於て發會、以後各地に講演會を開き支部も亦多數設立さる</p> <p>秋田縣前田村小作争議暴動化す</p> <p>文部省に於て勞務者教育協議會開催さる</p>	<p>佛國政界の大立物クレマンソー逝く</p>
11	10			

月	日	学 生 の 動 き	国 内 の 動 き	世 界 の 動 き
11	8	<p>弘前高校に於て校友會問題、選挙制度等につき紛擾勃發す</p> <p>昭和三年四月十七日解散命令ありてより非合法的に活動し居たる東大の新人會も亦學聯の解體に倣ひ共産青年同盟インターナショナル記念日たる本日所謂「遊樂的解體」をなす</p> <p>國司會なる愛國團體日本大學内に生る</p>	<p>十二月二十日より一週間に亘る「キム」創立十周年記念闘争指令さる</p> <p>橋本三郎の愛郷會水戸市外の所謂兄弟村に於て發會、以後各地に講演會を開き支部も亦多數設立さる</p> <p>秋田縣前田村小作争議暴動化す</p> <p>文部省に於て勞務者教育協議會開催さる</p>	<p>佛國政界の大立物クレマンソー逝く</p>
11	13			
11	16	<p>弘前高校に於て校友會問題、選挙制度等につき紛擾勃發す</p> <p>昭和三年四月十七日解散命令ありてより非合法的に活動し居たる東大の新人會も亦學聯の解體に倣ひ共産青年同盟インターナショナル記念日たる本日所謂「遊樂的解體」をなす</p> <p>國司會なる愛國團體日本大學内に生る</p>	<p>十二月二十日より一週間に亘る「キム」創立十周年記念闘争指令さる</p> <p>橋本三郎の愛郷會水戸市外の所謂兄弟村に於て發會、以後各地に講演會を開き支部も亦多數設立さる</p> <p>秋田縣前田村小作争議暴動化す</p> <p>文部省に於て勞務者教育協議會開催さる</p>	<p>佛國政界の大立物クレマンソー逝く</p>
11	17			
11	18	<p>弘前高校に於て校友會問題、選挙制度等につき紛擾勃發す</p> <p>昭和三年四月十七日解散命令ありてより非合法的に活動し居たる東大の新人會も亦學聯の解體に倣ひ共産青年同盟インターナショナル記念日たる本日所謂「遊樂的解體」をなす</p> <p>國司會なる愛國團體日本大學内に生る</p>	<p>十二月二十日より一週間に亘る「キム」創立十周年記念闘争指令さる</p> <p>橋本三郎の愛郷會水戸市外の所謂兄弟村に於て發會、以後各地に講演會を開き支部も亦多數設立さる</p> <p>秋田縣前田村小作争議暴動化す</p> <p>文部省に於て勞務者教育協議會開催さる</p>	<p>佛國政界の大立物クレマンソー逝く</p>
11	20			
11	23	<p>弘前高校に於て校友會問題、選挙制度等につき紛擾勃發す</p> <p>昭和三年四月十七日解散命令ありてより非合法的に活動し居たる東大の新人會も亦學聯の解體に倣ひ共産青年同盟インターナショナル記念日たる本日所謂「遊樂的解體」をなす</p> <p>國司會なる愛國團體日本大學内に生る</p>	<p>十二月二十日より一週間に亘る「キム」創立十周年記念闘争指令さる</p> <p>橋本三郎の愛郷會水戸市外の所謂兄弟村に於て發會、以後各地に講演會を開き支部も亦多數設立さる</p> <p>秋田縣前田村小作争議暴動化す</p> <p>文部省に於て勞務者教育協議會開催さる</p>	<p>佛國政界の大立物クレマンソー逝く</p>
11	24			

昭和四年 (皇紀二五八九年・西曆一九二九年)

月日	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
月日	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	
學 生 の 動 き	<p>十七日以來紛糾し居たる佐賀高校盟休、先輩に一任して落着す</p>															
國 内 の 動 き	<p>河上肇博士、大山郁夫等の新學黨の政治運動に参加すべく言葉を吐いて上京す</p> <p>十三年間の經濟的變態を脱して愈々金解禁實施さる</p> <p>文相官邸に於て思想問題に關し私立大學長會議開催さる</p> <p>和歌山縣二里ヶ濱に共產黨「擴大中央委員會」開催、この會合に於て日本共產黨再建正式に決定、中央委員長田中清五</p> <p>學生思想善導施設方針につき文部省議決定マルキシズム批判力涵蓋に努むる事となる</p> <p>左翼系全國民衆黨結成さる</p> <p>無産大衆黨結成す</p> <p>高等學校長會議に於て思想問題熱心に討議さる</p>															
世 界 の 動 き	<p>ソヴィエト・ロシア政府共產黨の秘密印章により富農撲滅を指令す</p> <p>「獨立デー」にボンベイの大衆的示威運動舉行さる</p> <p>ロンドン軍縮會議開會式舉行さる</p> <p>ロンドン軍縮會議第一回總會開かる</p> <p>ハンブルグにて失業者、官憲と衝突す</p>															

月日	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1
月日	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15
學 生 の 動 き	<p>學生グループ構成員を黨員又は同級員候補者(エージェント)の地位にある學生をもつて充てることとし其の名稱を「エージェント・グループ」と稱し活動することとなる</p> <p>國家主義團體として日本青年學生革正聯盟生る</p> <p>慶應義塾國防研究會生る</p> <p>興國同志會明治大學内に生る</p>											
國 内 の 動 き	<p>消費組合聯合會機關紙「消費組合時報」創刊さる</p> <p>愛國勤王黨結成、顧問には北吟吉、大川周明、鹿子木貞信等就任、月刊「勤王日本」を發刊す</p> <p>第二回普通選挙の結果民政黨大勝す、無産黨は五名に減少す</p> <p>文部省より中等學校生徒の指導訓育に關する通牒各地方長官に對して發せらる</p> <p>學生主事會議文部省に於て開催さる</p> <p>所謂二月事件として知らる、共產黨の第三次大檢舉一連三府六縣に亘り敢行さる、檢</p>											
世 界 の 動 き	<p>英首相マクドナルド獨立労働黨より正式に脱黨す</p> <p>コミンテルン執行委員會擴大幹部會開催さる</p>											

月日	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1	下旬	27-29	26	24	15	6	3	2	1
學 生 の 動 き									
國 内 の 動 き	<p>選挙員約千五百起訴總數四百六十一 第二回普選の際議員佐野學等立候補す 社民黨、社會民主主義による戦線統一の聲 明書を發表す</p> <p>無産政黨各代表者教育會館に合同促進問題 に關し協議會を開く</p> <p>勞農黨は各無産政黨の合同を提唱し聲明書 を發表す</p> <p>社民黨、勞農黨の合同提唱を拒絶す</p> <p>田中清玄二月事件に檢舉を免れ秘かに關西 方面より入京、黨の再組織に策動す</p> <p>全國勞働組合同盟結成大會開催さる</p>								
世 界 の 動 き	<p>スターリン集團農場強制の結果農民の不平 甚だしくなり、政府に不利なる事情到来し つゝあるを觀じ強制は中央政府の命ぜし所 にあらずとなしその緩和を論文「成功によ る眩暈」の中に聲明す</p> <p>國際共產黨失業問題をとらへ世界的大示威 運動を行ふ</p> <p>ロシア共產黨中央委員會は農民の「コルホー ズ（集團農場）よりの自由脱黨を承認、その 結果五月迄に果然九百萬戸脱黨す</p> <p>支那赤軍大治を占領ソグイエット政權を樹 立す</p> <p>ベルリンの勤勞農民第一回全歐會議開催さ れ、代議員三十一名檢束さる</p>								

月日	5	6	7	8	9	10	11	12					
1	8	1	28	27	25	22	20	18	15	10	5	4-5	2
學 生 の 動 き	<p>第四高等學校に扶木學生會生る</p> <p>教授解職問題に關聯して立正大學に別休事 件勃發、二十三日漸く解決す</p>												
國 内 の 動 き	<p>新潟王番田小作爭議暴動化す 文部大臣、各帝大總長を官邸に招き思想問 題につき協議す</p> <p>鐘ヶ淵紡績會社に大罷業開始す</p> <p>無産黨の議會對策共同委員會成立す</p> <p>東京市電總罷業決行に際し赤色テロ隊を組 織し市電ダラ幹路殺を企て、且、行動隊は メーデー行列を誘導して議會に誘き議會に 放火せよとの如き暴動的指令を發す</p> <p>市電ストライキは従業員側の惨敗の下に大 團圓を告ぐ</p> <p>第一回全日本婦選大會東京に開催さる</p> <p>共産黨最高幹部佐野學等の豫審決定す、 演劇によるアヂ・プロの一形態としてプロ レタリア演劇團創立さる</p> <p>第十一回メーデー、川崎に於て全協系組合 の武裝デモ行はれ官憲と大衝突を爲す</p> <p>經濟學者として將又社會思想家として重き をなせし福田徳三博士逝く</p>												
世 界 の 動 き	<p>カルカッタ市に於て學生と勞働者反英大示 威運動をなし軍隊と衝突す</p> <p>軍縮會議ロンドンに於て調印さる</p>												

昭和五年（皇紀二五九〇年・西曆一九三〇年）

月日	學生の動き	国内の動き	世界の動き
9 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8			
1 20 20 25 21 19 18 16 15 15 9			
		<p>モスコの「モップル」に加盟を決議し、「國際赤色教授會日本支部日本赤色教授會」と改稱す</p> <p>左翼教員等、日本教育労働者組合準備會を結成す</p> <p>共産同盟、赤色スポーツ團の確立を指令す</p> <p>新興教育研究所（略稱新教）創立、機關誌「新興教育」</p> <p>「無青」第三十七號紙上に九月七日の國際無産青年デーに對する闘争プログラム發表さる</p> <p>労働黨大阪支部聯合會、黨の解消を決議す</p> <p>「無青」第三十八號紙上に「日本共産青年同盟に關する政治テーゼ」發表さる</p> <p>「プロレタリア映畫」紙創刊さる</p> <p>日本教育労働組合創立さる</p>	<p>エドキンテルン第六回大會アントワープに於て開催さる</p> <p>プロフィンテルン第五回大會開かる</p> <p>江西、湖北、湖南三省にソヴィエツト政府樹立さる</p> <p>ペルーに反亂勃發大統領逃亡し軍事評議會主體となりて新政府を組織す</p> <p>國際革命作家同盟會議開催、日本プロレタリア作家同盟之に加盟す</p> <p>ブダペストに於てハンガリー共産黨の指令により労働者、失業者の大衆運動舉行さる</p>

昭和五年（皇紀二五九〇年・西曆一九三〇年）

月日	學生の動き	国内の動き	世界の動き
10 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9			
1-7 26 26 24 22 17 15 10 3 1 1			
	<p>生徒處分と同情し臺北高校に盟休勃發、但十二日に至り解散す</p> <p>佐賀高校盟休事件勃發、二十二日に漸く解決す</p>	<p>「ナップ」の理論的機關誌「ナップ」創刊、六年十一月廢刊</p> <p>學生思想問題協議會文相官邸にて開催さる</p> <p>新潟に無産三黨合同促進協議會成立、之より合同論議となる</p> <p>新興教育研究所より機關誌「新興教育」創刊さる</p> <p>日本共産黨解黨派の一味南葛城、南京濱の各地方労働者懇談會を結成す</p> <p>第二回國勢調査施行さる</p>	<p>北米合衆國の各工業中心地に於て失業者の示威運動舉行さる</p> <p>英國労働組合大會に議長ピアード氏勞資協調を説く</p> <p>勞農政府労働者の自由なる移動を禁止する法令を公布す</p> <p>ドイツ總選舉に於て社會民主黨優勢、共産黨亦四百五十萬票を獲得す</p> <p>勞農反革命陰謀者四十八名死刑に處せらる</p> <p>西部ウクライナ地方に於て反地主農民大衆運動勃發す</p> <p>ロンドン海軍條約漸く廢府に於て可決す</p>

昭和五年 (皇紀二五九〇年・西曆一九三〇年)

月日	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
月日	20	18	18	17	16	15	13	11	10	8	6	6
學 生 の 動 き	<p>東京女子齒科醫專に罷休事件勃發、翌年二月八日解決す</p> <p>早稻田大學に於て早慶戦切符問題に關聯し紛擾勃發、二十三日に至り殆んど罷休状態に入り十一月十三日に至り漸く解決す</p> <p>日本女子大學校に於て學制改革問題に關聯して紛擾勃發、十一月五日解決す</p> <p>大正大學に極左團體組織發覺す</p>											
國 内 の 動 き	<p>四・一六事件の統一公判開かれ新法廷嚴衛被告會議等のため法廷混亂す</p> <p>錦旗會の遠藤無水、急進愛國労働者聯盟の長澤九一郎等中心となり國粹労働同盟を結成、昭和六年五月急進進退派と改稱す</p> <p>「立正大師門下青年聯盟」と稱し居たる日蓮主義團體、「大日本愛國義團」と改稱、日本主義愛國運動に進出す</p>											
世 界 の 動 き	<p>南部イタリ地方に於て反ファッショ農民運動勃發す</p> <p>勞農政府は労働者を「一産業より他産業へ」「一地方より他地方へ」移動せしむる權利を労働人民委員に附與する法令を公布す</p> <p>勞農政府は、労働者が指定されし労働を拒絶する時は労働取引所の名簿より除名する法令並に失業手當の支給を停止する法令を公布す</p> <p>勞農政府は指定されし労働を拒絶する技師</p>											

昭和五年 (皇紀二五九〇年・西曆一九三〇年)

月日	11	11	11	11	10	10	10	10	10	10	10	10
月日	7	6	2	1	30	30	27	25	24	23	23	23
學 生 の 動 き	<p>洋モス、大島製鋼所争議の大デモ行はれ行動頗る熾激に亘り多数檢擧さる</p> <p>臺灣露社藩民一千余名の暴動勃發す</p> <p>酒井伯、安岡正篤を中心とする「金雞學院」創立さる</p> <p>教育勸語發四十年記念教化週間開始さる</p> <p>ナップの大众的機關誌「戰旗」ナップより獨立す</p> <p>風間丈吉日本共産黨再建の使命を帯びてロシアより歸國す</p> <p>反帝同盟の機關紙「反帝ニュース」、「反帝新聞」に代る滿洲事變後は「滿蒙」○「反對闘争月報」を發行して煽動宣傳に努む</p> <p>大衆黨東京大阪に勞農議會を開催解散さる</p>											
國 内 の 動 き	<p>「反帝國主義・民族獨立支持同盟日本支部」結成、これは當日のロシア革命記念日を期</p>											
世 界 の 動 き	<p>専門家を懲罰する法令を公布す</p> <p>勞農政府は逃亡又は移動労働者に對し六ヶ月間就職の權利剝奪する法令を公布す</p> <p>ブラジルの革命疾風の遂行さる</p> <p>ソヴェット聯邦にて反政府の産業黨事件檢擧さる、五ヶ年計畫第二年目の破綻を隠蔽せんとするスターリン一派のトリックなりと考へらる</p> <p>南ロシアのハリコフに於て國際革命作家同盟第一回大會開催我が國よりも非公式に代表者出席す</p>											

昭和五年 (皇紀二五九〇年・西曆一九三〇年)

月日	學生の動き	国内の動き	世界の動き
11 11-12 25 25-7	明治大學に於て學生等授業料三割値下・外十ヶ條の要求をなし紛擾、十二月十八日に至り漸く解決す 早大ストライキ團中野選信次官の調停案を承認、事件勃發以來三十日に漸く解決す 前月十一日以来服休中の東京齒科醫專の事件一先づ解決す	し全協勞農同盟、職友同盟、ナップ、モップル等主唱協議して結成されしものなり 文部省内に官民有志合同の思想問題研究会創立さる 文部省より高等諸學校に對し思想問題に關する參考良書の第一回推薦紹介通牒さる 濱口首相東京驛に於て愛國社員佐郷屋留雄に狙撃さる 富士紡川崎工場争議に煙突占領戰術現はる 國家主義的傾向の勞働組合「日本造船勞働聯盟」を結成す	イタリー政府、官吏減俸案を斷行す ロシヤ文豪ゴルキー反革命運動に對する聲明書を發表す モスコに於て反勞農「産業黨」事件の公判開廷さる
11 11 24 18	大阪高等學校に於て寮報の原稿檢閲問題に關聯し紛擾勃發、二十七日解決す	五月一日のメーデーの際警官九名が殺傷したる日本共産青年同盟員十八名の川崎騒擾事件記事解禁となる	
11 11 13 13	學友會問題に關聯し左傾の京都帝大生十數名の要求事項を當局に提出「日本共産黨を支持せよ」のピラを撒く		
11 11 13 10			
11 11 8 8			

昭和五年 (皇紀二五九〇年・西曆一九三〇年)

月日	學生の動き	国内の動き	世界の動き
12 12 23 19	右翼學生團體總會東京農業大學内に生る大倉高商にストライキ起る 立教大學に紛擾事件起る 慶應義塾大學に紛擾事件起る	日本教育勞働者組合なる秘密結社結成さる 文相官邸に於て私立大學總(學)長思想問題協議會開催さる 勞農大會にて三黨合同承認さる 上野公園帝國學士院に於て私立大學學生主事會議開催さる	ドイツに於てベルリン始め各地に國粹派と共産黨との衝突起る スペインのハカ市を中心に革命暴動勃發す
12 12 14 11-12	山口高校生等選手制度に反對し服休に入る		
12 12 8 8			

昭和六年 (皇紀二五九一年・西曆一九三一年)

月日	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
月日	25	24	23	21	20	19	18	12	9	8	2	1	1	1	1
學生の動き	新潟高校生クラス代表公認其の他二、三の要求をなして現休に入る、二十三日解決す														
國內の動き	<p>關東私立大學學生主事・學生監打合會開催さる</p> <p>關西私立大學主事・學生監打合會開催さる</p> <p>日本プロレタリア・エスベランチスト同盟 (略稱ボエウ) 創立す、機關誌「カマラード」</p> <p>第二回私立大學總(學)長協議會開催さる</p> <p>文部省公民科教授の要目を發表す</p> <p>堺利彦郷里福岡縣に農民政治學校を創立、二月十一日より開校、郷黨青年の階級的教育を爲すを目的とす</p> <p>黨機關紙 赤旗 三十四號より再刊さる</p>														
世界の動き	<p>勞農政府は一切の短期信用の受授を國立銀行に獨占せしむる法令を公布し、四月一日より實施す</p> <p>トルキスタンとシベリヤを連結するトルクシブ鐵道開通す</p> <p>パナマに革命勃發、市街戦を展開、革命軍遂に成功す</p> <p>ローマ法王は「法王回書」を發表し最近の結婚制度その他社會の頹廢を憂慮す</p> <p>スターリン集團農業者擴大の新政策を聲明す此の集團化運動は富農階級の大弾壓を目的とせるものなり</p>														

昭和六年 (皇紀二五九一年・西曆一九三一年)

月日	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
月日	26	25	23	21	20	19	18	12	9	8	2	1	1	1	1
學生の動き	<p>極左日本大學生等横濱市電爭議再舉を策し檢舉さる</p> <p>慶應義塾大學高等部に於て學制短縮問題より盟休事件勃發、二月十六日解決す</p> <p>慶應義塾大學高等部の粉料擴大、遂に林塾長の排斥を決議するに至る</p> <p>四ヶ月振りにて東京女子齒科醫專の盟休事件解決す</p>														
國內の動き	<p>日本農民總同盟と全日本農民組合とは社民黨本部に兩組合の合同委員會を開き、協議の結果合同して日本農民組合を結成す</p> <p>日本教育労働組合、「全協」の指導下に入る</p> <p>勞農藝術家聯盟の機關紙「文藝戦線」を「文戦」と改題す</p> <p>新興ロシア・ポスター展覽會開催さる</p> <p>全農戰闘化協議會(略稱戰協)、黨の統制の下に立つ、後遂に黨の農民部に解消す</p> <p>井上日召を中心に「血盟團」結成さる</p> <p>共青中央部、紺野與次郎等を中心として再建さる</p> <p>無産青年同盟の一味一齊檢舉さる</p> <p>社會民衆婦人同盟、無産婦人同盟主催の無産婦人大會を芝、協調會館にて開催「十八歳以上の男女に參政權を與へよ」と叫ぶ</p> <p>文部省「民衆娛樂委員會」第一回委員會を文相官邸にて開催す</p> <p>第二回建國祭盛大に舉行、第一回建國祭は</p>														
世界の動き	<p>ドイツ國粹社會黨は全黨員登院中止による對議會ストライキを行ふ</p>														

昭和六年 (皇紀二五九一年・西曆一九三一年)

月日	學生の動き	國內の動き	世界の動き
25	一月末より紛擾を重ね居たりし慶應義塾大學高等部の盟休解決す	大正十五年二月十一日舉行されたり堺利彦郷里に於て「堺農民労働學校」を開校す 第二回全日本婦選大會開催さる	スペインの政情不安革命の危機しきりに傳へらる 全ヨーロッパの共産黨員等「世界失業者闘争デー」を行ふ
25	生徒處分問題に關聯し大阪外語校紛擾事件勃發、二十五日解決す	我が國固有文化の擁護發展の爲「國粹大家黨」生る 「共産青年」(昭和四年四月十五日創刊共産青年同盟機關紙)「レーニン青年」と改題す ベルリンの「國際失業反對闘争デー」の余波を受け労働團體動く 第一回全國消費組合協議會開催さる 全協中心となり國際失業反對デーのデモを敢行、東京にても千名餘動員さる	ベルリンに於て左翼團體中心となり盛大なる「國際失業反對闘争デー」舉行、各國の労働者に働きかか
24-25	東京高校に於て極左翼團體校内班組織發覺に伴ふ處分に關聯し一部盟休に入りしも三月一日先輩父兄一任にて解決す	婦人公民權案議院にて可決、但し三月二十四日貴族院にて否決さる 解黨派の一派議院を基礎として日本労働組合統一協議會を結成、機關紙「労働者新聞」を發行す 「プロレタリア・エスベランチスト同盟」機關紙「エスベランチスト」創刊さる、同年十月「カマラード」と改題す 無産三派組合法案に反對し労働者農民大會を開催す	モスコに於てメンシェヴィキー反革命團の公判開廷さる
22		全日本愛國者共同闘争協議會(略稱日協)結成、常任委員は津久井龍雄外七名、其の後七年二月神武實に合法す 「共産青年同盟の任務」、「レーニン青年」第三號に發表さる 「日本無産者消費組合聯合準備會」結成さる ソヴィエット聯邦日本通商代表アンケノエフ襲はる	労働全聯邦ソヴィエット大會終る、モロトフ「労働者の任務は平和獲得の闘争にあり」と説く
21			英國サウス・ウェルスの炭坑にストライキ勃發す
20			
18			
17			
16			
14			
11			

昭和六年 (皇紀二五九一年・西曆一九三一年)

月日	學生の動き	國內の動き	世界の動き
28	新潟醫大に紛擾起る	全日本愛國者共同闘争協議會(略稱日協)結成、常任委員は津久井龍雄外七名、其の後七年二月神武實に合法す 「共産青年同盟の任務」、「レーニン青年」第三號に發表さる 「日本無産者消費組合聯合準備會」結成さる ソヴィエット聯邦日本通商代表アンケノエフ襲はる	英國サウス・ウェルスの炭坑にストライキ勃發す
2			
3			
5			
9			
1-9			
1			
5			
12			
14			
16			
16			
17			

月日	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3
月日	5	1	1	末						24	20	
學 生 の 動 き												
國 内 の 動 き	<p>無産三黨の共同無産者大會を、協同會館に開かる</p> <p>二月二十八日衆議院を通過したる婦人公民權案貴族院で否決さる</p> <p>十條兵器製造所に軍屬以下約四十名により全協細胞を組織、機關紙を發刊し居たること發覺す</p> <p>コミンテルン極東事務局との連絡のため紺野與次郎上海に渡航す</p> <p>所謂解黨派により「日本共産黨労働者派中央委員會」を結成す</p> <p>藏原惟人ロシヤより歸國プロフィンテルン第五回大會決議「プロレタリア文化教育組織の役割と任務」に基き日本プロレタリア文化運動の再組織に着手す</p> <p>共青同盟代表者として源五郎丸芳晴渡露す</p> <p>「解放運動犠牲者救援辯護士團」結成さる、機關紙「救援辯護士團ニュース」を發行す</p> <p>全國大日本主義同盟結成さる</p> <p>關西の共産黨檢舉記事解禁、五年二月十二日より十一月末日まで大阪地方委員會の關係者五百名餘檢舉、内七十一名起訴さる</p> <p>「ソヴィエト經濟」誌「ソヴィエト研究會」</p>											
世 界 の 動 き	<p>勞農政府は一月一日公布せる一切の短期信用の受授を國立銀行に獨占せしむる法令を實施す</p>											

月日	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
月日	22	21	20	19	18	17	15	15	14	10	10	9
學 生 の 動 き												
國 内 の 動 き	<p>より創刊さる</p> <p>「反宗教闘争同盟」結成、九月に至り「日本職團的無神論者同盟」と改稱す</p> <p>日本プロレタリア映畫同盟幹部二十九名檢舉さる</p> <p>松永村、影山正治等を中心として「全國大日本主義同盟」生る</p> <p>長野朝、農村新聞社を創立「農村新聞」を創刊す</p> <p>橋孝三郎水戸市外に「愛郷塾」を設立す</p> <p>合法的左翼労働組合「日本労働組合總評議會」創立さる</p> <p>改造戦線(大日本生産黨機關紙)創刊さる</p> <p>東京千住日本築城會社にストライキ起りハンスト、煙突占領行はる</p> <p>風間文吉、紺野與次郎等「日本共産黨政治テーゼ草案」を作成赤旗パンフレットによりて之を發表す</p>											
世 界 の 動 き	<p>スペイン君主制を廢絶、共和國となる</p> <p>スペイン國王アルフォンソ十六世陛下及びその一族悄然と本國を御退去遊はさる</p> <p>バルセロナに於て赤色暴動勃發す</p> <p>張學良、國民政府の副司令として北平に入る</p>											

昭和六年 (皇紀二五九一年・西曆一九三一年)

月日	學 生 の 動 き	國 内 の 動 き	世 界 の 動 き
4月26日	「レニン青年」第四號に「學生運動の日和見主義的傾向を克服せよ」と題するセクト的方針の克服を指令したる論文發表され左翼學生之によりて動く	ナツプは黨中央部員藤原推人指導の下に生江健二、村山知義等を中心により擴大強化されたる文化聯盟結成の運動を起す 新興醫師聯盟結成す、新興醫師聯盟ニュースを發刊す 日協(全日本愛國者共同闘争協議會)機關紙「興民新聞」創刊さる、但し號始んど發禁の連續にて七年三月遂に廢刊となる 社民婦人同盟結成さる	ロンドンの英國共產黨大會開催さる コミンテルン執行委員會第十一回總會開催さる
5月5日	「レニン青年」及び六月二十一日付の「無産青年」に於て「革命的青年學生の任務」と題する論文發表さる、これ即ち「新學生デーゼ」として知らるゝものなり	プロレタリア科學研究所の機關誌の「プロレタリア科學研究」誌創刊(年四回)さる 風間丈吉等の主唱により黨員採用方針を大衆化する	スペインに反宗教運動起り寺院焼打されしもの多し
5月10日	水産講習所の回休事件解決す	田中清玄、佐野博等の日本共產黨再建運動	
5月12日			
5月17日			
5月19日			
5月20日			

月日	學 生 の 動 き	國 内 の 動 き	世 界 の 動 き
5月27日	日本共產青年同盟東京帝大細胞結成さる 東京帝大に「自治學生會」結成さる 京都帝大其の他の「學消」團結して「關西學消聯盟」を結成す 日本大學專門部回休事件勃發す 早稻田大學に紛擾起り六月に及ぶ 東京帝大自治學生會機關紙として「赤門戰士」發刊さる赤門戰士は共青エーゼント・グループの機關紙たりしものなり 「エーゼント・グループ」の組織を廢し學校細胞の再認識に關する決議「レニン青年」第六號に發表さる	記事解禁さる、起訴されたるもの百七十三名減俸令御裁可發表さる 「共立圖書回讀組合」創立、八年一月に至り「プロレタリア圖書館」と改稱す 「一般使用人組合」日本醫務、日本教育、日本映畫組合と合同す 日本教育労働組合、日本一般使用人組合と合同して全協の組織内に入りその教育労働部の一分子となる 「國民解放社」生る、一君萬民主義を標榜す	
6月1日			
6月2日			
6月4日	「東京學生消費組合」中心となり「關東地方學消協議會」を結成す 東大學生消費組合「赤門學生支部」の機關紙「黎明」第一號發行さる	文部省より高等諸學校に對し思想問題良書の第二回推薦紹介通牒さる 無産者産兒制限同盟(プロド・C)創立機關誌「プロレタリア産兒制限運動」創刊さる	
6月6日		農村文化建設の爲め岡本利吉等を中心と	
6月10日			

昭和六年 (皇紀二五九一年・西曆一九三一年)

昭和六年 (皇紀二五九一年・西曆一九三一年)

月日	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
月日	27	25	25	25	23	22	21	20	19	15	15	13	12
學生の動き	<p>慶大生の赤色スポーツ團事件發覺す 全日本學生拓殖聯盟成る</p> <p>同志社大學豫科生罢休を行ふ、二十六日解決す 「革命的青年學生の任務」、[無青]第六十二號に發表さる</p>												
國內の動き	<p>反宗教闘争同盟の機關誌「反宗教闘争」創刊さる</p> <p>上海コミンテルン極東事務局の檢舉により日本との連絡切斷し資金等附の途絶ゆ 文部省に於て直轄學校學生・生徒主事會議開催さる</p> <p>右翼團體「日本労働俱樂部」生る 第二次日本共産黨事件被告二百八十名の初公判宮城裁判長によりて開廷さる 日本主義右翼労働組合戦線統一の爲「日本労働俱樂部」生る 秋田雨雀、藤原推人、中條百合子等中心と</p>												
世界の動き	<p>ニューヨーク、ロンドン等の市場フリーバ景氣で大活氣を呈す スターリンはロシヤ經濟指導者會議に於て「第一次五年計畫」の實質的失敗に鑑み計費經濟と市場經濟組織との結合を強調、資本主義への退却的轉向を聲明す</p>												

月日	7	7	7	7	7	7	7	6	6	6	6	
月日	7	7	7	5	3	2	1				28	
學生の動き	<p>愛國主義團體「日本學生聯合會」創立さる</p> <p>新潟高校にストライキ起る</p> <p>和歌山高商にストライキ起る</p> <p>「全國學消協議會」結成さる</p>											
國內の動き	<p>なり、ソヴィエットの國民生活、文化紹介の目的を以て「ソヴィエト友の會」を結成す 大日本生産黨大阪地方の中・小商工業者並に國粹團體を基礎として結成さる、總裁内田良平顧問頭山滿 共産黨は産業労働調査所をその一機關たらしむ</p> <p>職協(全主農戰闘化協議會)一月以降共産黨の指導下になりしが、遂に黨の農民部に解消、職協は昭和五年四月全農の赤化のため結成されたものなり</p> <p>文部省學生思想問題調査委員發表さる</p> <p>京城其の他の在住支那人暴徒に襲はる、萬寶山事件の報復なりといはる</p> <p>全國労働大衆黨生る、労働大衆黨及び社會民衆黨合同實現同盟の三派の大同團結せるものなり、麻生氏書記長に就任す</p> <p>文部省學生思想問題調査委員第一回總會文相官邸に於て開催、毎週一回開催、昭和七年五月二日に至り最後の總會を開く</p> <p>九州共産青年同盟事件記事解禁となる</p> <p>第二次日本共産黨公判公開のまゝ事實審理に入り傍聴人殺到す</p>											
世界の動き	<p>ベルリン共産黨の暴動勃發す インド各地に反英騒擾事件勃發す</p>											

昭和六年 (皇紀二五九一年・西曆一九三一年)

月日	7	7	7	7	7	7	7	7	7
月	7	7	7	7	7	7	7	7	7
日	10	20	21	25	1	4-8	5	6	8
學 生 の 動 き	<p>「東京學生全協支持團」結成さる、機關紙「支持戦士」を創刊す</p> <p>御殿場東山莊夏季學校に於て日本S・C・M (社會的基督教運動) 研究會を開き本部を東京に支部を東京、仙臺、新潟、京都、名古屋、神戸、戸畑等に設けて同志の糾合を圖ることに決定、左傾學生同會の中心分子をなし居るものとして懲戒さる</p>								
國 内 の 動 き	<p>日本共産黨労働者派、本部派と合流「從來の行動は保釋出所の方にすぎざりしもの」と聲明す</p> <p>全協の赤化陰謀策源地は上海共同租界地にあること發覺す</p> <p>婦人職旗創刊さる、但六年十二月廢刊となる</p> <p>三・一五及び四・一六兩事件の公判闘争の策動行はる</p> <p>共産黨の中央委員會、中央書記局等の機關、新に決定、再び活動を強化す</p> <p>國際共産青年同盟の手に成る機關誌「國際共産青年日本版」無産青年社より創刊さる</p> <p>文部省主催學生、生徒主事思想問題昭和六年度講演會開催さる</p> <p>文部省の學制改革案大綱決定さる</p> <p>學制改革案に對し文理科大學反對運動を始む</p>								
世 界 の 動 き	<p>スペインのセヴィラに政治的大衆罷業起る</p>								

月日	8	8	8	8	8	8	8	8	8
月	8	8	8	8	8	8	8	8	8
日	9-12	10-12	11-14	16	17	18	18-19	20	21
學 生 の 動 き	<p>中等學校長、視學等のため文部省主催思想問題東京地方講習會開催さる</p> <p>文部省主催思想問題京都地方講習會開催さる</p> <p>文部省主催思想問題福岡地方講習會開催さる</p> <p>左翼系の「全農改革労働政黨支持強制反對全國會議(全農全國會議)」結成さる</p> <p>參謀本部の中村震太郎大尉滿洲にて支那官憲のため慘殺され滿洲事變勃發の一因をなす</p> <p>ナップは常任委員會を開催しナップの大衆的再組織、日本プロレタリア文化聯盟の結成を決議す</p> <p>教員思想事件の起りし地方の關係者を召集文部省に於て思想問題に關する地方教育關係者協議會を開催す</p> <p>「文化聯盟中央協議會組織發起者」の名によつて左翼文化團體に「文化聯盟」加入勸誘狀を發券す</p> <p>九月六日の「國際青年デー」を目標とし細胞員倍加、組合青年部確立等の社會主義競争を指令す</p>								
國 内 の 動 き	<p>ソヴィエト政府人民委員會は成人に對する義務教育令を發す</p>								

月日	8	8	8	8	8	9	9	9	9	9	9	9	9	9	
月日	24	25	26	28	18	19	20	20	20	21	20	20	20	30	
學 生 の 動 き															
國 内 の 動 き	共産黨の指導の下に「勞農教授會日本支部」結成さる	京都、大阪、兵庫縣下の共産黨員一斉檢査され、所謂「八・二六事件」として記憶さる	新興教育研究所、ピオニール夏期教授班パンフレットを發刊せんとして禁止處分を受く	共産黨は滿洲事變勃發に對し反戰運動を強調宣傳、煽動す	南京政府日支衝突事件に關し正式抗議し來る、又開會中の聯盟總會に事件をもち出す「プロット」機關紙、演劇新聞創刊さる	共産黨本部派は解黨派の聲明を排撃す	反宗教闘争同盟結成大會築地小劇場に於て開會、中止、解散を命ぜらる	反宗教闘争同盟準備會、「日本無神論的無神論者同盟(戰無)」と改稱す							
世 界 の 動 き	英國第二次労働黨内閣赤字打倒ならず總辭職、併し英國一致内閣の大命再びマクドナルドに下る	マクドナルドの舉國一致内閣成立す	英國労働黨、ヘンダーソンを新黨首となしマクドナルド内閣反對を聲明す	滿洲事變勃發、我が軍奉天北大營を占領す	英國金本位制を停止、尙、米國は昭和八年三月六日、日本は本年十二月十三日停止す	上海學生團日貨を強奪し日本陸隊隊出動す	國際聯盟、日本の滿洲よりの徵兵期を十月十四日までと指定し來る								

月日	9	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10		
月日	1	3	3	5	7	8	10	10	10	10	10	10	10	16		
學 生 の 動 き				東京商大生専門部廢止反對を唱へ一ツ橋舊校舍に籠城して目的貫徹につとむ			東京商大専門部廢止反對運動の學生代表、文相の誠意に信頼して籠城を解散す									
國 内 の 動 き	行地社の松延繁次の奔走により高島系統の石川華十郎、津久井龍雄等及び社會民衆黨の赤松一派が提携して 日本社會主義研究所 を創立す	日本共産黨財政部の下に中央特別資金局を創設、従來の中央技術部を廢止す	「日本國家社會主義研究所」より機關紙「日本社會主義」創刊さる	日本プロレタリア文化聯盟の創立準備委員會開催さる	全農全國會議派提唱のもとに中國水害無産者救済會委員設立準備のため、各團體協議會開催さる、その節國際労働者救済會日本支部の設立提唱され日本勞農救済會は準備會の形式をもつて成立す	日本プロレタリア作家同盟の機關紙「文學新聞」創刊さる	「ソヴェットの友」創刊さる									
世 界 の 動 き	中華民國江西省に於て第一回中國ソヴェット大會開催、中央ソヴェット政府成る	國際聯盟當局日本軍の錦州攻撃に對し「日本政府は軍閥に對する統制力を失ひつゝ、あり」と批判せり	國際労働者救済會第八回世界大會開催、日本よりは藤森成吉代表として出席す													

昭和六年（皇紀二五九一年・西曆一九三一年）

月日	學 生 の 動 き	國 内 の 動 き	世 界 の 動 き
10 16			
10 21			
10 27			
10 19			
10 10			
10 10			
10 10			
10 10			
10 10			
10 10			
11 2			

岩田愛之助の率ゐる愛國社に關係ある學生等愛國學生聯盟を結成す

東京高校にストライキ起る

「ひとの道研究會」廣島文理科大學に生る

「東都學生滿蒙慰問聯盟」成る

大家黨を脱退せる松谷與二郎を中心に新日本建設同盟結成、その後安達謙蔵の國民同盟に合流す

「日本プロレタリア文化聯盟」略稱「コップ」創立さる

小學校教員の指導監督處分に關する通牒各地方長官に對し發せらる

「プロレタリア・エスベランチスト」を「カムラード」と改題す

「無産青年」を「共產青年同盟」の正式機關紙となす

日本共産黨員飯島キミ、ロシヤより歸國し、在露山本懸蔵の命により新政治テーゼ草案の誤謬を指摘す

極左一派中心となり無産各團體を糾合して日本勞農救援會を結成せんとして第一回懇談會を開く

メヂラプボムの十周年大會開催さる

「無産者病院設立實行委員會」「日本無産者醫藥」を組織す、機關紙「醫藥同盟ニュース」月二回發行す

「第二無産」を黨の中央機關紙とし其の組織を黨に解消せしめ、「赤旗」は黨員に對する理論的並に黨の指令、機等を傳達する機關紙と爲す

長野朗、權藤成郷等を中心とする「日本村治派同盟準備會」成立す

加藤勳十一派の「全勞統一全國會議」創立す

昭和六年六月十五日創刊の「反宗教争闘」を「職團的無神論者」と改題す

第二次共産黨第一グループ個人訪問終了す

文部省より高等諸學校に對し思想問題に關する良書の第三回推薦紹介通牒發せらる

第二次共産黨第二グループ審理開始さる

「プロレタリア映畫同盟」の機關紙「映畫グラフィック」創刊さる

「全農全國會議」機關紙「農民新聞」創刊さる

宣統帝大連に御上陸、滿蒙獨立運動の關聯に於て注目さる

宣統帝天津を脱出大連に向はせらる

ロシヤ共産黨第十六回大會に於て五年計費の生産物、品質低下に就き論議さる

昭和六年（皇紀二五九一年・西曆一九三一年）

月日	學 生 の 動 き	國 内 の 動 き	世 界 の 動 き
11 3			
11 3			
11 6			
11 8			
11 13			
11 13			
11 14			
11 15			
11 15			
11 17			
11 18			
11 19			

「東京愛國學生聯盟」創立され、第一回愛國祭代々木練兵場にて行はる

東京府下女子専門學校生徒により「女性の團結を圖り、その向上を期す」るため女子學生聯盟結成さる

滿蒙研究會大阪外國語學校内に生る

東京帝大内に春山作樹、平泉澄兩博士を中心に「朱光會」なる國家主義團體生る

對する理論的並に黨の指令、機等を傳達する機關紙と爲す

長野朗、權藤成郷等を中心とする「日本村治派同盟準備會」成立す

加藤勳十一派の「全勞統一全國會議」創立す

昭和六年六月十五日創刊の「反宗教争闘」を「職團的無神論者」と改題す

第二次共産黨第一グループ個人訪問終了す

文部省より高等諸學校に對し思想問題に關する良書の第三回推薦紹介通牒發せらる

第二次共産黨第二グループ審理開始さる

「プロレタリア映畫同盟」の機關紙「映畫グラフィック」創刊さる

「全農全國會議」機關紙「農民新聞」創刊さる

宣統帝大連に御上陸、滿蒙獨立運動の關聯に於て注目さる

宣統帝天津を脱出大連に向はせらる

ロシヤ共産黨第十六回大會に於て五年計費の生産物、品質低下に就き論議さる

昭和六年 (皇紀二五九二年・西曆一九三一年)

月日	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
月日	20	22	25	25	26	27	27	27	27	27	27	28
学 生 の 動 き	愛國學生聯盟關係學校より十五名の代表滿洲軍慰問の爲渡滿す											
國 内 の 動 き	大日本生産黨第一回全國大會東京に於て開催さる 北一輝の「日本改造法案大綱」を實現目標とする「日本旭光社」を創立す 社會民主黨の下中彌三郎、滿川龜太郎と共に經濟問題研究会を組織す 無政府主義派労働團體「日本労働組合自由聯合協議會」結成さる 「日本第一新聞」(國家主義系)創刊さる 共産黨の指導の下に十月二十四日結成の「プロレタリア文化聯盟(コップ)」の形態漸く整ひ従来のナッフはこゝに解體聲明書を發表し、名實共にコップに解消す 第二無産者新聞大衆的中央機關紙となる 農本自治主義を指導精神として「日本村治派同盟」生る 共産黨軍事部を設置頻りに畫策す 「レーニン研究」誌創刊さる											
世 界 の 動 き												

昭和六年 (皇紀二五九二年・西曆一九三一年)

月日	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
月日	4	5	5	6	6	6	7	11	13	15	19	28
学 生 の 動 き	青山會館にて日本精神の演説會を開催す 「大阪愛國學生聯盟」結成さる 「京都愛國學生聯盟」結成さる 日本新興學生協會京都帝大内に創立さる 滿蒙研究會同志社大學内に生る											
國 内 の 動 き	全國勞農大衆黨第一回全國大會芝協調會館にて舉行さる プロレタリア文化聯盟(コップ)機關誌「プロレタリア文化」創刊さる 「プロレタリア美術家同盟」の小冊新聞「美術新聞」創刊さる 「プロレタリア音楽家同盟」の機關誌「音楽新聞」創刊さる 釜機内閣倒れ、大連發還閣金本位制を停止す 「プロレタリア美術家同盟」の大型雜誌「プロレタリア美術」創刊さる 社民系の青年同盟トル買ひの三井、住友等											
世 界 の 動 き	ワシントン市に於て失業者の飢饉行進事件勃發す 上海支那學生の抗日運動暴動化し遂に武蔵令布告さる 滿蒙獨立建國會議始まる 南京の學生暴徒外交部、中央黨部に殺到して暴行、市中全く無政府状態になる											

昭和六年（皇紀二五九二年・西曆一九三一年）

月日	學生の動き	國內の動き	世界の動き
12 12 12 12 12		<p>の財閥に對して「凶作地と出兵家族を救へ」のスローガンを掲げて示威行進をなし、檢東者九十名を出す</p> <p>全協一般使用人組合教育労働部の機關誌「教育労働者版」を發行す</p> <p>日本プロレタリア寫眞家同盟（プロ・フォト）創立さる</p> <p>津久井龍雄、赤松克麿等を中心に「大日本青年同盟」生る</p> <p>「全協」の機關紙「全協の旗の下に」創刊さる</p> <p>「無産者診療所」設置さる</p>	<p>滿洲問題に關聯し支那學生各地に猛烈なる抗日學生運動を起し南京目指して押しかくるもの多數に上る</p>

昭和七年（皇紀二五九三年・西曆一九三二年）

月日	學生の動き	國內の動き	世界の動き
1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 17 13 12 11 9 9 8 7 6 3 1 1 1	<p>岡山醫科大學に國家主義團體「勸教會」生る</p>	<p>日本プロレタリア演劇同盟機關誌「プロット」創刊さる</p> <p>「プロレタリア文學」創刊さる</p> <p>プロレタリア文化聯盟（コップ）の婦人雜誌「働く婦人」創刊さる</p> <p>鮮人李某觀兵式當日陛下御還幸の際櫻田門外にて御衛隊に向つて投擲、犬養内閣責任を負ひ辭表捧呈、但優諒を賜り留任す</p> <p>「ソヴェット友の會」京都支部創立さる、會員約六十名なり</p> <p>栃木縣阿久津村小作爭議に於て大衆黨と生産黨と大衝突を爲し、死傷者多數を出す</p> <p>第二次共産黨第三グループの第一回公開開かる</p> <p>東京市電廣尾車庫従業員突如ストライキに入る、錦糸堀車庫従業員亦呼應して立ちしも、夜に入り漸く収まる</p> <p>日本國民社會黨準備會、經濟問題研究を中</p>	<p>張景惠氏ハルビンに於て黒龍江省の獨立を宣言す</p> <p>日本軍錦州に入城、各國我が行動を重視す</p> <p>インド各地に反英騒擾勃發、政府は騒擾の領袖等を一齊に檢擧す、爲にボンベイ全市の商業全く停止状態となる</p> <p>米國カリフォルニア州の飢饉行進サンフランシスコに向つて行はる</p>

月日	19	20	21	22	23	25	27	28
學生の動き						福岡高校に「滿蒙問題研究会」生る		
國內の動き		心に成立すその主なるものは愛國勤勞黨の天野辰夫、平田實策、日本村治派同盟の津田光造、日本労働組合の坂本孝三郎、近藤榮藏、佐々井一泉等なり 社会民衆黨全國大會開催さる 文部省學生思想問題調査委員会は總計四回小委員会、十回、整理委員四回を重ね漸く學生生徒左傾の原因に就いての調査を終了第五回總會を開き中間報告をなす、更に進んで對策案を立案することとなる 日本フアッシュイズム聯盟生る、フアッシュイズムの團體は多數あれどフアッシュイズムと銘打てるものはこれをもつて嚆矢とす、機關紙「フアッシュイズム」を刊行す 大日本生産黨、津久井龍雄の愛國急進派合流により著るしく國家社會主義的色彩を有するに至る 産兒制限聯盟擴大中央委員會開催す 共立圖書回讀組合（舊プロレタリア圖書館）の機關紙「讀書の友」創刊さる						
世界の動き			國際聯盟支那調査委員會リットン卿を委員長に組織さる 新滿洲國家の國旗、五色旗に決定す 勞農政府第二次五ヶ年計畫（一九三三—三七）綱領を發表す 聯盟理事會開會、顏惠慶支那代表發議し我が佐蔭代表帝國の正當なる立場を聲明す 上海危機に陥り日本陸軍隊遂に上海支那軍と戦闘を開始す					

月日	19	30	末	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
學生の動き																		
國內の動き																		
世界の動き																		

月日	19	30	末	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
學生の動き																		
國內の動き																		
世界の動き																		

東京商大に共青商大細胞發覺、本科・豫科・商學専門部に亘つて三十餘名檢舉さる

大阪商大の盟休事件全學生に波及す

上海事件に關し帝國政府重大聲明をなす

安岡正篤、酒井伯、松本學等を中心に「國權會」創立さる
大日本青年同盟結成、會長に津久井龍雄就任す
「日本プロレタリア作家同盟」の機關紙「プロレタリア文學」創刊さる
「國民解放」基本主義標準の國民解放社の機關紙として創刊さる

日本プロレタリア文化聯盟（コップ）の大众的機關誌として「大衆の友」創刊さる
軍部文壇畫壇の人々により國民文化の普及、文學運動の國家主義的轉換のため「五日會」創立さる
コップ中央協議會選舉開争方針を發表す
共産黨員佐野學、鍋山貞親、唐澤清八等獄中より立候補す
井上前蔵相血盟團員小沼正（二二）のために

英米兩國滿洲事變につき重大抗議を提出す
ロシア共産黨第十七回大會モスコイに於て開催さる
上海事變に關し英米正式に抗議す

日本軍の上海總攻撃開始さる

月日	學 生 の 動 き	國 内 の 動 き	世 界 の 動 き
26 24 24-25	高知高校に「出征兵士慰問同志會」生る	射殺さる 「勤皇維新同盟」永井了吉等を中心に生る 神武會結成、會頭大川周明、副會頭河本大佐、月刊雜誌「日本」發刊さる プロット國際労働者演劇デーの記念公演完全弾壓さる	スペインに政治的罷業勃發す 新滿蒙國家建設會議奉天張景惠將軍邸に開催さる 新滿蒙國家は立憲共和制になすこと建國會議にて決定す 新國家の元首は溥儀宣統帝を執政として推戴することに決定す
2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	「尙友會」浦和高校内に生る	東京府第五區より立候補せる吉田某、共産主義宣傳のためなること發覺し檢舉さる 第三次普選投票終る、政友會三〇四名の絶對多數を獲得す 上海江灣鎮に於て爆彈三勇士壯烈なる最後を遂ぐ、國民的熱情益々高まる 文部省に於て學生・生徒主事會議開催さる 國際聯盟滿洲事變調査團リットン一行來朝す	ソヴィエット・ロシア政府工業指導者は高等法院の嚴重なる統制に服すべき旨決定す 新滿蒙國、國名を「滿洲國」と決定、國體、國旗の最終的決定をなす
2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	京都帝大の左傾學生・反建國黨反戦の大デモをなす 國家主義學生等中心となり廣島愛國青年聯盟結成、盛大なる愛國祭舉行、當日愛國行進に愛國學生聯盟關係の學生有志多數參加す	農本主義、自作中心主義を目的に日本村治派同盟を母體とせる農本聯盟、經濟運動に止るべきか政治運動に進むべきかに付意見一致せず遂に分裂す 日本勞務救済會準備會綱領規約發表さる 「赤旗」を活版印刷となし大衆化し、「第二無一新」の廢刊を決定す 第一次朝鮮共産黨事件報告等ハンストを決定す 從來の新興教育研究所は大衆的ならざる感ありとなし大衆教育の目的の爲同研究所を解體して新に「新興教育同盟」を組織する案中央常任委員會を通過す、機關誌「新興教育」 圓球勇男血盟團團長五郎の爲め射殺さる 「日本戰國的無神論者同盟」の機關紙「われらの世界」創刊さる	滿洲事變に關し、イギリス、ポーランド、チェコスロヴァキヤ、アメリカ等各國の共産黨日本を誹謗せる闘争宣言をなし檄を飛ばす 日本プロレタリア作家同盟、國際革命的作家同盟に正式加入す、但し五年十一月の第一回大會には非公式に代表出席 滿洲國建國宣言を中外に公表す 上海に於ける我が派遣軍に停戰命令下り、事件一段落す 宣統帝溥儀氏滿洲國執政就任を正式受諾遊ばさる

月日	學 生 の 動 き	國 内 の 動 き	世 界 の 動 き
6 5	大阪商大にストライキ勃發す 東京帝大内に共産黨學内細胞結成の運動振頭す	コップ中央協議會汎太平洋プロ文化記念週間闘争方針發表さる	
3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	第五高校の罢休事件激化す		
3 3 3 3 3 3 3 3 3 3			

月日	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
月日	28	26	24	23	22	20	15	14	13	12	11	旬上	9	8
學生の動き	<p>共産黨の「特別資金局學生班」左傾學生により組織され、活動を開始す</p>													
國內の動き	<p>國際聯盟調査團リットン一行退京す 滿洲國建國祝賀の催各地に行はる 日本勞農救済會準備會書記局新活動方針を發表す 血盟團の中心人物井上日召自首す 横濱市電ストライキを前に神奈川縣下左翼組織に弾壓下る 横濱市電従業員ストライキを執行す 横濱市電總罷業一日にして惨敗す 岩田愛之助を中心に「愛國青年聯盟」生る 東京地下鐵のストライキ決行、車體占領籠城の新戦術現はる 日本無産者消費組合聯盟擴大中央委員會、途中より創立大會に変更さる、委員長は戸澤仁三郎 濱口首相狙撃犯人佐郷屋留雄、死刑を求刑さる 日本プロレタリア文化聯盟幹部の大檢舉行はる 井上日召以下血盟團員の一味十三人殺人共同正犯として起訴さる</p>													
世界の動き	<p>宣統帝溥儀氏滿洲國元首に正式就任建國の大典行はる 滿洲國謝介石外交總長新國家の成立を國際聯盟並に重要なる十ヶ國の政府に對し通告す ソヴィエット聯邦第二次五ヶ年計畫案を布告す</p>													

月日	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3	3
月日	15	14	13	旬上	8	5	5	3	2	1	30
學生の動き	<p>〔國家社會主義全日本學生協議會〕準備會成立す(略稱「學協」) 御殿場東山莊に於て日本S・C・M研究會、開催、全國支部責任者出席し、七年六月大阪にて檢舉されたる同志社學生某の提案せるS・C・M行動綱領につき討議す</p> <p>〔無新〕廢刊赤旗の擴大強化に伴ひ從來の學内〔無新友の會〕は「赤旗友の會」となる</p> <p>東京帝大に共産黨學内細胞結成さる</p>										
國內の動き	<p>〔解放運動犠牲者救済辯護士團〕組織さる 勞教第一回擴大中央委員會「組織確立週間」「失業者の家」設置の件等を決定す 片岡鐵兵上告棄却原審通り懲役二年言渡さる 福本和夫共産黨より除名處分の取消を受け、復黨を許さる プロレタリア美術家同盟員多數檢舉さる 日本共産黨は無産者新聞を廢刊し、赤旗を唯一の機關紙となし從來の謄寫刷を活字印刷に改め刊行す、從來の「無新友の會」は「赤旗友の會」に解消す プロレタリア文化聯盟幹部本日迄に殆んど全部檢舉され同盟は全身不慮に陥る 東京映畫館爭議全市に擴大す 文部省の學生思想問題調査委員會は一月二</p>										
世界の動き	<p>滿洲國協和會設立執政の名により發表さる 馬占山滿洲國新政權に對し叛意を表はす</p>										

昭和七年 (皇紀二五九二年・西曆一九三二年)

月日	4	4	4	4	4	4	4	4	4
月日	29	24-15	23	22	21	旬中	18	15	15
學生の動き	<p>「國家社會主義全日本學生協議會」正式に結成さる。</p>								
國內の動き	<p>十九日以來對策小委員會を開くこと六回、整理委員會四回、本日更に小委員會を開き學生生徒左傾の對策を脱稿し小委員會の仕事を終了す。</p> <p>赤松克麿國家社會主義に轉向し社民黨を脱し新黨樹立を聲明す。</p> <p>「プロレタリア科學同盟」の小型新聞「われ等の科學」創刊さる。</p> <p>早稻田大學の林矣未夫博士を中心に「國家社會主義學盟」創立さる。七月二十一日「日本國家社會主義學盟」に解消す。</p> <p>日本村治派同盟中、政治運動を主張する長野朗一派は宮城信一郎、橋孝三郎等の参加を得て自治農民協議會を結成、權藤成卿の思想その指導精神となれるもの如し。</p> <p>昭和六年三月入露したる共青代表者等歸國同盟責任者となり中央部を再建確立す。</p> <p>東京映畫ゼネスト急轉解決す。</p> <p>第四回關西私立大學學生・生徒主事・學生監會議關西學院に於て開催さる。</p> <p>臨時帝國大學學生主事會議開催、思想問題につき協議す。</p> <p>「日本農民組合總同盟」結成さる。</p>								
世界の動き	<p>ヒットラーの率ひる國粹社會黨プロシャ議會選舉に大勝す。</p> <p>上海天長節祝賀式場に「鮮人爆彈を投じ白川、植田、野村各將軍、重光公使負傷す、白川大將は遂に薨去す。</p>								

月日	5	5	4	4	4	4	4	4	4
月日	5	5	2	1	末				29
學生の動き	<p>赤松克麿、津久井龍雄等世話校となり「全日本學生協議會」創立さる。</p> <p>各大學の學生消費組合(學消)の事務所一齊檢舉され左翼運動に密接なる關係ありし事明かになる。</p> <p>三月下旬東山莊に於ける、日本S・C・M研究會の全國支部責任者大會に於て穩健派と共產主義運動を是認する支部と意見對立京都支部は急進派の中心となり關西協議委員會を結成し實踐闘争に進出す。</p>								
國內の動き	<p>トーカー採用反對映畫從業員大會開かる。</p> <p>田中重軍大將等を中心とする陸軍在郷軍人の結社「明倫會」創立さる。</p> <p>源五郎丸芳暗ロシヤより歸國、「政治テーゼ草案」を批判す。</p> <p>日本赤色教授會は「救済ハウス」を設立して階級闘争犠牲者の救済に努む。</p> <p>舊行地社の機關紙月刊「日本」第八十五號より神武會の機關誌に轉向す。</p> <p>文部省學生思想問題調査會第六回總會に於て學生生徒左傾の原因並に對策可決その間總會六回、小委員會十七回、整理委員會八回、合計三十一回の會合開かる、第十三回(二月十二日)第十四回(二月十九日)の兩小委員會が文部省にて開かれたる以外はすべて文相官邸にて開催されたり。</p> <p>「日本國家社會新聞」創刊(國家社會黨の機關紙)準備會時代のニュースより引きつける爲創刊號を第二號となす。</p> <p>日本主義評論(勳章維新同盟機關紙)創刊さる。</p>								
世界の動き	<p>日支停戰協定成立し、兩國間の國交小康を保つ。</p>								

昭和七年 (皇紀二五九二年・西曆一九三二年)

昭和七年 (皇紀二五九二年・西曆一九三二年)

月日	學 生 の 動 き	國 内 の 動 き	世 界 の 動 き
5 5 5 5 5 5 5 5 5 5			
21 20 19 18 17 15 13 11 10 10 7	<p>「精照會」福島高商に生る</p> <p>「菊葉會」東京高商内に生る</p> <p>東京帝大に自治學生會を結成して策動せる 左傾學生處分さる</p> <p>「救國學生同盟」結成さる</p> <p>愛國學生聯盟、救國學生同盟代表西園寺公 邸を訪問し學國一致内閣要望の獻願書を提 出す</p>	<p>「プロレタリア映画同盟」機關紙「プロキノ」 創刊</p> <p>日本プロレタリア作家同盟大會解散を命ぜ らる</p> <p>「愛國法曹聯盟」生る</p> <p>五・一五事件勃發、十七名の陸海軍々人矯激 なるピラを擧ぎ首相暗殺其の他兇行をなす 橋孝三郎等の愛郷熱關係の農民同志帝都暗 黒化の役割を擔當参加す</p> <p>政友會後任總裁鈴木内相に決定す</p> <p>文部省より高等學校に對し思想問題に關す る良書の第四回推薦紹介を發表す</p>	<p>國際勞働事務局長アルベール・トーマ逝く ソヴィエト聯邦にてコルホーズ商業許さ る</p>
	<p>救國學生同盟、衆議院議長官舎を訪れ滿洲 國承認農村救済に關する陳情書を提出す</p> <p>拓殖大學生學校改革を叫んで同盟休校す</p> <p>長崎高商に「日本精神研究會」生る</p>	<p>し長谷川如是圓幹事主席となる</p> <p>造船聯盟大會開催、日本主義運動方針を決 定す</p> <p>齋藤非常時内閣成立す</p> <p>共産黨の所謂「三二年テーゼ」發表さる</p> <p>國家社會主義準備會は黨名を「國民日本黨」 として結黨大會を行ひたるも遂に決裂の止 むなきに至り、かくて「日本國民社會黨準 備會」は「日本國民同盟」を結黨し國家社會 主義新黨準備會は別に日本國家社會黨を結 黨するに至る</p> <p>日本國家社會勞働同盟結成、前日創立され し日本國家社會黨支持に決定す</p> <p>共産黨中央委員會技術部内に武器部を新設</p>	<p>アルトナ(ドイツ)にて船員港灣勞働者の第 一回國際會議催さる</p> <p>コミンテルン執行委員會西歐書記局インブ レコール第十二卷第二十三號に「日本の情 勢と共産黨の任務に關するテーゼ」を發表 し、我が國の共産主義運動に大なる影響を 及ぼす</p> <p>全獨逸に亘る失業者の飢饉示威運動勃發す</p> <p>スペイン・セヴィラに總罷業勃發す</p>

月日	學 生 の 動 き	國 内 の 動 き	世 界 の 動 き
5 5 5 5 5 5 5 5 5 5			
旬下 31 30 29 26 25 24 22 21-22	<p>共青内に學生對策部設置され、その指導の もとに東京帝大其の他の左傾學生瀧川問題 等を捉へて學生大衆に働き掛く</p>	<p>し長谷川如是圓幹事主席となる</p> <p>造船聯盟大會開催、日本主義運動方針を決 定す</p> <p>齋藤非常時内閣成立す</p> <p>共産黨の所謂「三二年テーゼ」發表さる</p> <p>國家社會主義準備會は黨名を「國民日本黨」 として結黨大會を行ひたるも遂に決裂の止 むなきに至り、かくて「日本國民社會黨準 備會」は「日本國民同盟」を結黨し國家社會 主義新黨準備會は別に日本國家社會黨を結 黨するに至る</p> <p>日本國家社會勞働同盟結成、前日創立され し日本國家社會黨支持に決定す</p> <p>共産黨中央委員會技術部内に武器部を新設</p>	<p>アルトナ(ドイツ)にて船員港灣勞働者の第 一回國際會議催さる</p> <p>コミンテルン執行委員會西歐書記局インブ レコール第十二卷第二十三號に「日本の情 勢と共産黨の任務に關するテーゼ」を發表 し、我が國の共産主義運動に大なる影響を 及ぼす</p> <p>全獨逸に亘る失業者の飢饉示威運動勃發す</p> <p>スペイン・セヴィラに總罷業勃發す</p>

昭和七年 (皇紀二五九二年・西曆一九三二年)

昭和七年 (皇紀二五九二年・西曆一九三二年)

月日	學生の動き	國內の動き	世界の動き
6 6 6 6 6 6 6 5			
14 13 10 9 6 5 4-6 2 1 1 1 末	<p>「スメラギ會」第六高校内に生る</p> <p>「國防研究會」東京商大内に生る</p> <p>選手制度廢止その他を要求し東京外國語學校生徒校舎に籠城、盟休に入る</p> <p>東京外國語城盟休團強制解散を命ぜらる</p> <p>東京帝大に中田黨教授を中心に國防研究會生る</p>	<p>資金の非常手段による獲得をめざす</p> <p>全協一般使用人組合教育労働部の書記局解體問題起る</p> <p>「國民思想」(愛國勤勞黨系雜誌)創刊さる</p> <p>日本労働組合自由聯合協議會(無政府系)の機關紙「労働者新聞」創刊さる</p> <p>共産青年同盟の準備機關紙「無産青年」同盟の唯一機關紙となり、「レーニン青年」は廢刊の旨同盟より發表さる</p> <p>青年將校血盟團と名乗る不逞文書貴族兩院方面に配布さる</p> <p>高岡高商に於て官公立商大高商學生・生徒主事會議協議會開催さる</p> <p>國難打開聯合協議會結成、日本國家社會黨、大日本生産黨、神武會、勳皇維新聯盟等之に参加、十二月六日新に新日本國民同盟、愛國勤勞黨等も亦参加す</p> <p>新興教育同盟準備會「教育新聞」を發行す</p> <p>五・一五事件の民間被害の中心人物橋孝三郎ハルピンに亡命「國民共同體王道國家」</p>	<p>ワシントンに於て失業發兵の飢饉行進行はる</p>

月日	學生の動き	國內の動き	世界の動き
6 9 6 6 6 6 6 6 6 6 6			
27 26 24 22 21 19 19 19 18 18 16 15	<p>山口高校に國家主義團體、「由道會」生る</p> <p>「滿蒙研究會」長崎高商内に生る</p> <p>「愛國學生聯盟」國難打開講演會を開催す</p> <p>「愛國學生聯盟」上海派遣軍將士の蕭京に際し盛大に歓迎す</p> <p>弘前高校に學生自治會の左翼組織結成され機關紙「建設」を創刊す</p>	<p>本建設論」執筆に着手、七月四日まで一千枚の原稿を書き終る</p> <p>共産黨の實踐的組織的中央機關誌として「黨建設者」(四六版)創刊さる</p> <p>大阪借家人協議會結成(大日本生産黨支持)さる</p> <p>「全協」青年部機關紙「労働青年」創刊さる</p> <p>「國體主義聯盟」結成、機關誌「社會と國體」を發刊す</p> <p>愛國獻納六機の命名式所澤飛行場にて舉行</p> <p>愛國機の獻納盛になる</p> <p>プロレタリア文化聯盟第二回擴大中央委員會を築地小劇場にて開催、直ちに解散を命ぜられ機戒裡に、街頭示威を展開、檢束者二百名及び重傷者を出す</p> <p>第二次共産黨事件公判個人訊問を漸く終る</p> <p>日本共産黨労働者派委員反對派「赤色ニュース」第一號を發刊す</p> <p>安達謙蔵半歳に亘る沈黙を守りファッショ</p>	<p>チリ―社會主義共和國を宣言す</p> <p>シヤム國に突如軍部の立憲君主制確立を目的とする革命起る</p> <p>シヤム革命達成す</p>

昭和七年 (皇紀二五九二年・西曆一九三二年)

昭和七年 (皇紀二五九二年・西曆一九三二年)

月日	7	7	6	6	6	6	6	6
月日	2	1						28
學生の動き	立教大學に純文學運動のものとして「文化聯盟」生る							
國內の動き	<p>的新政黨計畫を發表す</p> <p>「赤旗」特別號に五月二十六日コミンテルンより發表されたる「三二年テーゼ」(日本の情勢と共產黨の任務に關するテーゼ)掲載さる、これは「七月テーゼ」に代るものとして黨は絶対服従する事に決す</p> <p>「救援ハウス」後援會の規約草案成る</p> <p>國家主義團體の共同戦線にして永続的闘争同盟ならしむる目的をもつて大日本生産黨神武會、新日本國民同盟、國家社會黨等により「國難打開聯合協議會」組織されその活動注目さる</p> <p>横濱市程ヶ谷に共產黨専用印刷所建設に着手、但完成に先だち十月二十三日檢舉さる</p> <p>日本社會主義研究所機關誌「日本社會主義」(昭和六年十月一日創刊)を「國家社會主義」と改題す</p> <p>共產黨軍事部新設決定、七月中旬確立、軍部の赤化を策謀す</p> <p>日ソ文化協會(ソヴェット友の會)より分裂せる團體)の機關紙「新ロシア」創刊さる</p> <p>第二次共產黨事件公判昨年六月二十五日以來開廷のところ滿一ケ年、一〇八回に及び審理終了す</p>							
世界の動き	ベルリンに於て労働者の反ファッショ統一戦線協議會開催さる							

月日	7-8	7	7	7	7	7	7	7	7			
月日	18-2	17	17	15-20	15	15	15	11	10	6	5	5
學生の動き	救國學生同盟は日本大學講堂に本多熊太郎前駐獨大使、鈴木莊六陸軍大將を招き時局問題講演會を開催す											
國內の動き	<p>第二次日本共產黨事件の論告、黨幹部は死刑或は無期を求刑さる</p> <p>左翼雜誌「前進」創刊さる</p> <p>赤松克麿夫人等を中心に「日本國家社會婦人同盟」結成さる</p> <p>新日本國民同盟の機關紙「新日本國民新聞」創刊さる</p> <p>五月二十六日コミンテルンより發表されたる「日本の情勢と共產黨の任務に關するテーゼ」に基づき日本共產黨中央委員會は宣言書を發表す</p> <p>愛國勤勞黨の外廓團體とも見るべき「皇國農民同盟」結成さる</p> <p>本年度文部省主催思想問題講演會開催さる</p> <p>日本國家社會黨の行動隊、國家社會主義青年同盟結成、日本プロレタリア文化聯盟に加盟す</p> <p>プロレタリア圖書館第一回總會開かる</p> <p>東京帝大にて思想問題資料展覽會開催さる</p>											
世界の動き	ドイツ國內に於ける國粹社會黨と共產黨との關係益々悪化し至る所に於て衝突勃發す											

昭和七年 (皇紀二五九二年・西曆一九三二年)

月日	7	7	7	7	7	7	7	7	7
月日	29	26	25	24	24	24	23	20	中旬
學生の動き	<p>御殿場東山荘に於ける基督教青年會の夏期學校は一部學生不穩言辭を弄し、監督者の命に従はず左傾學生の乘ずる處あるため、二十日より二十八日までの豫定なりしを協議の結果二十五日限りにて閉校となる</p>								
國內の動き	<p>共産黨の機關として軍事部確立さる 埼玉縣共産黨委員會議立八月一日檢舉さる 愛郷熱頭橋幸三郎ハルビン憲兵隊に自首す 全國勞農大衆黨と社會民衆黨の合同大會協調會館にて開催、新に社會大衆黨を創立す 中央委員長安部磯雄、書記長藤生久 社會大衆黨の創立に伴ひ社會民衆婦人同盟と無産婦人同盟の兩團體合併して社會大衆婦人同盟となる 共産黨被告佐野學等の公判廷よりの歸途を擁し極左労働者等被告の奪還を企つ 岩田愛之助、津久井龍藏等を中心とする獨</p>								
世界の動き	<p>ドイツ國粹、共産兩黨對立激化してプロシヤ政府遂に戒嚴令を布告す ソヴィエット・ロシアに於て政府の決定により手工業組合は生産品を公定價格にて中央消費組合に引渡すべき義務を解除され自由市場に製品を賣出し得るに至る ベルリンに於て共産黨大彈壓斷行さる ドイツ大統領ヒンデンブルグ元帥左右兩黨の抗爭激化に鑑み政戦休日の緊急令に署名す</p>								

月日	8	8	8	8	8	8	8	8	8	7	
月日	16	15-16	12	旬上	9	9-12	5-8	1-4	1	旬下	
學生の動き											
國內の動き	<p>立青年社」結成さる 神奈川縣下に共産黨資金局擴大會議を開催、特別資金局を家屋資金局と改稱、その擴大強化を策す 極左團體の一なる「産業労働調査所」の週間機關新聞「産業労働通信」創刊さる 東京地方「米よこせ會」會員三百名農林省へのデモを決行す 文部省思想問題東京地方講習會開催さる 文部省思想問題仙臺地方講習會開催さる 文部省思想問題札幌地方講習會開催さる 文部省より高等諸學校に對し思想問題に關する第五回良書推薦紹介發表さる 共産黨は飛行第一學校の經營に魔手をのばし之を革命運動に利用せんとす プロレタリア科學同盟の小型新聞「科學開拓者」創刊さる 文部省思想問題廣島地方講習會開催さる 「米よこせ會」に彈壓下り、關東消費組合幹部多數檢舉さる</p>										
世界の動き	<p>ドイツ、總選挙の結果、ヒットラー派第一黨となりしも絕對多數に達せず、併しヒットラー派は單獨内閣を主張し、しきりに示威運動をなせし爲、各地に於て左右兩派の衝突深刻に展開さる チリ大學學生、學園を根據として文治共和國を建設すと稱し革命的行動を起し鎮壓さる</p>										

月日	學 生 の 動 き	國 内 の 動 き	世 界 の 動 き
8 月 16-19			
8 月 17			
8 月 17			
8 月 22			
8 月 23			
8 月 25			
8 月 26			
8 月 27			
8 月 28			
8 月 29			
8 月 30			
8 月 31			

愛國學生聯盟夏季休暇を利用して長野、山梨、埼玉、栃木、茨城、千葉各縣下の農村渡弊の實狀調査並に遊説を行ふ

救國學生同盟夏季休暇を利用して八月埼玉、千葉、茨城、東京、神奈川、群馬の各縣に於て講演を開催す

社會大家黨機關紙「社會大家新聞」「社會民衆新聞」の番號を繼承して刊行さる

文部省思想問題福岡地方講習會開催さる

元労働黨書記長細迫兼光檢舉さる

國民精文化研究所官制發表さる

國民精神文化研究所所屬屋（文部次官）所長事務取扱以下職員發令さる

新興教育研究所、新興教育同盟準備會に再組織さる

文壇の右翼を代表する近松秋江等文化同盟を結成す

日本大學講師杉之原輝一共產黨資金局員として檢舉さる

解放運動犠牲者救援會、全國大會の決議により國際赤色救援會に加盟し日本赤色救援會と稱す

群馬縣共產黨委員會確立、九月二十二日檢舉さる

「救援ハウス」設立趣意書配布さる

ドイツ國粹黨員五名共產黨員暗殺の廉を以て死刑の宣告を受け爲めにドイツ政局重大化す、ヒットラー派は益々擡頭し來る

イギリス共產黨指導の下にランカシャの紡績工（二十萬）の罷業勃發す

アムステルダム國際反戰會議開催さる

月日	學 生 の 動 き	國 内 の 動 き	世 界 の 動 き
8 月 8			
8 月 8			
8 月 9			
8 月 9			
8 月 9			
8 月 9			
8 月 11			
8 月 15			
8 月 旬下			

昭和六年六月創立の「ソヴィエットの友の會」は七年五月日ソ文化協會と改稱、急進的左翼傾向を離れ純文化連絡機關として活動することになりしが、之に不満を有せしもの別に「ソヴィエットの友の會」を更生せしめ兩組織對立するに至る

河上肇博士「日本の情勢と共產黨の諸任務」と題する所謂共產黨の「五月テーゼ」を黨の依頼により翻譯す

共產黨は軍事科學圖書館を中野、淀橋、本所等にひそかに作り、反軍策動の調査研究を開始す

「兵士諸君に與ふ」と題するパンフレット第二輯黨中央部より發行、軍隊赤化を策す

全左翼團體を網羅して、解放運動犠牲者無罪要求無産團體協議會結成さる

日本無産者消費組合聯盟の機關紙「消費組合運動」創刊さる

京都市共產黨委員會事件に關聯し、同志社大學教授長谷部文雄等十六名檢舉起訴さる

「國際無産青年デー」の示威運動行はる

新日本建設研究會第一回會合開催さる

國際演劇オリムピアードに土方與志等三十餘名日本代表として出演決定す

日本共產黨軍事部機關紙「兵士の友」創刊さる

滿洲國承認の日滿兩國最初の正式條約たる

昭和七年（皇紀二五九二年・西曆一九三二年）

月日	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
月日	29	28	27	27	26	26	25	23	20	18	15
學生の動き	愛國學生聯盟、滿洲事變記念日をトして聯盟員を總動員して義捐金の街頭募集に進出す										
國內の動き	五・一五事件の黒幕の一人柴山巖本問憲一郎捕縛さる 大阪市共産黨委員會再建、但十一月に檢舉さる 「ソヴェエト友の會」神田佛教會館にて發會藤森成吉書記長となる 左翼労働組合團體の戦線統一のため「日本労働組合會議」結成さる 五月以來共産黨の運動資金網檢舉の所ほと根絶するに至る 昨年六月以來續行中の第二次共産黨被告人の公判終結言渡しは十月二十九日と決定す 國際演劇オリムピアード派遣代表送別の夕開會、直に解散を命ぜらる 「全協」第一回中央委員會秘密裡に開催、規										
世界の動き	日滿議定書新京に於て武蔵全權と鄭總理とにより調印さる コミンテルン執行委員會總會開催さる 印度の賤民選舉區制に反對絶食抗爭中のガンデーは英政府の讓歩により絶食を中止す ソヴェエト聯邦共産黨中央委員會總會開かる コミンテルン第十二回執行委員會は日本間										

月日	10	10	10	10	10	10	10	10	9	9	9	
月日	10	8	7	6	3	2	1	1				
學生の動き	拓殖大學に「國防研究會」生る											
國內の動き	約及び新行動綱領（舊綱領は三年十二月決定）を採決す 共産黨中央常任委員會中に特別委員會を設置當局の取締に策應せんとす 左翼藝術家聯盟の機關紙「レット」創刊さる 元京都帝大教授河上肇博士共産黨に入黨、但翌八年一月十二日に至り檢舉され、八年八月八日懲役五年の判決を受く 「解放運動犠牲者無罪要求無産團體協議會」結成さる 櫻田門事件犯人李奉昌に死刑の宣告あり、事件の概要發表さる 津久井龍雄を中心とする大日本青年同盟機關紙「大日本青年新聞」創刊さる ロシア革命記念日参加の日本労働代表九名ソヴェエト友の會により決定さる 大森の川崎第百銀行を共産黨の所謂赤色ギヤング襲撃し三萬一千圓を奪ふ 赤色ギヤングの岡山市中國合同銀行襲撃計畫發覺共産黨の檢舉さびしくなる 共産黨愛媛縣委員會組織準備會關係者檢舉											
世界の動き	國際聯盟支那調査團のレットン報告書公表す 馬占山軍潰滅、俄かに身をもつて露領に亡命す											

昭和七年（皇紀二五九二年・西曆一九三二年）

昭和七年 (皇紀二五九二年・西曆一九三二年)

月	日	学 生 の 動 き	國 内 の 動 き	世 界 の 動 き
10	10			
10	29			
10	28			
10	25			
10	19			
10	18			
10	16			
10	15			
10	11			
10	10			

「救國學生同盟」時事新報社講堂に於てリッ
トン報告書批判演説會を開催す
愛國學生聯盟、日本共產黨公判の傍聴券獲
得と左翼入場防止の目的を以て徹宵裁判所
前に陣取り入場券を獨占す

「唯物論研究會」組織さる
國民精神文化研究所教員研究科第一期生四
十七名の入所式神田一ツ橋の偲庵にて舉
行さる
「大同クラブ」結成さる、大日本生業黨、大
日本青年同盟、神武會、國家社會主義青年
同盟、洛北青年同盟の中堅分子を中心とす
市電ストライキに強制調停初めて適用さる
第二次共產黨の判決言渡しあり、佐野、三
田村、鍋山、市川等の巨頭はいづれも死刑
或は無期となる
文部省成人講座開講十周年記念式舉行さ
る
「三二年テーゼ」問題其の他の重要議案につ
き討議のため日本共產黨中央部は大會に代
へるべく全國代表者會議を熱海に開催せん
とし、各地方の代表者全部同地に參集のと
ころを一齊檢舉、爲に中央部並に地方の黨

ロシア共產黨はチノダイエフ等反スターリ
ン派幹部二十名を除名す
ヘンダーソン英労働黨首を辭任す
文教提攜の使命を帯び滿洲國文教次長等入
京す
ファッシスト十周年記念日イタリー全國に
亘り盛大に舉行さる

月	日	学 生 の 動 き	國 内 の 動 き	世 界 の 動 き
11	11			
11	11			
11	11			
11	11			
11	11			
11	11			
11	10			
10	10			
10	10			
11	8			
11	6			
11	6			
11	3			
11	2			

高松高商にストライキ勃發す
共產青年同盟學生委員會結成さる
國學院大學滿蒙研究會生る

國家主義團體大同團結への媒介たらん事を
期し神武會、大日本生業黨及び愛國勤勞黨、
新日本國民同盟、日本國家社會黨、東京帝
大七生社、拓殖大學魂の會、日本大學日
會等の學生・青年有志等「祖國維新は青年の
手で」「鐵線統一は青年分子の統一より」の
スローガンの下に大同俱樂部を結成す

愛國學生聯盟、國家主義運動の効果を充分

の組織潰滅一〇・三〇事件或は熱海事件と
稱す、風間丈吉、紺野與次郎等檢舉さる
富山縣小學校教員中心の富山再建共產黨檢
舉さる
日本共產黨は「全協」を黨の直接指導下に置
き君主制の問題をも全協行動綱領中に加へ
しむ
三田村四郎の無期判決に對し検事局控訴す
國民同盟の青年國民同盟準備會總會結成、
聲明書を發す
頭山秀三の檢舉により右翼陰謀計畫暴露す
新潟縣下の新生共產黨一齊檢舉さる、檢舉
三百餘、起訴二十四
東京市電爭議強制調停委員會は法定期間満
了日に圓滿解決す
熱海事件の後を受け臨時黨中央部結成さる

昭和七年 (皇紀二五九二年・西曆一九三二年)

昭和七年 (皇紀二五九二年・西曆一九三二年)

月日	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
11	18	19	20	21	22	26	26	1	1	1	3
學 生 の 動 き	<p>ならしむる爲聯盟員の介宿所愛國學生聯盟 學寮を開設す</p> <p>東京帝大文學部・戸田貞三教授を中心に「滿 蒙研究會」生る</p> <p>愛國學生等中心となり「護國義勇團」生る</p> <p>松本高校内に國家主義を標榜し、且左翼團 體に對抗する「白峰會」生る</p>										
國 内 の 動 き	<p>第五回プロレタリア美術大展覽會始まる</p> <p>日本勞働同盟結成、「國社盟」支持を決定す</p> <p>司法部内に赤化司法官事件勃發、坂本忠助、 富成養之助、福田力之等左翼運動に關係し 檢舉さる</p> <p>東京府下女子専門學校生徒主事懇談會開催 さる</p> <p>第五回關西私立大學學生監・學生主事會議 立命館に於て開催さる</p> <p>林榮夫博士を中心に「日本國家社會主義 學盟」創立、本學盟は昭和六年十月創立の 「日本社會主義研究所」が七年四月創立の 國家社會主義學盟に合流して出來たるもの なり</p> <p>新日本國民同盟の機關誌「錦旗」創刊さる</p> <p>陸軍省當局上智大學、鳴星中學の教育方針 に不満陸軍將校を引き上げしむ</p>										
世 界 の 動 き	<p>松岡洋右全權ジュネーヴに入る</p> <p>松岡全權聯盟理事會に於て堂々と我が主張 を闡明す</p> <p>ソグイエット・ロシヤに於て工業指導者は 自發的に勞賃値上を爲したる場合は嚴罰に</p>										

月日	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
12	4	6	8	13	13	13	13	13	13	13	22
學 生 の 動 き	<p>第二高校に於て左右兩派の學生對立衝突す</p> <p>愛國學生聯盟、東京帝大七生社等の國家主 義學生等團體擁護聯合會の活動的構成分子 として参加す</p> <p>「不動會」浦和高等學校に成立す</p> <p>九州帝大に「皇道會」生る</p>										
國 内 の 動 き	<p>急死せる共產黨員岩田義道の勞農葬、本所 公會堂に行はれ多數檢東者を出す</p> <p>神野信一を中心とする「國防獻金勞働協會」 協同會館に於て結成、「愛國勞働日」を設定 し勞賃銀獻納の實際運動を開始す</p> <p>國體擁護聯合會結成、神武會、大日本生産 黨、愛國社、明徳會、黒龍會、愛國學生聯 盟、七生社等々四十餘團體その構成分子を なす</p> <p>三十五大學教授有志による全國大學教授聯 盟東京會館に於て發會式を舉行す</p> <p>社會大衆黨第一回全國委員會開催さる</p> <p>日本國家社會勞働同盟は芝、協同會館に於 て正式創立大會を開催し名稱を「日本勞働 同盟」と改稱す</p> <p>京都帝大黒正巖教授私財を投じ日本經濟史 研究所を設立す</p> <p>國民同盟安達謙藏を中心に結黨す</p>										
世 界 の 動 き	<p>處せらるべきことに決定せらる</p> <p>聯盟總會に於て顏支那代表に次いで松岡代 表熱辯を振ひ帝國の主張を明確にす</p>										

昭和七年 (皇紀二五九二年・西曆一九三二年)

昭和七年（皇紀二五九二年・西曆一九三二年）

月日	学生の動き	国内の動き	世界の動き
12 12 31			ソヴィエト・ロシアの第一次五年計畫四年三ヶ月にて終了す ソヴィエト・ロシア政府は都市の食料難より單一旅券制度を布き都會への人口の流入を防ぐ

昭和八年（皇紀二五九三年・西曆一九三三年）

月日	学生の動き	国内の動き	世界の動き
1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 20 18 18 16 14 12 11 8 7-12 7 3 1	大日本生産黨青年部結成の影響を受け學生	左翼雑誌「勞農文學」創刊さる プロレタリア科學全國代表會議、プロレタリア科學同盟結成さる 陸軍始觀兵式より還幸の聖上陛下に愛郷熱生直訴を企つ 東京商大教授大塚金之助共産黨シンパとして檢舉さる 元京都帝大教授河上肇博士檢舉さる 皇道會機關紙「皇道運動」創刊さる 愛郷熱生の直訴事件に關聯し熱頭代理以下幹部檢舉さる 大森の赤色ギャング事件より發覺せる所謂非常時共産黨事件（二〇・三〇事件）記事解禁となる 非常時共産黨の家屋資金局資金部ブルジョア班・學習院班檢舉さる 川崎銀行の共産黨ギャングの三萬圓拐帶逃	ソヴィエト聯邦共産黨中央委員會及び中央統制委員會の合同總會に於てスターリンは「第一次五年計畫の總算」を報告す ベルリンに於てドイツ共産黨指導の下に労働者パーベン内閣反對の示威運動を敢行す

昭和八年 (皇紀二五九三年・西曆一九三三年)

月日	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
月日				30	30	28	28	27	25	23	22	20	
學・生・の・動・き	の右翼團體動く												
國・内・の・動・き	<p>亡者大塚有章檢事さる</p> <p>大日本生産黨青年部結成さる</p> <p>プロレタリア演劇同盟の機關誌「プロレタリア」演劇創刊さる</p> <p>堺利彦(枯川)逝く(享年六十四)</p> <p>國難打開聯合協議會機關誌「國協會報」創刊さる</p> <p>河上肇博士市ヶ谷刑務所に收容さる</p> <p>プロレタリア産兒制限同盟機關誌「大産産兒制限」創刊さる</p> <p>共立圖書回讀組合をプロレタリア圖書館と改稱、機關誌「讀書の友」を發行す</p> <p>プロレタリア科學研究所組織を變更し日本プロレタリア科學同盟と改稱、機關誌「プロレタリア科學」「われ等の科學」「科學開拓者」等を發行す</p> <p>入露中の黨員山本正美コミンテルンの命を受けて歸國す</p>												
世・界・の・動・き	<p>ヒットラー派の勢力に押されシュライヘル將軍のドイツ内閣瓦解す</p> <p>フランスのボンクル内閣財政案討論中、信任投票に破れ辭職す</p> <p>ヒットラー遂に内閣を掌握することとなり聲明書を發し施設方針を明かにす</p> <p>ドイツ共産黨フアッシュ反對總罷業の檄を配布、策動す</p> <p>日・滿軍熱河、チチハル北平等に進出す</p> <p>スターリン、ロシヤ共産黨中央委員會の合同總會に於て「第一次五年計畫の業績」を報告、農村活動に就いて演説す</p>												

月日	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	
月日	24	20	旬中	11	11	11	11	8	4	2	1	
學・生・の・動・き	<p>「興國學生同盟」成る</p> <p>「學生報國會」東北帝大内に生る</p> <p>日本精神を基調とせる「七星會」第二高校内に生る</p> <p>桐生高工「國防同盟會」生る</p>											
國・内・の・動・き	<p>山口、愛知兩縣下に於て共産黨並に共産青年同盟關係の大檢舉行はる</p> <p>共産黨機關紙「赤旗」は本日より三月三十一日迄を讀者一萬人獲得闘争期間となし宣傳煽動に努む</p> <p>井上日召を中心とする血盟暗殺團に對する豫審終結す</p> <p>長野縣下小學校教員の左翼組織發覺し、檢舉開始さる、管下二市十二郡に亘り檢束者百三十八名に達す</p> <p>昨年十月争議發生以來紛争を重ね流血の慘を見たるシンガポール争議は神奈川県を調停にて圓滿解決す</p> <p>農民總同盟關東地方代表者會議開催さる</p> <p>所謂非常時共産黨の殘留分子野呂榮太郎等コミンテルンの命を受けて歸國せる山本正美と連絡をとり黨中央部再建を企つ</p> <p>プロ作家小林多喜二赤坂にて街頭連絡中逮捕され取調中心臓麻痺にて死去す</p>											
世・界・の・動・き	<p>ヒットラー内閣獨逸議會を解散す</p> <p>ヒットラー内閣は共産黨に對し大彈壓を下しプロシヤ全土に亘つて共産黨の示威運動を一切禁止す</p> <p>聯盟總會に於て滿洲問題に關する帝國の主張四二對一、豪權一(シヤム代表)にて被</p>											

昭和八年 (皇紀二五九三年・西曆一九三三年)

月日	3	2	2	2	2	2	2	2	2	
月日	3	1					28	27	26	25
學生の動き										
國內の動き	<p>共産黨のシンパとして檢舉されし大塚東京商大教授市ヶ谷に收容さる</p> <p>共産婦人黨員中本たか子九州にて逮捕さる</p> <p>全協中央常任委員長石上長壽等檢舉さる</p> <p>濱口前首相を射撃したる佐郷屋死刑の言渡を受く、右翼はその減刑運動を始む</p> <p>熊本縣下に於て全協の再建より共産黨の擴大強化を計畫せる黨員幹部等五十餘名檢舉さる</p> <p>和歌山共産黨縣下にて同志獲得のため活動中黨員等六十餘名檢舉さる</p> <p>全農全國會議は各府縣下の町村會議員選舉を利用し選舉闘争を企て且又工場農村に於て反戦委員會結成策動をなす</p> <p>大阪、佐賀、福島、和歌山、熊本各縣下に於て黨並に同盟關係者の大檢舉決行さる</p> <p>大アジャ協會發會、近衛文麿公、荒木陸相、村川堅固博士、小笠原長生子等を中心に皇國文化の宣傳普及、アジャ諸民族覺醒を促すため活動を開始す</p> <p>全國水平社大會を福岡市東中州劇場に開催、全国各地より參集せる代議員百五十八</p>									
世界の動き	<p>獨逸議會放火事件勃發、犯人は國粹社會黨員と傳へらる</p> <p>ヒットラー内閣は「共産黨の危險に對しドイツ總統令」を發し共産黨員に對する彈壓を強化す</p> <p>滿洲國建國一周年記念祭新京に於て盛大に舉行さる</p> <p>ドイツ共産黨首テールマン檢舉投獄さる</p>									

月日	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
月日	24	23	23	21	18	15	6	5	5	4	4
學生の動き											
國內の動き	<p>全國勞働組合同盟全國職物代表者會議東京芝浦會館に於て開催さる</p> <p>英國フェビアン協會の社會主義者・皮肉家・批評家・劇作家バーナード・ショー來朝す</p> <p>吉野作造博士逝く(享年五十六歳)</p> <p>衆議院本會議、思想對策に關する決議案を可決す</p>										
世界の動き	<p>日本軍熱河省都承德に入城す</p> <p>フランクリン・ルーズヴェルト米國第三十二代大統領に就任す</p> <p>資本主義並にファシズムに對抗すべく統一戰線設定に關しコミンテルン執行委員會全世界勞働者に對し發す</p> <p>アメリカ金融大恐慌來全國銀行四ヶ日休業、六日遂に金本位制を停止す</p> <p>ドイツ國會總選舉に於て國粹社會黨は九十二名増加、國權黨五十二名を加へ兩黨協力により壓倒的多數を獲得す</p> <p>フランス、ソ聯間の不侵條約締結さる</p> <p>イギリス首相マクドナルド、ローマにムッソリニ首相を訪問重要協議をなす</p> <p>ヒットラー總統國會に對して總統に對絕對獨裁權力の賦與を要求する法案を提出す</p> <p>ドイツ國會ヒットラー總統の全權委任法を可決、ナチス獨裁の覇業遂に成る</p> <p>イタリー、ファシスト黨組織以來十四周年記念日にあたりムッソリニ首相ファシスト精神を力説大氣焔をあぐ</p>										

月日	3	3	3	3	4	4	4	4	4	4	4	4
月日	27	29	31	1	1	2	3	3	4	4	5	5
學 生 の 動 き	慶應義塾大學内の共青細胞機關紙「慶應新聞」を「若き血」と改稱、組織擴大さる											
國 内 の 動 き	<p>聯盟脱退の詔書發表さる 齋藤首相聯盟脱退に關し告諭を發表す 鳩山文相聯盟脱退に伴ひ教育家の覺悟を促すため地方長官並に全國教育團體宛て訓令を發す</p> <p>大日本護國會、久保美喜、大木榮等を中心にして小倉市に結成さる 津久井龍雄、赤松克麿等を中心に日本主義の新雜誌「國民運動」創刊さる 札幌の失業者五百、「米をよこせ」と市役所に殺到す 大日本青年同盟第一回全國代表者會議開催さる 大日本護國聯盟、全國七十餘のファッショ團體を糾合して青山會館に於て結成さる 左翼藝術家聯盟春期總會開催さる 皇道會生、豫後備將官中心となり在郷軍人及び右翼農民組合を糾合して共產主義撲滅皇道政治の確立を期して結成さる 文部省省議は教育制度改善のため調査機關設置を決定す 「日本共產青年同盟の任務」なる論文「無青」</p>											
世 界 の 動 き	ドイツ全土に亘るユダヤ人彈壓は遂にベルリン全市の裁判所よりユダヤ人判檢事全部を強制的に放逐するに至る コミンテルン書記局に於て日本共產黨暫定規約を制定す											

月日	6	7	9	10	11	12	15	23	23	23	4	4	4
月日	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27
學 生 の 動 き	瀧川京都帝大教授著書發禁事件に伴ひ京都帝大學内左傾學生の策動表面化す												
國 内 の 動 き	<p>第三百三十一號に發表さる 大阪二十一右翼團體により亡國メーデー撲滅期同盟成り、挺身隊を組織しメーデー粉砕を決議す</p> <p>總同盟東京聯合代表者會議メーデー淨化を聲明す 瀧川京都帝大教授著「刑法講義」並に「刑法讀本」發禁となる 定例閣議は思想對策協議會を設置することに内定す 岡山縣下の再建黨員檢舉さる 思想對策協議會第一回打合會は首相官邸にて開催さる 瀧川教授問題のため小西京都帝大總長始めて上京文部當局は同教授の辭職を要求す 共產黨員中本たか子留置場より脱出す 信州皇民同盟(神武會、國社黨、生産黨、愛國勤勞黨分子の大同團結)「君萬民の皇道政治を確立し眞正日本の建設を期す」べく結成さる 留置場より退出したる共產黨員中本たか子遂に逮捕さる</p>												
世 界 の 動 き	アメリカ、ルーズヴェルト大統領世界經濟豫備會議に日本を招待すべきことを發表す 國權黨の前衛隊強硬團遂にヒットラーの國粹社會黨に解消する事を決定す												

昭和八年 (皇紀二五九三年・西曆一九三三年)

月日	學生の動き	国内の動き	世界の動き
4 4	愛國學生等は第一回「勤勞祭」に参加し愛國示威行進を行ふ	第一回愛國勤勞祭大阪に於て盛大に舉行さる	
4 4-5	早稻田大學内共青細胞「早稻田學生新聞」を發行す	等々力森蔵、平野力三に依り皇道會發會さる	
5 4-9	東京帝大學内に共産黨資金綱の組織發見す	熱海事件後の共産黨の中央委員長山本正美檢舉さる、野呂榮太郎は逃じす	
5 5	東京慈惠醫大共青細胞結成さる	滿洲共産黨(六年十一月事件)解禁、二十名起訴さる	
5 5	京都帝大瀧川問題に關聯し京都帝大内に左傾分子等ピラ撒き等によりしきりに暗躍す	文部省は各地方長官宛非常時國民運動第一次計畫を通報す	
5 5	京都帝大經濟學部學生は大會を開催、同學	各右翼團體五・一五記念闘争を行ふ	
5 5		明倫會、在郷軍人を中心に「天皇中心國家本位の道徳政治の確立」を標榜して結成さる	
5 5			ドイツ國民啓蒙宣傳省の指揮の下に國民的勞働祭舉行、國粹思想作興に努む
5 5			ヒットラー政府は勞働者消費組合並に赤色勞働組合を禁止す
5 5			ドイツ國粹社會黨學生はベルリン各圖書館を襲ひ反獨的書籍並に性科學資料を沒收す

月日	學生の動き	国内の動き	世界の動き
5 5	部教授連の瀧川問題に靜觀主義をとれるに對しその奮起を促す	京大瀧川教授休職に關する文官分限委員會開催休職原案可決さる	
5 5	瀧川問題のため京都帝大經濟學部學生一同の署名をもつて「經濟學部學生は教官の講義を辭退す」と決議す	京大法學部教授一同瀧川教授問題につき聲明書を發し「瀧川教授の學說に就いて見るに國家思想を破壊するが如きこと毫も容れず云々」と聲明す	
5 5	東北帝大法文學部學生は京都帝大法學部よりの派遣學生を迎へ學生大會を開き京大の全面的支持を決議す	野呂榮太郎、宮本顯治等共産黨中央部(インテリ派)を構成す	
5 5	瀧川問題に關聯して、京都帝大法・經・文學部聯合學生大會開催さる	勝俣胖、共青東京市學生對策部長となる	
5 5	慶應大學内に共青細胞發見す		
5 5	新潟縣下に共産黨家庭資金局出張所新潟醫大生等を中心に結成の事實發見す		
5 5	佐賀高校に於て左傾學生の讀書會準備會組織さる、六月二十日同校卒業生某モツブル關係にて檢舉せられたる結果發見す		
5 5-11	千葉醫大に「戰無同盟」結成さる		
6 2	東京帝大内の共青細胞特に活動す	新居格、久米正雄等を中心にドイツ文化問題懇談會を東京市内幸町大阪ビルに於て開催、ナチスの焚書に對し抗議文を發送す	

昭和八年 (皇紀二五九三年・西曆一九三三年)

月日	學 生 の 動 き	國 内 の 動 き	世 界 の 動 き
6 6 6 6 6 6 6 6	京都帝大法學部關係者の團體有信會全國大會に學生代表多數出席學生側の意見をのべ宮本法學部長は瀧川問題の経緯を發表す 京都帝大學生大會に於て學園の自治、學問研究の自由決議文並に文相問責を可決、飽くまで文部當局との抗争を聲明す	この會合が「學藝自由同盟」(七月一日結成)の母體となる 作家山本有三共産黨シンパの廉により檢舉さる	パリに於て反ファシニ歐洲會議開催さる
6 6 6 6 6 6 6 6	早稲田大學共青機關紙「早稲田學生新聞」を「そびゆるいらか」と改稱第一號を發行す 瀧川問題に關聯し京都帝大學生大會開催さる	第二次共産黨の中心人物の最高幹部佐野學綱山貞親の兩名獄中より共産主義の綱要を告白し轉向を聲明す 文部省伊東學生部長談話の形式にて京都帝大瀧川教授處分に關し同教授の思想は安寧秩序を亂し國家思想に背反するものなる旨を發表す 東京學務會議支部總會を中央佛教會館に開催せるも一時間にして解散を命ぜらる 七日轉向を聲明したる佐野、鍋山の共産黨の二巨頭「共同被告同志に告ぐる書」を配付轉向の真相を明にす 福本和夫轉向組を獄中より排撃し轉向に絶對反對を聲明す 小西京都帝大總長、瀧川問題を檢取し得ず遂に辭表を提出す	

月日	學 生 の 動 き	國 内 の 動 き	世 界 の 動 き
6 6 6 6 6 6 6 6	東北帝大にて瀧川事件についての學生大會を當局の禁止にも拘らず開催、紛擾を起す 京都帝大瀧川問題に關聯し東京帝大法・文・経済學部の學生等相聯絡をとり突如學生大會を開催紛擾を惹起す 瀧川問題により紛擾中の京都帝大に於て文學部中央委員、法學部東京派代表、文學部派代表等の内、京都及び東京にて共青學生對策部の指導を受けしこと發覺す 東京帝大美濃部教授の授業時間に突如學生大會開催され「學問の自由をよこせ」「瀧川教授即時復職」のスローガンをかゝげ法經文學生等騒ぐ	佐野鍋山の除名處分「赤旗」第四百四十二號に現る 井上、團兩氏暗殺の井上日召を中心とする血盟團の公判開始さる 「無青」に「佐野、鍋山の變節と策動に就いて全勤勞青年に聲明す」なる、黨の態度を表明せる記事掲載さる 京都帝大瀧川問題に乗じ共産黨並に共青同	ヒットラー總統は社民黨をも彈壓し一黨主義へ向つて猛進の氣勢深刻化す 社民主義の勞働組合に大彈壓を加へたるヒットラーは基督教勞働組合を「ドイツ勞働戰線」に解消せしめ全ドイツ勞働組合の統制を自らの手に掌握するに至る ドイツ國權黨首フーゲンベルグ辭表を提出國粹黨と友誼的協定を結び自ら解散を聲明す ドイツ、ヒットラー内閣は經濟問題に關する諮問機關として「經濟一般協議會」を組織すナチス統制經濟の一表現として注目さる
6 6 6 6 6 6 6 6	瀧川問題に關聯し「授業ボイコット」東北帝大にも波及法文學部學生等學生大會を開催「ボイコット」を決議す		

月日	7	6	6	6
月日	7	7	7	7
学 生 の 動 き	6	2	1	1
国 内 の 動 き	1	1	旬下	旬下
世 界 の 動 き				

京都府立醫大に共青細胞存在し瀧川事件に策動せること發覺す
中央大學に鮮人學生を首謀とする共青細胞發覺す

「國維」第十四號に於て松本學日本文化聯盟を組織し、之を第五インターナショナルとして日本精神の世界的光輝に向つて進むべきことを提唱す
日本プロレタリア科學同盟西地方協議會機關誌「西の開拓者」創刊、創刊號は「特異京大問題」と題しその中には五月三十一日附の「京大進歩面」の任務なる一文あり、購読者その他の職務を指令し居れり、瀧川事件に關しては當初より「科同」の策動ありしを物語る
松竹レゾー、關争護國水ノ江瀧子外百三十名檢束さる
マルクス主義研究より遂に實行運動にひき込られ市ヶ谷刑務所に收容されたる河上肇博士「獄中獨語」なる一文を夫人に送り今後は「關争の廢兵」として靜かに書齋に立ち還り實踐運動より絶縁する旨を表明す
佐野、鍋山の諱向に刺戟され三田村四郎、高橋貞樹、中尾勝男の三首領も諱向を聲明す

月日	7	7	7	7	7	7	7	7
月日	7	7	7	7	7	7	7	7
学 生 の 動 き	19	18	17	14	11	11	10	10
国 内 の 動 き								
世 界 の 動 き								

「京都帝大學生新聞」週刊(毎月曜日)の豫定にて創刊さる、但九月十八日の第四號を最後の刊行として自然消滅となる

京都帝大瀧川問題に關聯し辭任したる小西總長の後任として松井元興博士當選す
同志社大學教授長谷部文雄、同住谷悦治共產黨シンパとして檢束さる
ナチスの焚書に憤慨せる新居格、秋田雨雀、三木清、布施辰治、木村毅、中條百合子等を中心に「學藝自由同盟」創立さる
京都帝大瀧川問題に關聯して佐々木、兩宮本、森口、瀧川、末川の六教授免官閣議にて決定、即日發令さる
大日本生業黨、愛國勤勞黨等の極右分子によつて結成されたる大日本神兵隊の不穩計畫發覺す、「國防新聞」のため明治神宮講學館に参集の所を檢束さる、中心人物は安田鉄之助中佐、天野辰夫辯護士、前田虎雄(司令)鈴木善一等
思想對策委員會の教育に關する方策の第一次中間報告閣議にて承認さる

非常時或は新生共產黨のシンパとして檢束され去る十三日懲役四年の求刑を受けたる元商大教授大塚金之助懲役二年(執行猶豫三年)の寛大なる判決を受け服罪す
三・一五事件の被告西雅雄實際運動より書齋生活に轉向を聲明す

フランス社會黨全國大會に於てファッショ運動進展し黨議に反し陸軍豫算につき政府支持の態度を表明せるノイデル等八十名黨議を亂るものとして除名さる

昭和八年 (皇紀二五九三年・西曆一九三三年)

月日	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
月日	30	28	25	24	24	23	23	21	20	20
學生の動き	<p>瀧川問題に關聯して結成されたる「大學自由擁護同盟」本部を京都より東京に移し策動を繼續す</p> <p>瀧川問題に關聯して京都帝大法學部學生大會開催されたるも参加者少數なり</p>									
國內の動き	<p>京都帝大法學部の殘留九教授中七名は留任に決定する旨の聲明書を發表、辭職を固執する二教授も聲明書を發表す</p> <p>漢學學術調査研究團一行出發す</p> <p>國家社會黨全國中央委員會に於て國家社會主義派と現状維持派の抗争正而衝突し遂に國家社會主義派は脱退を宣告す</p> <p>五・一五事件第一回海軍軍法會議横須賀鎮守府軍法會議法廷に於て高須裁判長係りにて開かる</p> <p>五・一五事件陸軍側被告後藤以下十名に對する第一回軍法會議第一師團内法廷に於て西村裁判長係りにて開廷さる</p> <p>血盟團公判に於て井上日召裁判長及び陪席判事を忌避し大波瀾を惹起し遂に公判中止となる</p> <p>血盟團公判無期延期となる</p>									
世界の動き	<p>蔣介石國民政府最高會議を廬山に招集し對内對外政策を練る</p> <p>ドイツ、ニュールンベルヒに於てナチス黨員ユダヤ人の大迫害を執行す</p> <p>インド北部反英運動遂に爆發し、擾亂に陥る</p>									

昭和八年 (皇紀二五九三年・西曆一九三三年)

月日	8	8	8	8	8	8	8	8	7	7	7
月日	8	7	5	4	3	2	1	1			
學生の動き											
國內の動き	<p>「青年國家社會主義協會」別府駿介等を中心として結成さる</p> <p>「國民協會」赤松克廣、津久井龍雄等を中心に結成さる</p> <p>共青中央委員長石井照夫檢舉さる</p> <p>元京都帝大教授河上肇博士治安維持法違反第一回公判に於て檢事獄役七年を求刑す</p> <p>日本共産黨、清黨運動を起す</p> <p>日本労働同盟分裂、日本主義派は國家社會黨に合流す</p> <p>國家社會黨を離脱せる赤松克廣一派と大日本青年同盟との合流協議會開催、血盟團及び五・一五事件被告の減刑運動其の他新運動を決議す</p> <p>治安維持法違反事件に關し獄役七年の求刑を受けた河上博士に對し東京地方裁判所藤井裁判長は懲役五年を判決す</p>										
世界の動き	<p>り英空軍爆撃隊の出勤を見るにいたる</p> <p>米國ルーズヴェルト大統領海軍の大擴張案を裁可す</p> <p>コミンテルンの機關誌インブレット紙上に於て在莫斯科の片山啓、山本懸城、岡野登武の三名通署の下に佐野、鍋山を裏切者として痛烈に非難せる聲明書發表さる</p> <p>ドイツ、ヒットラー總統はイタリーに倣ひナチスの内治策完成のためナチス大評議會を設置す</p> <p>キューバ國に於てマチャド大統領に對する不満に端を發し反亂起る</p>										

月日	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
月日	23	23	19	17	16	15	15	12	12	10 9-11
學生の動き										
國內の動き	<p>關東防空演習舉行さる</p> <p>思想對策委員會は治安維持法改正に關する司法省原案を審議す、その主なる改正點は國體變革行爲と私有財産非認行爲との區別を明かにせる所に存す</p> <p>國家社會黨、五・一五事件の清瀬辯護人を解任すべきことを大角海相に要請す</p> <p>一月八日陸軍始興兵式に於ける愛郷學生の直訴事件判決言渡さる</p> <p>思想對策委員會の教育改善に關する方策の第二次中間報告閣議にて承認さる</p> <p>立正大學教授三枝博吉共產黨シンパとして檢舉さる</p> <p>五・一五事件陸軍側軍法會議に於て勾坂檢察官十一名の被告全部に對し禁錮八年を求刑す</p> <p>五・一五事件海軍公判の訊問を終る</p> <p>齋藤首相、鈴木政友會總裁を訪問し時局の</p>									
世界の動き	<p>キューバのマチャド大統領賜暇の形式にて退き、假大統領デセスピデス就任し、反亂落着す</p> <p>イタリー空の艦隊二十三機は七月一日オルペテロを出發以來三十八日間一萬三千哩を飛び北太平洋橫斷に成功しローマに凱旋す</p> <p>文化交流の使命を帯びドイツ、ベルリン大學のムザ教授ナチス文化紹介特使として東京に來る</p>									

月日	9	8	8	8	8	8	8	8	8
月日	5		30	29	26	26	25	24	
學生の動き									
國內の動き	<p>「赤旗友の會」の再編成についての主張(黨細胞への灣展的解消の主張)發表さる</p> <p>五・一五事件陸軍側公判結審の日、特別辯護人として被告等士官學校時代の舊師中村、大熊、細見の三少佐起ち、熱辯を振ふ</p> <p>五・一五事件海軍側公判は七月二十四日以来本日を以て第十九回に亘り開廷漸く證據調を終了す</p> <p>京都帝大法學部の再建漸く成り、本日中島法學部長より學生に對し新講師を發表す</p> <p>共青中央學生對策部長鶴丸昭彦の檢舉により中央學生對策部潰滅す、又中央機關紙部長前澤雅男の檢舉により機關紙部も潰滅す黨の經營の下に中等學校の新設計畫の行はれ居たることを發覺す</p> <p>佐野、鍋山等の轉向に刺戟され轉向者續出</p>								
世界の動き	<p>九月一日より上海に於て開催豫定の世界反戰會議に日本代表選出懇請のため八月二十一日神戸に向ひしマレー卿上陸を拒否され上海に逆戻りす</p> <p>第五回太平洋會議開會さる</p> <p>現ソヴェット政權に反感を有せる露國農民の反亂各地に勃發し、スターリンの故郷コーカサス、ジョルジャ附近にも反亂勃發す</p> <p>キューバに於て政治的總罷業、武装暴動勃</p>								

昭和八年 (皇紀二五九三年・西曆一九三三年)

月日	9	9	9	9	9	9	9	9	9
月日	17	16	15	15	14	13	12	11	11
學 生 の 動 き									
國 内 の 動 き	<p>す、七月末現在五百五十名と當局より發表さる</p> <p>河上博士令嬢地下潜伏中のところ大崎署に檢舉さる</p> <p>五・一五事件海軍側軍法會議、七月二十四日以来十九回開廷、漸く審理を終へ、山本檢察官論告、古賀清志、三上卓、黒岩勇に死刑、中村義雄、山岸宏、大庭春雄、林正義に禁錮六年、塚野道雄に同三年を求刑す</p> <p>共青同盟全組織潰滅の爲「無青」は第百四十八號をもつて發行中絶す</p> <p>布施辰治、上村進等十數名より成る「日本赤色救援辯護士團」檢舉さる</p> <p>五・一五事件海軍側被告に對する山本檢察官の論告過酷に過ぐとなす少壯將校の反對運動に對し、大角海相、野村横須賀鎮守府長官と重要協議をなす</p> <p>教育界の大不祥事長野縣の所謂二・四事件記事解禁、赤化教員七十七名起訴さる</p> <p>思想對策委員會の思想取締方策具體案閣議に於て承認さる</p> <p>河上肇、控訴を取下げ服罪す</p>								
世 界 の 動 き	<p>發す</p> <p>キューバの革命運動漸く鎮靜革命軍事委員會組織されサマルチル博士大統領に就任す</p> <p>オーストリアのナチスの本據グラツ市に於てドルフス首相の率いる祖國黨の大示威運動に當りナチス黨員と正面衝突をなし負傷者多數を出す</p>								

昭和八年 (皇紀二五九三年・西曆一九三三年)

月日	10	10	10	9	9	9	9	9	9
月日	10	6	3	26	21	20	19	19	18
學 生 の 動 き									
國 内 の 動 き	<p>京都帝大龍川問題に關聯して辭職したる佐々木憲一博士等全部立命館大學に招かれて開講す</p> <p>五・一五事件陸軍側判決あり、全部禁錮四年</p> <p>日本主義労働運動の指導者神野信一山口にて客死す</p> <p>プロ作家ナツプの中心人物・片岡鐵兵獄中より轉向を聲明す</p> <p>新日本國民同盟群馬支部結成さる</p> <p>五・一五事件民間側の被告、橋孝三郎、大川周明、頭山秀三、本間憲一郎等に對する公判開廷、大川、頭山、本間の三名は分離審議となり、橋より審理開始さる</p> <p>ナツプの中心人物たるプロ作家片岡鐵兵轉向し出獄す</p> <p>神兵衛帝都擾亂事件に主なる關係ありと見られたる天野辯護士ハルビン領事館に自首す</p> <p>五・一五事件民間側の公判最後の訊問に於て橋愛郷長農民の正しき指導が國家安泰の道なる事を陳述の結論に述べ訊問を終結す</p>								
世 界 の 動 き	<p>上海に反戦會議開催さる</p> <p>オーストリアのドルフス首相、獨裁政府樹立に成功、首相は五大臣を兼職す</p> <p>アメリカ合衆國とソヴィエト聯邦との外交關係正常に復活、十一月十七日正式にソ聯邦を承認す</p> <p>キューバ大統領サン・マルチン博士、革命委員會に辭表を提出す</p>								

月日	11	10	10	10	10	11	11	11	11	11	11
月日	14	14	15	18	30	2	3	5	6	7	8
學 生 の 動 き	<p>第五高校内に共産青年同盟の組織發覺、機關誌(赤煙瓦)を發行し熊本市内の中等學校生徒を目標に働きかけ策動中檢舉せらる</p>										
國 内 の 動 き	<p>所謂新生共産黨或は非常時共産黨事件のシンバ元東京商大教授大塚金之助清算の跡不明として檢事四年を求刑す 日本國家社會主義全國協議會結成のため全國代表者會議開催され、綱領・聲明書發表さる 横濱に於て共産黨立中學校の組織發覺し注目さる 所謂新生或は非常時共産黨の資金シンバ元東京商大教授大塚金之助に刑二年執行猶豫三年の控訴判決下る 總同盟關東同盟大會、新日本國民同盟臨時全國大會開催さる 三・一五事件、四・一六事件控訴公判始まる 風間文吉(田中清玄以後の黨中央委員長)轉</p>										
世 界 の 動 き	<p>ドイツ政府は國際聯盟脫退を決定、同時に又軍縮會議からも脱退の旨正式發表す ヒットラー總統特別總統令をもつて國會解散を斷行す イタリイ、ムッソリニ首相一般軍縮會議を即時放棄し軍縮問題の再檢討を力説す 片山潛(コミンテルン執行委員會の日本代表委員)モスコの官舎ルツクスに於て死去す</p>										

月日	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
月日	9	10	12	14	16	17	20	27	28	29	11
學 生 の 動 き	<p>明治大學豫科生徒授業料問題に關聯してストライキを行ふ</p>										
國 内 の 動 き	<p>向す 五・一五事件海軍側判決下る、禁錮十五年古賀清志中尉、同三上京中尉、禁錮十三年黒岩勇中尉、禁錮十年中村義雄中尉、同山岸宏中尉、同村山裕之少尉、禁錮二年伊東龜城少尉、同大庭春雄少尉、同林正義少尉、禁錮一年塚本道雄大尉 國民精神作興詔書發布十周年記念式典、明治神宮外苑、日本青年會館にて舉行さる 五・一五事件海軍側判決確定古賀元中尉以下六名小菅刑務所に送らる 「全協」の一齊檢舉記事解禁となる、檢舉者一、六九六名、黨・同盟關係二、五〇〇名、内起訴全協關係一五〇名、その他二四四名 野呂榮太郎(再建黨委員長)檢舉さる 赤化判事爲成養之助以下六名の檢舉事件記事解禁となる</p>										
世 界 の 動 き	<p>ドイツに於てナチス政權に對する國民の信任を問ふべき國民總選舉行はれ政府大勝す イタリイのムッソリニ首相は下院を廢止しギルド組織による立法機關の新設擴充を聲明す ワシントンに於てソヴィエツト代表リトヴィノフ、ルーズヴェルト大統領間に國交復舊交渉成立す 米國、ソヴィエツト・ロシアを承認す</p>										

月日	學 生 の 動 き	國 内 の 動 き	世 界 の 動 き
12 11	日本共産党中央財政部内に「學校對策部」を設置、財政活動に併行して學内組織の再建活動を指令したる「學校對策部活動方針テ一七草案」を發表す	五・一五事件民間被害者愛郷義長以下二十名にかゝる公判に於て木内檢事橋に無期懲役を求刑す	二日ローマに到着のソグイェット外務人民委員長リトヴ、ノフ、ムツソリニ首相と會見歐洲の平和工作につき意見の交換をなす
12 10	松本高校赤化事件勃發多數の關係者を出す	海軍關係各廠ボーナス減給に對して海軍本部反對闘争に立つ 政友會の松岡洋右代議士政黨解消を主張し政友會脫黨の聲明書を發表す 劇團「新劇場」の源氏物語の上演當局不許可方針を固持し絶望となる 大連共産黨員三十六名送局さる 陸海軍兩省は協議の上最近に於ける軍部の態度につき各種の批判行はれ軍民離間の策動ありとなし聲明書を發表誤解の一端に努む	アメリカ禁酒法を撤廃す
12 9			イタリア・ファシスト大評議會はムツソリニ首相の政治機構を組合的組織に改組する法律を採用す
12 8			シヤムの内亂騒ぎ一段落をつけ立憲君主制確立、新憲法による第一回國會開院式舉行さる
12 8			
12 7			
12 5			
12 4			
12 3			

月日	學 生 の 動 き	國 内 の 動 き	世 界 の 動 き
12 8-10		社會大衆黨昭和八年度全國大會を芝、協調會館に於て開催、従来の労働者農民一層張りの態度を捨て闘争、組織、政策の凡てを國民主義へ轉換す	スペイン各地に無政府主義者の革命暴動勃發重大化する
12 11		長崎醫大に博士買賣事件發覺問題となる 今泉定助、頭山滿、清浦伯等を中心に皇道發揚會、麹町區仁壽講堂に於て發會さる 政黨解消を主張し政友會を脱退したる松岡前國際聯盟全權日本青年館に於て第一聲をあぐ 皇國農民同盟、四條驛神社前に結盟さる	ソグイェット・ロシヤ極東農民に土地私有を許す
12 11		明年七月一日より實施のメートル法第一次猶豫期間を五年間延長する旨正式に發表さる	
12 18		皇太子殿下御誕生、全國に歡喜漂ぶ 小畑、大泉、熊澤光子に對する赤色リンチ事件發覺す	
12 23		松岡洋右「政黨解消聯盟」を結成、同時に衆議院議員を辭任、結盟の聲明書を發表す	
12 23			
12 23			

昭和八年 (皇紀二五九三年・西曆一九三三年)

月日	12	12	12	12	12	12
月日	20	28	27	25	21	
學生の動き						
國內の動き	<p>熊本縣下の赤化訓導丁某及び同人妻中心となり新興教育研究所の支部を結成、兒童新聞發行父兄に階級意識を宣傳中のところ發覺檢舉さる</p> <p>宮本顯治(野呂榮太郎檢舉後の黨中央委員長)檢舉さる</p> <p>皇太子殿下に「總宮明仁」と御命名の儀行はる</p>					
世界の動き	<p>ソヴェエト聯邦の文部人民委員として教育界に知られたルナチャルスキー逝く、享年五十七</p> <p>ソヴェエト聯邦中央執行委員會大會に於て人民委員會議長モロトフ日露間の平和を強調し、注目さる</p> <p>ルーマニヤのデユカ首相シナイヤ停車場に於て一學生のため射殺さる</p> <p>イタリー全國組合評議會に立法權附與さる</p>					

昭和九年 (皇紀二五九四年・西曆一九三四年)

月日	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
月日	18	17	16	15	14	13	12	11	10	8	5	3
學生の動き												
國內の動き	<p>「赤旗」印刷局キャブ中島捕はる</p> <p>法政大學野上學監休職處分に發端し豫科教授團内での正義を叫び紛糾す</p> <p>東京高師、國民精神文化研究所研究生指導科成業者の復學を内定、三月三十一日正式に發表す</p> <p>資金と右翼化問題よりして社會大衆黨に第二次清黨運動起る</p> <p>法政豫科教授四十七名辭表提出す</p> <p>大澤武雄に對する赤色リンチ事件發覺す</p> <p>法政大學豫科教授の所謂暗闘事件に關聯し辭表提出中の三十六教授を大學當局解職す</p> <p>共產黨のリンチ事件暴露す</p> <p>大阪西淀川區美津邊運動具店浦江工場従業員二四七名待遇改善問題に端を發し爭議に入る、十八日に漸く解決す</p> <p>憂國勞働農民同志會川口市に於て創立さる</p>											
世界の動き	<p>アメリカ外交政策協會、ルーズヴェルト大統領に對し、フィリッピンの永久中立案を進言す</p> <p>滿洲事變後外遊中なりし張學良上海に歸齋</p> <p>佛露新通商協定成立す</p> <p>支那福建革命政府中央軍に壓迫され潰滅す</p> <p>米國ルーズヴェルト大統領議會に對しドル平價切下に関する特別教書を發す</p> <p>ドイツ政府は新勞働法を發布五月一日より實施と決定す</p> <p>イタリー職業別代表法案の可決と共に自動的に下院消滅す</p>											